

平成28年度文部科学省委託事業

大学入学者選抜改革推進委託事業
**高大接続改革に資する、思考力・判断力・表現力等
を問う新たな入学者選抜（地理歴史科・公民科）
における評価手法の調査研究**

成果報告書

平成29年5月
学校法人 早稲田大学

目次

1. 本事業の目的	3
1.1 目的	3
1.2 実施概要	3
1.3 当該年度における業務実施計画	5
2. 調査研究のための組織編成	6
2.1 実施体制の編成	6
2.2 コンソーシアム会議	6
2.2.1 第1回コンソーシアム会議	6
2.2.2 第2回コンソーシアム会議	8
2.3 地理	9
2.3.1 第1回分科会	9
2.3.2 第2回分科会	10
2.4 歴史	10
2.4.1 歴史分科会開催に向けた意見交換会	10
2.4.2 大阪大学桃木至朗教授との意見交換会	10
2.4.3 シンポジウム「歴史教育の未来をひらくⅡ－知識の精選と歴史的思考力」	11
2.5 公共	11
2.5.1 第1回分科会	11
2.5.2 第2回分科会	12
2.6 制度	13
2.6.1 沖教授と須賀教授の意見交換会	13
2.6.2 須賀教授と河合塾佐藤先生の意見交換会	13
2.7 ワークショップ	13
2.7.1 第1回	13
2.7.2 第2回	15
2.8 主体性等分野との連携	15
2.8.1 第1回分科会	15
2.8.2 SGH 甲子園	16
3. 学力の三要素の評価の観点からの各大学における入試改革動向調査	17
3.1 調査対象選定の基準・方法の検討	17
3.1.1 選定基準	17
3.1.2 選定方法	19
3.2 調査観点の検討	19
3.3 調査実施	19
3.3.1 調査対象選定	19

3.4 文献調査	29
4. 高大接続システム改革に対応する各大学の入試対策に対する体系的改善策の検討	72
4.1 共通の議論	72
4.2 大学へのヒアリング	72
5. 本調査研究の内容、過程、成果の発信	89
5.1 第4回高大接続改革フォーラム	89
5.2 第2回ワークショップ	89
別紙	
1. 調査事例の選定候補	1
2. 第4回高大接続改革フォーラム意見交換内容	11
3. 第2回ワークショップアンケート結果	13

1. 本事業の目的

本章では、本事業の目的・概要を説明する。

1.1 目的

高大接続システム改革会議の最終報告において、大学入学者選抜改革の基本的な考え方が示された。ここでは、「これからの時代を生きる一人一人が、十分な知識・技能と、それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に自ら解を見出していくための思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育ていく」必要性が謳われており、知識だけではなく、学力の三要素に対する諸能力や経験をどの程度持っているかという観点で大学入学者選抜を進めるべきとされている。また、大学入学者選抜が「高等学校における指導の在り方の本質的な改善を促し、また、大学教育の質的転換を大きく加速し、高等学校教育・大学教育を通じた改革の好循環をもたらすものとなる」ことが求められている。

社会科（地理歴史科・公民科）は大学入学者選抜の試験科目として幅広く実施されており、高等学校学習指導要領の改革によって新たに必修化されるなど、入学者選抜改革においてインパクトの高い科目である。地理歴史科・公民科の科目において学力の三要素や、これにとどまらない各大学が必要とする能力を如何に問うかを明らかにし、大学が求める人材を適切に受け入れることを可能にするための評価方法開発が喫緊の課題となっている。

一方で各大学においては、大学として必要な人材を選抜するための入学者選抜方法開発を継続的に推進している中で、高大接続システム改革に対応するための個別具体的な問題点の整理、現行入試のどこをどのように変えるべきかという体系的な方法論の構築が十分でない現状がある。さらに、大学入学者選抜改革によって高等学校教育・大学教育の改革をもたらすためには、中等教育における新たな科目群と接続する、具体的な高等教育（大学教育）の在り方を提示し、これらの学問的連続性の中に入学者選抜を位置付けていかなければならない。

本委託事業ではこれらの課題に対し、有力大学における議論を深めるとともに、模擬的な試行試験の実施等を経て、今後入学者選抜改革を進める大学に評価方法開発の手法等を広く公開し展開することを目的とする。

1.2 実施概要

(1) 学力の三要素等評価と各大学の評価要素、入学者選抜改革状況の把握

参加大学の入学者選抜改革における、特に社会科の現状、改革を進めている場合はその方向性を確認し整理する。学力の三要素を計測する方法に関する議論と、新教科への対応の議論は本来別のものであるが、分野に特化した議論に近接させるため、早稲田大学ならびに連携大学において地理歴史科・公民科の入学者選抜に関連する大学教員を中心とした専門家により課題を整理する。ここでは各大学の入学者選抜の方法に着目し、各大学の入

学者選抜の改革の経緯と改善を目指す点、方法等を学力の三要素評価と関連付けて整理し、入試方法と評価事項の関連性について検証する。試験対象と試験実施の手法の関連の視点から入学者選抜試験（いわゆる一般入試、AO 入試、センター利用入試等）の在り方、試験実施の手法としてマークシート・記述・面接・調査書などの整理、試験実施の手法毎の測定事項としての学力の三要素や大学独自の評価視点との関連性などの論点で現状を整理し、ペーパーテストにおいて計測可能なもの、良い事例の収集、現状との比較を実施、計測できない要素を改善し対応する方法を検討する。

また、高大接続システム改革会議の最終報告等の検討における大学入学者選抜の課題を踏まえつつ、各大学の改革推進上の課題について検証し、入学者選抜実施プロセスにおいて変更すべき具体的な点を洗い出す。

（２）高大接続科目群の構想構築と各教科における評価方法開発

地理、歴史、公民の教科ごとに、入学者選抜試験の出題形式や作問方法について検討する。これに際しては、中等教育における新たな科目群と接続する、具体的な高等教育（大学教育）の在り方を構想し、中等教育・入学者選抜・高等教育（大学教育）の 3 つが連続すること意識した、入学者選抜試験のモデルケースを構築する。

それぞれの教科の新学習指導要領に基づき高校での学習内容を想定し、新必修科目を高校生全員が学ぶことを前提にした新たな高等教育（大学教育）の科目として、例えば歴史科に対応するグローバルヒストリー、公民科に対応するシビルエンゲージメントなど、中等教育での学びを深化させた科目を構想する。高等教育（大学教育）における学びの在り方を提示することによって、より深い学問的理解に基づく入学者選抜のモデルを模索する。さらに、複数の科目を組み合わせた合教科化の検討、新たな科目において問うべき知識と大学が求める能力評価の実現手法開発などを検討する。

これらの科目ごとの入学者選抜試験開発は(1)で検討した入学者選抜実施プロセス改善と組み合わせ、知識偏重型の入試から脱却した思考プロセスを重視する評価法による、社会科における入学者選抜試験のモデルケースとして策定する。

（３）試行試験の実施と評価

社会科における入学者選抜試験のモデルケースの策定を受け、この実現可能性を検証し、さらなる課題を抽出するため、作問・採点等入試プロセスの一部を試行する。学習指導要領を実践する立場の高等学校教諭が大学教員とともに分析に参画、課題抽出と実現性評価を実施する。

（４）調査研究成果のまとめと公開

調査成果については上記の実施項目ごとに結果を整理し、入学者選抜改革に取り組む大学の指針となるよう広く公開する。

学力の三要素や大学が必要とする能力の評価方法などの開発される成果については、早稲田大学においては平成 32 年度以降の入試開発にその知見を活用する。連携大学におい

ては、その各大学におけるアドミッション・ポリシーに従い入学者選抜を実施するが、平成 32 年度以降の改革に際して参考として活用する。

1.3 当該年度における業務実施計画

2016 年度は以下の業務計画にて実施する。

(1) 調査研究のための組織編成

代表校、連携大学の理事にて構成するボードミーティングを設置して、各大学の調査研究責任者を一堂に集めたコンソーシアム会議を開催する。また、大学間での課題を共有し、大学毎の社会科入試改革検討会議を開催する。

(2) 学力の三要素の評価の観点からの各大学における入試改革動向調査

社会科（地理歴史科・公民科）の現行入試における入試問題、評価方法、採点基準の分析、ならびに社会科（地理歴史科・公民科）の入試動向の調査、分析を行う。また、調査・分析内容を大学間で共有する。

(3) 高大接続システム改革に対応する各大学の入試対策に対する体系的改善策の検討

個別具体的な問題点を整理し、大学間で共有する。

(4) 本調査研究の内容、過程、成果の発信

連携大学の枠にとらわれず、大学・高校関係者など、本調査研究に高い関心を持つ学校関係者向けにワークショップやシンポジウムを開催し、ホームページ等の適切な媒体を利用し取組内容を情報発信する。

2. 調査研究のための組織編成

本章では、本事業を遂行するために編成した学内外の実施体制および各組織での実施内容を述べる。

2.1 実施体制の編成

早稲田大学内に、総長直下のコンソーシアム会議を設置し、全体のとりまとめや連携大学との連携や情報共有を実施した。また、科目や制度に関する個別具体的な検討は、監督する人文社会分野委員会の下に教科改革を検討する地理、歴史、公共分科会、制度改革を検討する制度検討分科会をそれぞれ設置した。

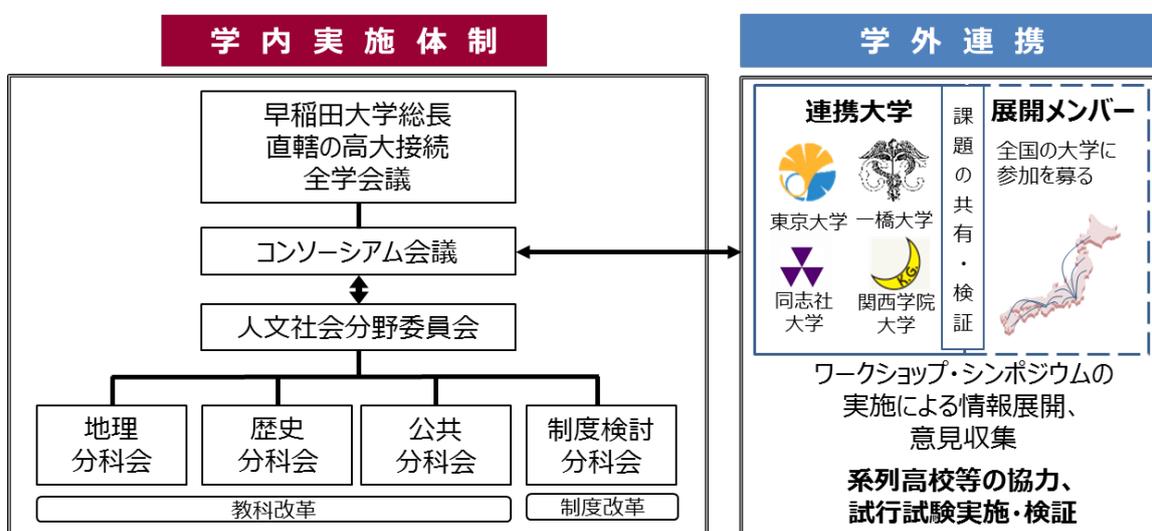


図 2-1 実施体制

以下の節では、各組織での実施内容を述べる。

2.2 コンソーシアム会議

2.2.1 第1回コンソーシアム会議

- (1) 開催日時 平成 28 年 11 月 18 日 (金) 16 : 00 ~ 18 : 00
- (2) 開催場所 早稲田大学 9 号館 5 階 第 1 会議室
- (3) 出席者
 - ・文部科学省
高等教育局大学振興課・角田課長、高大接続改革プロジェクトチーム・吉岡専門官
 - ・関西学院大学
小菅副学長、尾木高大接続センター次長
 - ・同志社大学
圓月副学長、多久和入学センター長、山田教授、青木教授、津村准教授、二村准教授、友淵入学課長、池上入学係長

・一橋大学

大月経済学研究科長、森准教授、田口入学課長

・東京大学

河本本部入試課副課長、山田本部入試課主任

・早稲田大学

佐藤教務担当理事、恩蔵入試担当理事、吉田教授、沖教授（入試開発オフィス長）、
須賀教授（政治経済学術院長）、田中（愛）教授、田中（孝）教授、西郷教授、
吉野教授、浅野教授、都丸教授、若田部教授、川岸教授、齋藤教授、池教授、
鈴木事務部長（政治経済学術院）

・事務局

早稲田大学教務部（松尾調査役、山田調査役、宿谷、高橋）

（４）配布資料座席表

- ① 名簿
- ② 本調査研究事業概要
- ③ 本調査研究事業業務計画書
- ④ 本調査研究事業今年度工程、全体工程案
- ⑤ 早稲田大学社会科科目の出題状況、政治経済学部での出題形態
- ⑥ 高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する特別チーム検討結果概要
- ⑦ 本調査研究の実施 3 箇年計画
- ⑧ 意見交換会場（25 号館）への案内図

（５）議事内容

- ① 主催者挨拶（早稲田大学：佐藤）
- ② 文部科学省、各校のご紹介
- ③ 文部科学省 ご挨拶（角田課長）
- ④ 早稲田大学の取組概要説明（早稲田大学：佐藤、事務局）
- ⑤ 高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する文部科学省審議会特別チームでの
論議について（早稲田大学：田中愛治）
- ⑥ 各大学の社会科入試の現状と特徴など
- ⑦ 今後の調査研究の進め方（事務局）
- ⑧ 会議参加者間の意見交換
- ⑨ 閉会の挨拶（同志社大学 圓月副学長）

（６）概要

キックオフイベントとして、早稲田大学より本事業の概要やスケジュールが示された。また、早稲田大の田中教授より、政府で検討中の入試改革へのアプローチや全体の方向性、考え方について情報提供がなされた。また、連携大学（東京大学、一橋大学、関西学院大学、同志社大学）より、それぞれの大学の社会科入試の特徴が説明された。

2.2.2 第2回コンソーシアム会議

(1) 開催日時 平成29年3月8日(水) 14:00~15:30

(2) 開催場所 早稲田大学26号館11階 1102会議室

(3) 出席者

・関西学院大学

北原高大接続センター長、尾木高大接続センター次長、大塚高大接続センター課長補佐

・同志社大学

多久和入学センター長、津村准教授

・一橋大学

森准教授

・早稲田大学

佐藤教務担当理事、恩蔵入試担当理事、沖教授(入試開発オフィス長)、須賀教授

(政治経済学術院長)、久保教授、池教授、都丸教授、戸堂教授、若田部教授、

田中(久)准教授

・立正大学

井之口講師

・事務局

早稲田大学教務部(松尾調査役、山田調査役、宿谷、高橋)

早稲田大学政治経済学部事務所(松本、伊藤)

(4) 資料構成

① 名簿

② 2016年度報告書提出、2017年度契約手続きに関する今後の予定

③ 2017年度 事業計画書(案)

④ 2017年度 予算計画書(案)

⑤ 2017年度の会議、イベントスケジュールについて(案)

(5) 議事内容

① 主催者挨拶(早稲田大学:恩蔵)

② 2016年度報告書提出、2017年度契約手続きに関する今後の予定(事務局)

③ 2017年度の業務計画、スケジュール(事務局)

④ その他(事務局)

⑤ 閉会のご挨拶(関西学院大学 北原高大接続センター長)

(6) 概要

年度末開催のため、2016年度の実施内容の共有、ならびに2017年度の事業計画が説明された。また、意見交換の場では、思考力を問う出題形式に関する議論がなされ、各分科会で出た意見が共有された。

2.3 地理

2.3.1 第1回分科会

(1) 開催日時 2017年1月8日(日) 14:00~16:30

(2) 開催場所 早稲田大学 26号館 11階 1101会議室

(3) 出席者

・河合塾 佐藤裕治講師：教育研究開発本部

・立命館大学 吉越昭久名誉教授：文学部

・獨協大学 秋本弘章教授：経済学部

・同志社大学 津村宏臣准教授：文化情報学部、

二村太郎准教授：グローバル地域文化学部

・早稲田大学 久保純子教授、池俊介教授：教育学部

・事務局 早稲田大学 教務部教務課 高橋

(4) 配布資料

① 「良問サンプル集」：高大接続改革に資する、思考力・判断力・表現力等を問う新たな入学者選抜（地理歴史科・公民科）における評価手法の調査研究について（業務計画概要版）

② 国の高大接続改革に対応した全体スケジュール（文科省参考資料）

③ 大学入学者選抜改革推進委託事業 選定機関

④ 高大接続改革に資する、思考力・判断力・表現力等を問う新たな入学者選抜（地理歴史科・公民科）における評価手法の調査研究について（詳細）

⑤ 入試改革（社会科）検討メンバー 一覧（本日段階）

⑥ 業務計画書

⑦ 関東・関西における主要大学での一般入試科目およびセンター試験の状況について（地歴・公民）

⑧ 平成28年度使用 都立高等学校及び中等教育学校（後期課程）用教科書教科別採択結果（教科書別学校数）

⑨ 各大学における教職課程の状況（学部課程／修士課程）

⑩ 高校地理歴史科・公民科教科書需要の推移

⑪ 大学入試センター／志願者数・受験者数等の推移

⑫ 2017年受験用 全国大学入試問題正解 16 地理（旺文社）

(5) 議事内容

① 第一回ワークショップ経過報告（久保教授）

② 各メンバーから「良問サンプル」に関する説明（吉越教授、秋本教授、佐藤講師、池教授、二村准教授、津村准教授）→近年のセンター・各私大入試問題より、思考力・判断力を問う「良問」の例を各メンバーが持ち寄り紹介した。

③ 学力3要素を、いかに評価するかについて

④ 新指導要領必修科目「地理総合」「歴史総合」「公共」の対応をどう考えるか

⑤ その他（早稲田大学：久保教授）

（6）概要

2017年2月6日に開催された「第1回ワークショップ」において、地理分科会での議論経過や今後の進め方について、中間報告を実施した旨を説明した。また配布資料「良問サンプル」に基づき、各メンバーから良問の定義、特に「思考力」、「判断力」、「表現力」を問う問題に関する意見が出された。

2.4 歴史

2.4.1 歴史分科会開催に向けた意見交換会

（1）開催日時 2017年2月10日（金）13:00～15:00

（2）開催場所 早稲田大学大隈会館8階秘書課会議室

（3）出席者

早稲田大学 佐藤理事、李理事、梅森教授、黒田教授

教務部（松尾調査役、宿谷、高橋）、大学総合研究センター（山田）

（4）議事内容

① SGU 関連

② 入試改革

（5）概要

合教科型や学力の三要素を受けて、早稲田大学を含めた大規模私大の歴史出題をどう変えるべきかの議論がなされた。また、早稲田大学が採択されたSGU（スーパーグローバル大学創成支援事業）の一環で、グローバルヒストリーと絡めた入試改革に関する議論がなされた。

2.4.2 大阪大学桃木至朗教授との意見交換会

（1）開催日時 2017年2月11日（土）19:00～21:00

（2）開催場所 品川

（3）出席者

早稲田大学：李理事、大学総合研究センター（山田調査役）教務課（高橋）

大阪大学：文学研究科 桃木教授

（4）配布資料

① 業務計画書

② 委託事業メンバーリスト

（5）概要

「高大連携歴史教育研究会」で主要メンバーとして活躍されている大阪大学・桃木教授に本事業への協力を依頼すべく、本事業の概要説明ならびに歴史科目に関する意見交換を実施した。

2.4.3 シンポジウム「歴史教育の未来をひらくⅡ－知識の精選と歴史的思考力」

(1) 開催日時 2017年 3月 20日(月) 12:30~17:30

(2) 開催場所 日本大学文理学部図書館3階オーバルホール

(3) 出席者

・早稲田大学 教務課 高橋(聴衆として参加)

(4) 議事内容

① 趣旨説明:小浜正子氏(日本大学・中国史)

② 報告1:小島孝太氏(愛知立犬山高校・世界史教育)

「歴史的思考力とその評価方法について」

③ 報告2:中村薫氏(大阪大学・社会科教育法)

「世界史B・日本史Bの用語選定案について」

④ 報告3:梅津正美氏(鳴門教育大学・社会科教育学)

「社会研究(Social Studies)のための歴史教育」

⑤ 紹介:川島啓一氏(同志社高校・世界史教育)

「高大連携歴史教育研究会・教材共有サイトについて」

⑥ 報告4:渡辺哲郎氏(日本大学習志野高校・世界史教育)

「高校日本史の授業をアクティブ・ラーニングにできるのか」

⑦ 報告5:小浜正子氏(日本大学・中国史)

「ジェンダー視点のある歴史教育とは何か」

⑧ コメント:赤間幸人氏(北海道教育庁・世界史教育)、小野雅章氏(日本大学・

日本教育史)

⑨ 総合討論

(5) 概要

高大連携歴史教育研究会が共催した当該シンポジウムに出席し、情報収集を行った。発表者からは、教科書モデルプランの作成による歴史的思考力の育成案、2000語前後に限定した用語選定案、アクティブラーニングを取り入れた高校日本史授業の事例等が報告された。総合討論では、試験における評価基準や、用語選定の統一性、教育目標としての歴史的思考力等に関する議論がなされた。

2.5 公共

2.5.1 第1回分科会

(1) 開催日時 2017年 1月 27日(金) 17:30~19:30

(2) 開催場所 早稲田大学 26号館 11階 1101会議室

(3) 出席者

・立正大学 井之口講師

- ・早稲田大学 齋藤純一教授、川岸令和教授、若田部昌澄教授（政治経済学部）
- ・事務局 早稲田大学 教務部教務課 高橋、政治経済学部事務所 松本

（４）配布資料

- ① 高大接続改革に資する、思考力・判断力・表現力等を問う新たな入学者選抜（地理歴史科・公民科）における評価手法の調査研究（業務計画概要版）
- ② 日本におけるシティズンシップ教育の課題と現状（井之口講師作成）

（５）議事内容

- ① 本調査研究における主旨説明および日程等について（齋藤教授、事務局）
- ② 本日の公共分科会の進め方

（６）概要

配布資料①を用いて、齋藤教授から、本調査研究の主旨や今年度日程について説明があった。事務局からは、業務計画概要や、次年度の人員体制等に関する説明があった。また、井之口講師が資料を説明した後、意見交換がなされた。意見交換では、シティズンシップの定義や、英国で実施されているシティズンシップ教育に関する議論がなされた。また、試行試験作成にあたり、収集すべき情報に関する議論がなされた。

2.5.2 第2回分科会

（１）開催日時 2017年2月23日（木） 10：30～12：00

（２）開催場所 早稲田大学 26号館 11階 1102会議室

（３）出席者

- ・立正大学 井之口講師
- ・東京大学 一ノ瀬教授
- ・同志社大学 青木教授、川崎教授、根岸准教授
- ・早稲田大学 齋藤教授、田中愛治教授、田中久稔教授
戸堂教授、須賀教授（政治経済学部）
- ・事務局 早稲田大学 山田、高橋、松本

（４）配布資料

- ① 学習指導要領の見直しにおける新しい地理・歴史・公民
- ② 良問サンプル

（５）議事内容

- ① 「学習指導要領変更について」（田中愛治教授）

（６）概要

田中愛治教授より、文部科学省での論議経過や考え方が説明された。特に「公共」については、4つの主体（政治的主体、経済的主体、法的主体、情動的主体）を基に議論された経過が説明された。また、井之口講師から良問サンプルの説明がされ、良問の定義について、概念や事柄に関する持ち合せの知識だけでなく、与えられた資料から読み取れる内容も踏まえて、推論を考察させる問題が該当するとの意見が出された。

2.6 制度

2.6.1 沖教授と須賀教授の意見交換会

(1) 開催日時 2017年2月7日(火) 10:30~12:00

(2) 開催場所 早稲田大学1号館地下会議室

(3) 出席者

早稲田大学入学センター：沖教授、渡邊課長、城座課長

早稲田大学政治経済学部：須賀教授(制度分科会)、松本

早稲田大学教務部：高橋

(4) 概要

今後の入試改革の課題や学生の内申書の電子化(e-ポートフォリオ)に関する議論がなされた。本事業では、具体的な試験内容ではなく、各大学が作問する際に参考になるような試験形式(学生の表現力・思考力などを問うことが可能な問題形式)を提案することが重要との意見が出された。また、e-ポートフォリオの活用によって、面接時間や評価者の負担削減が可能ではないかとの意見が出された。

2.6.2 須賀教授と河合塾佐藤先生の意見交換会

(1) 開催日時 2017年3月6日(月) 11:00~12:30

(2) 開催場所 早稲田大学3号館10階応接室

(3) 出席者

河合塾：佐藤先生、木山様

早稲田大学政治経済学部：須賀教授、伊藤、松本

(4) 概要

思考力を測る出題形式や評価方法に関して、予備校での取組を大学に活用する可能性が議論された。また、ポートフォリオの活用についても議論され、学生の個人差・得意不得意をつかむためにも必要であるとの意見が出された。

2.7 ワークショップ

2.7.1 第1回

(1) 開催日時 平成29年2月6日(月) 13:00~16:30

(2) 開催場所 早稲田大学7号館2階 206教室

(3) 出席者

・関西学院大学

尾木高大接続センター次長

・同志社大学

青木教授、越水准教授

・一橋大学

三隅役員補佐、石居教授

・東京大学

一ノ瀬教授、古城教授、河本本部入試課副課長、山田本部入試課主任

・早稲田大学

佐藤教務担当理事、恩藏入試担当理事、沖教授（入試開発オフィス長）、須賀教授
（政治経済学術院長）、池教授、久保教授、梅森教授、都丸教授、若田部教授

・事務局

早稲田大学教務部（横山事務部長、松尾調査役、山田調査役、高橋）

早稲田大学政治経済学部事務所（松本）

（４）配布資料座席表

- ① 議事次第
- ② 名簿
- ③ 早稲田大学 地理分科会資料
- ④ 早稲田大学 公共分科会資料
- ⑤ 早稲田大学 歴史分科会資料
- ⑥ 早稲田大学 制度検討分科会資料
- ⑦ 入試改革（社会科）検討メンバー一覧
- ⑧ 連携大学資料集

（５）議事内容

- ① 主催者挨拶（早稲田大学：佐藤）
- ② 中間報告（早稲田大学：地理分科会：久保）
- ③ 中間報告（早稲田大学：公共分科会：若田部）
- ④ 中間報告（早稲田大学：歴史分科会：佐藤）
- ⑤ 中間報告（早稲田大学：制度検討分科会：須賀）
- ⑥ 各連携大学より、入試および、入試改革に関する現状の発表（東京大学、一橋大学、同志社大学、関西学院大学）
- ⑦ 本日のまとめ（早稲田大学：恩藏）
- ⑧ 今後の調査研究と、第２回ワークショップに向けて（事務局）
- ⑨ 閉会ご挨拶（三隅役員補佐）

（６）概要

分科会ごとに検討の進捗報告、および連携大学における入試・入試改革の現状の発表が行われた。

地理分科会からは、従来から選択式の問題でも発問の仕方次第で、「思考力」、「判断力」を問うことは可能であるとの意見が出された。

公共分科会からは、神奈川県の県立高等学校における「シティズンシップ教育」の現状報告や、今後、既存の入試問題（サンプル）を収集・分析、英国や神奈川県等で実施されている「シティズンシップ教育」の成果と問題点の実証的な検証等を予定していることが報告された。

歴史分科会からは、「グローバルヒストリー」観点から歴史教育の見直しに関する報告がなされた。

制度検討分科会からは、「希望者テスト」のようなものを、学力を担保するテストとして使いながら、学部独自で、「記述」をメインとした試験を行い、更に面接を加えて、最終的判定をするという改革の方向性が示された。また、早稲田大学の附属校と議論しながら、高校からのポートフォリオを作成することで、7年間でどのような教育を行い、その結果として、どのようなものが身に付いたかを記録として残す作業を実施することが示された。

2.7.2 第2回

5.2を参照。

2.8 主体性等分野との連携

2.8.1 第1回分科会

(1) 開催日時 平成29年1月24日（火） 10:30～11:50

(2) 開催場所 早稲田大学26号館11階 1101会議室

(3) 出席者

・早稲田大学 沖清豪教授（文学部）

藤井千春教授、三尾忠男教授（教育学部）

向後千春教授（人間科学部）

・事務局 早稲田大学 教務部教務課 高橋

(4) 配布資料

① 大学入学者選抜改革推進委託事業（評価基準）業務担当者会 記録（案）

② SGH 甲子園 主体性評価（案）

③ 関西学院配布資料

④ 入試改革（主体性等分野）検討メンバー一覧

⑤ SGH 甲子園リーフレット

⑥ SGH 甲子園応募要項

(5) 概要

本事業の連携大学である関西学院大学が幹事校の大学入学者選抜改革推進委託事業（主体性等分野）と協力した改革を推進すべく、本事業のメンバーとの意見交換を実施した。

事務局からは、本調査研究について、配布資料1）～6）に基づいて、本事業の概要・体制などについて説明があった。また、平成29年3月19日（日）開催予定のSGH甲子園には、恩藏教授・藤井教授・高橋で、審査に向かう予定であることを報告した。

意見交換では SGH 甲子園の評価基準や、入試改革における「主体性等の評価尺度」に関する議論がなされた。主体性をみる学習活動に関しては、「手書きのノート」を推奨して、それを活用した選抜方法を考えるべきとの意見が出された。

2.8.2 SGH 甲子園

(1) 開催日時 平成 29 年 3 月 19 日 (日) 10 : 00 ~ 17 : 00

(2) 開催場所 関西学院大学 上ヶ原キャンパス

(3) 出席者

・早稲田大学 恩藏直人理事

藤井千春教授 (教育学部)

榊原豊教授 (理工学部)

武沢 護講師 (教職研究科)

(事務局) 教務部教務課 山田、高橋

(4) プログラム

① 開会式

② 課題研究プレゼンテーション (口頭発表)

③ 課題研究ポスター発表

④ グループディスカッション

⑤ 表彰式・閉会式

(5) 概要

「主体性等分野」において検討中である「主体性の評価尺度」を検証するため、本事業のメンバーが審査員として参加した。

3. 学力の三要素の評価の観点からの各大学における入試改革動向調査

本章では、試行試験作成に向けて、学力の三要素や大学のアドミッション・ポリシーに記載された資質・能力を重点的に評価している入試事例を述べる。

3.1 調査対象選定の基準・方法の検討

3.1.1 選定基準

文部科学省における高大接続改革に関するこれまでの議論や、「大学入学者選抜改革推進委託事業」の業務計画書をふまえ、地理歴史科・公民科（地歴公民）分野の入試に関連して、以下のうち特筆すべき事例を選定し調査を行った。

- 学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を多面的・総合的に評価している入試事例
- 大学のアドミッション・ポリシーに記載された資質・能力を重点的に評価している入試事例

地歴公民における「学力の三要素」は、文部科学省の「社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて（1）」（平成28年8月26日）の「（4）「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方」の記載等を踏まえ、以下11項目のとおり具体化、整理した。

① 社会的事象等についての知識・技能

● 知識

● 基礎知識

社会生活、我が国や世界の地理、我が国や世界の歴史、現代社会の政治・経済・国際関係、人間としての在り方や生き方に関するものなどについての知識を持っている。

● 知識の峻別

用語・語句などを含めた個別の事実等に関わる知識と、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識とに分けて捉えることができる。

● 技能

● 情報選択

調査活動や資料活用など手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を選択できる。

● 情報の意味づけ

収集した情報とその信頼性を踏まえつつ「社会的な見方・考え方」に沿って読み取ることができる。

- 情報統合

読み取った情報を課題解決に向けてまとめることができる。

② 社会的事象等についての思考力・判断力・表現力

- 考察

「社会的な見方・考え方」を用いて社会的事象等の様子や仕組み、課題等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる。

- 構想

「社会的な見方・考え方」を生かして社会に見られる課題を把握して、身に付けた判断基準や複数の立場や意見などを踏まえて、解決に向けて構想ができる。

- 説明

適切な資料・内容や表現方法を選び、主旨が明確になるように内容構成を考え、自分が構想したことを論理的、効果的に説明できる。

- 議論

合意形成を視野に入れながら、他者の主張を踏まえたり取り入れたりして自分の考えを再構成しながら議論できる。

③ 社会的事象等に主体的に関わろうとする態度（主体性・多様性・協調性）

- 主体学習

学習対象としての社会的事象等について主体的、意欲的に調べ分かつようとして、他者と協働してよりよい結果を得ることができる。

- 主体参画

よりよい社会を目指して、学んだことを社会生活に生かすことができ、また、新たな問いに生かすことができる。

選定する特筆すべき事例としては、以下のような方策が取られていることが想定される。

① ペーパーテストにおける作問上の工夫

(例えば)

- 選択式問題における工夫
- 記述式問題、小論文問題等の導入・充実

② ペーパーテスト以外の多様な評価方法の導入や活用

(例えば)

- 面接や集団討論、プレゼンテーションの導入
- 調査書、活動報告書の活用

- 学習計画書の活用
- 資格・検定試験等の活用

また、特筆すべき事例を採用している大学の設置者、所在地域、規模に偏りがないような選定を行う。

3.1.2 選定方法

入試に関する膨大な情報から特筆すべき事例を、限られた資源で効率的に選定するために、雑誌記事からの事例収集や有識者に対するヒアリング等を行い、前述の選定基準を踏まえた事例の絞り込みを行った。

(1) 雑誌記事からの事例収集（以下、候補）

- 『大学時報』（一般社団法人日本私立大学連盟）
第 356 号（2014 年 5 月発行）～第 371 号（2016 年 11 月発行）の調査
- 『カレッジマネジメント』（リクルート進学総研）
Vol.184（2014 年 1-2 月号）～Vol.201（2016 年 11-12 月号）の調査

(2) 有識者に対するヒアリング

- 大塚 雄作 氏
（独立行政法人大学入試センター教授、副所長、試験・研究統括官）
- 松本 美奈 氏
（読売新聞東京本社 社長直属 教育ネットワーク事務局 専門委員）

3.2 調査観点の検討

選定した特筆すべき事例について、以下の観点から調査を行った。

- 学力の三要素を構成する前述の 11 項目を評価する入試問題の詳細とその特徴
- アドミッション・ポリシーに記載された資質・能力を評価する入試問題の詳細とその特徴
- 統一的評価の比較的難しい記述式問題、小論文問題、ペーパーテスト以外の評価方法において採用されている評価ルール、評価尺度

3.3 調査実施

3.3.1 調査対象選定

(1) 雑誌記事からの事例収集

以下の雑誌等記事を通じて事例の収集を行った。

- 『大学時報』（一般社団法人日本私立大学連盟）
第 356 号（2014 年 5 月発行）～第 371 号（2016 年 11 月発行）の調査
- 『カレッジマネジメント』（リクルート進学総研）

Vol.184 (2014年1-2月号) ~Vol.201 (2016年11-12月号) の調査
『蛭雪時代 7月臨時増刊 全国大学 推薦・AO 入試合格対策号 (2017年入試対策用) 』(旺文社) の調査

- 『全国大学入試問題正解 思考力問題の研究』(旺文社) の調査
- 『2017年受験用 全国大学入試問題正解 17 政治・経済』(旺文社) の調査
- 『2017年受験用 全国大学入試問題正解 18 地歴追加編』(旺文社) の調査

(2) 有識者に対するヒアリングの詳細

有識者に対するヒアリングを通じて事例や入試動向の収集を行った。ヒアリングの概要は以下のとおりである。

- 大塚 雄作 氏 (独立行政法人大学入試センター教授、副所長、試験・研究統括官)
日時 2017年1月23日 (月)
方法 ヒアリング
場所 独立行政法人大学入試センター副所長室 (東京都目黒区駒場)
同席者 山地 弘起 氏
(独立行政法人大学入試センター教授、試験・研究副統括官)

概要 新テストを検討する上での様々な視点と課題

- 現状のセンター試験においても、思考力・応用力を問う問題を奨励するなど、さまざまな工夫がされている。
- 限られた試験時間では、試験の場で思考させる問題を課すより、普段の学習において十分に考えることで得られるはずの知識・理解問題を課すということも視野に入れるべき。
- 合教科・合科目などの試験問題は、どの科目を合わせるかの組み合わせが無数にできるし、また、どの科目の力を見ているのか分からなくなる恐れがある。学習指導要領で、「総合」と付される科目が提案されているが、それによって出題の範囲が定められれば、入試センターとしても作問対応が可能である。
- センター試験は、入試に利用されるのみならず、設問自体が高校での教育利用の素材となる側面を持っている。
- 定められた範囲を偏りなく含むテストを作成する必要があるので、限られた試験時間に対し設問のバランスを確保するために、問題作成の委員は毎年苦慮している。

採点基準について

- 思考力等を問う記述式の問題については、採点基準をどう定めていく

かということが課題になる。

- 早稲田大学や慶應大学のような大規模大学の場合、論述問題を採点するならば、ある程度受験生を絞り込まなければ対応が難しくなるのではないか。
 - ケンブリッジ評価部門より聞いた話では、GCE*-A レベル試験では記述式が採用されているが、その採点結果は受験生に Web で公開される。採点結果に不服がある場合は、不服申請を受け付けている。
- *GCE (General Certificate of Education) は、イギリスのシックスフォーム (中等教育最後の 2 年間 (16~18 歳)) 修了時に希望専攻分野に応じて受験する制度。中等教育の修了証明となり、A レベル、AS レベルに分かれている。どのレベルの科目をどのグレードで取得したかにより、どの大学に入学できるかが決定する。記述式筆記試験が中心。
- 個別選抜の場合、受験者数や選抜の質によって、作問や採点基準の設計が異なってくる。

特徴ある入試を課す大学について

- さまざまな枠を設定して入試を実施している大学も多くなってきており、どの入試方法で入学した学生がどのように成長しているのか等を調べることができる。とよい。
- 大学教育再生加速プログラム (AP) 実施の大学は、実績が出ているところもあるのでヒアリング対象としてもよい。

専門家団体

- 高大連携歴史教育研究会 (<http://www.kodairen.u-ryukyu.ac.jp/>)
- 全国大学入学者選抜研究連絡協議会
(<http://www.dnc.ac.jp/research/nyukenkyou/kankoubutsu.html>)

-
- 松本 美奈 氏 (読売新聞東京本社 社長直属 教育ネットワーク事務局 専門委員)

日時	2017年2月22日(水)
方法	ヒアリング
場所	読売新聞会議室(東京都千代田区)
概要	<p><u>国立大学の試験科目における地歴公民について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別入試において、地歴公民が試験科目として入っている大学は非常に少ない。 ・ 教育学部においても5教科を入れていない。これは大きな問題であり、教育学部は必須であるべき。 ・ 論述式については自由記述が主流であるが、その学部で学ぶ内容と一致していないことが問題である。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーが結びついていない。結びつけるためのシステムがない。おそらく問題を作成する教員もこれらのポリシーを読んでいないのだろうと思われる。 ・ 地歴公民についてはほとんどの入試において、穴埋めが中心で高校の定期テストのようである。 ・ ほとんどの大学において面白いと思う形式をとっているところはなかった。 ・ シンガポール国立大学など、海外の学生は理系であっても自国の歴史を知っており、歴史を語るのが好きである。年号などの細かい知識でなく、流れを知っていることが今の自分たちを支えているということを彼らは知っている。自国の文化の基礎である地歴公民を、なぜ個別試験で問わないのか。 ・ 中国、九州地区では、地歴公民を試験科目として採用している国立大学がほとんどない。結局は2次試験の受験科目を絞り、楽にさせて受験生集めに走っており、アドミッション・ポリシーの形骸化を招いている。

資質能力を評価している大学

- ・ 追手門大学のアサーティブ入試は面白いが運営は大変だろう。
- ・ お茶の水女子大の新フンボルト入試(図書館入試)もユニークな取り組みである。
- ・ 高知大学は元々医学部入試がユニークで、そのノウハウを横展開する形で、地域協働学部を設置するにあたりAO入試Iでゼミナール活動適正試験など新たな取り組みを始めたが手間がかかっている。

3つのポリシーの形骸化

- ・ 読売新聞が毎年実施している「大学の實力」調査において、「入学までに習得して欲しい科目」を調べたところ、文系、理系ともに一律的に英・数・国を挙げている。多くの大学において、アドミッション・ポリシーとして受験生に求めている資質と、その資質を判定する入試科目が一致していない。これこそアドミッション・ポリシー形骸化の表れである。
- ・ 「大学教育」より「大学経営」が優先されていることを痛感している。
- ・ 受験者に対して、大学で何を学びたいのか、どのような価値を生み出したいのかを問うて表現させる入試の場を構築することが理想ではないか。そうならないことに入試制度設計の課題がある。
- ・ OECD（経済協力開発機構）の調査では、日本では18歳層以外の大学在籍者が極端に少ない。例えば、25歳の学生の割合は0.07%しかいない。
- ・ 日本の大学は「おこちゃま」を対象としており、年齢的な多様性がない。その結果、企業が社員を派遣したくなるようなカリキュラムになっていない。
- ・ 自分の大学はどんな社会を作りたくて、そのためにどんなミッションを成し遂げたいのかが把握できていない。これを具体化するものが3つのポリシーであるべきなのだが。
- ・ 3つのポリシーはもともと海外から入った概念である。例えばカナダでは、大学全体としてのアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーがあり、それを踏まえて各学部がそれぞれの3つのポリシーを作るので、大学全体と学部の階層がはっきりしている。日本では大学としての統一した3つのポリシーを持たず、学部ごとにバラバラである。

「書く力」の重要性

- ・ 「書く力」は大事である。最近の学生は、文章を書く作法や文章を書くうえで必要となる「読む力」が身につけていない。国立大学の学生すらそれができていない。
- ・ このようなことは小学校でも教えられなくなっているうえに、中学・高校でも教員の定員割れが発生しており、教員は英語・数学に集中している。教育現場ではそれが主流となっているが、英・数・国のうち、国語に最も教員を割くべきである。

-
- ・ 言葉を組み立てられない人は論理的思考ができるわけがない。
 - ・ 京大の特色入試は、こうした問題意識を踏まえたものだが、「書く力」は小中からの積み上げが大切なので、高大接続を意識するだけでは効果は限定的である。また学部の教員はアドミッション・ポリシーや入試内容を把握していないため、入試とカリキュラムが繋がっていない。
 - ・ このような問題の解決の糸口として、入試という枠組みだけでなく、小中高の繋がりが必要である。高校では基礎学力テストをしっかりと行い、生徒の言語能力を把握することが大切である。そのうえで高校入学までに最低限必要となる言語能力を中学に対し要求することが、繋がりを生むことになる。

基礎学力テストの活用について

- ・ 大学教員は学習指導要領をほとんど理解していない。これでは高大接続は無理である。
- ・ 現在予定している「高等学校基礎学力テスト（以下、基礎学力テスト）」とセンター試験に替わる「大学入学希望者学力評価テスト（評価テスト）」の評価を連携せずに、「基礎学力テスト」を入試に組み入れることができなかつたことは残念である。
- ・ フランスのバカロレアでは、あれだけの人数のテストを処理しているが先生が、自分で教えたものに対しての責務だと感じているので負担と思っていない。この基礎学習および教員のマインドセットこそ日本の高等教育に導入するべきである。
- ・ どのような入試方法でも、学習塾などは入試で点が取れる手法を編み出してしまふ。新しい入試方法により、意図する受験生評価が通用する賞味期限は1年間である。だからこそ高校での継続的な学習評価を行う基礎学力テストで入試をカバーすることが必要なのである。
- ・ ダイバーシティを前向きに受容でき、かつイノベティブな資質を持った生徒を選抜するユニークな入試を検討するための手段として、他大学で実施している既存の入試方法をベンチマーキングするという方法を採ったとしても成果が上がりにくいのではないか。

学生の伸びしろを育てる

- ・ ユニークな入試で選抜するよりも、オーソドックスな入試で特定の層を広く取り込み、入学後にハードな教育を行う大学がよい大学

である。

- ・ 今回の高大接続改革では、学生の伸びしろを捉えていない。
- ・ 横断型の学力を問うべきなのに、教科・科目で分けるのはナンセンスだと思うが、誰も大きな絵を描こうとしない。
- ・ 国際基督教大学や国際教養大学の取り組みは、その初期においては素晴らしかった。
- ・ 伸びしろが大きい大学：前橋国際大学、松本大学、長岡大学
- ・ 早稲田大学について言えば、学生に対するカリキュラム・アドバイザーが必要であり、カリキュラム・ポリシーに魂を入れる（マネジメントする）のは職員が担うべきであると思う。
- ・ 早稲田大学がアドミッション・ポリシーを意識した入試を行えば他大学も追随するだろう。

（3）調査事例の選定

前述の調査設計及び、雑誌記事からの事例収集、有識者に対するヒアリングを踏まえて、調査対象となる大学入学試験事例候補 57 件を収集（詳細は、別紙 1.調査事例の選定候補参照）し、その中から以下 15 件を選定した。

表 3-1 選定事例一覧

No	大学名	入試名称	特徴概要
2	宇都宮大学	AO 入試	第 1 次選考で、調査書、活動報告書のほか、進学後の「自己設計書」の提出を課す。また第 2 次選考では、センター試験成績のほか、プレゼンテーション、面接、グループディスカッションなどの結果を基に選考が行われる。各選考を通して、学力の 3 要素を総合的に評価する。
6	追手門学院大学	アサーティブ入試	「選抜型」入試から「育成型」入試への転換をコンセプトとし、入学前学習としてアサーティブプログラムの受講を課している。アサーティブプログラムは、個人面談や独自開発した教育支援システム MANABOSS（基礎学力適性検査、バカロレアバトル）、アサーティブノートを活用し、大学で学ぶ意欲、またそ

			れに見合う基礎学力や論理的思考、表現方法を入試前に育成する。
9	お茶の水女子大学	新フンボルト入試	ゼミ・講義参加型。 「のびしろ」(ポテンシャル)のある学生の選抜を目的としている。 文理複数科目の講義・演習(プレゼミナール)の参加とレポート作成、並びに附属図書館にて図書を参照しながら課題レポートを作成する「図書館入試」を実施。学問世界の体感の供与並びに到達結論だけでなく、試行錯誤の過程を観察することで総合評価を行っている。 (理系は「実験室入試」を実施する)
13	九州大学	21世紀プログラム入試	ゼミ・講義参加型。 入学後の修学課程を模した選抜方法を採用。2次選抜では、講義に関するレポート、討論、小論文、面接が実施される。 文理にとらわれない3つの講義を受講したうえでレポートを作成後、10名前後のグループにてグループ討論、さらに講義・レポート・討論を踏まえ小論文を作成する。評価はそれぞれ4段階で行われる。
16	京都大学	特色入試	高大接続と個々の学部の教育を受ける基礎学力を重視した選考を行う。高大接続の観点から、高等学校での学修における行動成果の評価と、「学びの設計書」等を通じて、受験者の学ぶ意欲と志を書類審査にて評価する。 基礎学力の観点からは、「能力測定考査」等を行い、個々の学部への適合力を測る。
18	慶應義塾大学	一般入試	日本史の一般入試(2015年)に注目した。 本試験では、複数の史料から情報を読み取り、80字程度で解答する短文論述問題が出題された。複数史料から時代背景を体

			系的に読み取るための「知識・技能」、また考察とともに、短文で要約するための「思考力・判断力・表現力」が求められる。
20	工学院大学	AO入試	2次試験にて、工学院大学主催の科学教室に支援学生として参加させ、潜在的な能力や素養を評価する。科学教室で授業支援やプレゼンテーションを行い、事後レポートを提出する。
21	高知大学	AO入試 I	ゼミ・講義参加型。 「関心・意欲・態度」を重点評価項目とし、「思考・判断」「技能・表現」も評価する。評価は志願書類、講義理解力試験、ゼミナール活動適正試験、作文、面接を通じて行う。作文では、ゼミナールの討議内容のほか、チームの運営方法、自分と他メンバーの役割などを評価し文章化することが求められる。
22	国際基督教大学	一般入試 (A方式)	総合教養(ATLAS)、人文社会科学又は自然科学、英語の3つの試験で構成される。 総合教養は「数量的領域」「言語的領域」「分析的領域」におけるリベラルアーツ教育への適性を測る。 人文社会科学では15分程度の講義を聞いた後、80分でA4用紙10ページ程(図表等も含む10,000字程度)の資料を読み解き30~40設問(マークセンス方式)に解答する。判断力、思考力、応用力が評価する。
23	国際教養大学	グローバル・ セミナー入試	ゼミ・講義参加型。 秋田県内の高等学校在籍者を対象に、志願理由書、グローバル・セミナーで作成したレポート、面接を通して総合的に評価を行う。 5月・8月に実施されるグローバル・セミナー

		(学生寮に宿泊)に参加し、1回のセミナーで5分野の講義をうけ、2つについてレポートを提出する。2回参加の場合は、4件の提出レポートのうち、内容の優れた2件を基に選考が行われる。 主に思考力、表現力を評価する。
39 東北大学	AO入試 (AO入試Ⅱ期)	国立大学初のAO入試実施校(同年(2000年)筑波、九州大学でも実施)。①選考方法・内容等は各学部の判断を尊重する ②各学部が実施主体を担い、アドミッションセンターは助言、情報提供の役割を担う ③基礎学力を重視すること、をAO入試実施の原則としている。 出願書類の内容(評定平均値)、小論文や筆記試験、口頭試問等を通じて基礎学力を測り、面接や活動報告書等を通じて意欲・適性・好奇心などを評価する。
43 長崎大学	一般入試 前期	多文化社会学部ではセンター試験、英語、面接のほか、批判的・論理的思考力テスト(総合問題)を実施している。 批判的・論理的思考力テスト(総合問題)では、文章・グラフ・地図・図表等を読み解き、持論・解釈を展開する必要がある。批判的思考力と思考内容を論理的に表現することができる力、及び世界の多文化状況に関する関心と理解を評価する。
50 北陸大学	21世紀型スキル 育成AO入試	コンピテンシー(行動特性)評価型。 1日(6時間)のプロジェクト・アドベンチャー研修への参加を課す。 主体性、協働性、課題解決力を3段階で評価する。評価は、ルーブリックを活用した自己評価を重視し、教員による観察評価が加味される。

55	山口大学	講義等理解力 試験	ゼミ・講義参加型。 2次試験では、面接及び講義等理解力試験を実施する。面接方法及び講義等理解力試験のテーマ、またその後の試験内容は各学部で異なる（グループディスカッション、プレゼンテーション、質疑応答、英語コミュニケーション能力に関する試験等）。これらの試験を通じて、基礎学力、創造的な思考力、意欲、適応力など多面的な評価を行う。
57	立命館大学	フィールドワーク 方式	2次試験では、対象地域の地図を読み、現地調査を実施する。地域の特徴を把握したうえで文献等の資料から得られる情報を活用し、分析・考察するワークを実施する。観察したこと、記録したこと、感じたことを整理し、的確に記述・表現する力、並びにフィールドワークの前提となる基礎的学力・知識を評価する。

※表記 No は、別紙 1「調査事例の選定候補」の No に準ずる

3.4 文献調査

3.3.2.(3)で選定した入試事例に関して、以下の項目について、文献調査を行った。

- 学部：出題された学部名
- 入試方法：一般、推薦、AO などの入試種別
- 科目：日本史、世界史などの分類。総合問題は「総合」と表記
- 解答形式：選択式、記述式などの解答形式
- 分類：学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）のうち、当てはまる要素
- 概説：問題の構成及び「1.2 調査観点の検討」で述べた観点からみた特徴的な点

<No.2> 宇都宮大学

出題年度	不明
学部	地域デザイン学部 コミュニティデザイン学科
入試方法	AO 入試 (定員 5 名)
解答形式	<u>第 1 次選考</u> ・調査書 ・社会的な活動経験についての報告書 ・進学後の自己設計書及びその他提出書類 <u>第 2 次選考</u> * () は配点 ・プレゼンテーション (300 点) ・グループディスカッション (300 点) ・面接配点 (300 点) ・大学入試センター試験 (900 点)
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	本入試では、第 1 次と第 2 次の 2 段階による多様な選考によって学力の 3 要素を多面的に評価したうえで合否判定を実施している。

第 1 次選考

調査書に加え、社会的な活動経験についての報告書、進学後の自己設計書による総合評価を実施しており、書類のオリジナリティや意欲を特に評価している。

- 社会的な活動経験についての報告書
出願者がこれまでに主体性をもって携わった社会的な活動歴及びその内容について記載する。
- 進学後の自己設計書
出願者の問題意識、意欲、関心について、コミュニティ学科での学びを通してどのように飛躍させ、地域に貢献することができるかを記載する。

第 2 次選考

第 1 次選考を通過した出願者に対し、以下の選考を実施する。

- プレゼンテーション
第 1 次選考の書類について、5 分間のオーラルプレゼンテーション。A0 版のポスターも使用可能。論理的説明力、表現力、コミュニケーション能力を含め、総合的なオーラルプレゼンテーション能力を評価する。

- グループディスカッション

試験当日に提示されるテーマについて、4～5 名程度のグループディスカッションを行う。主体的・協働的な姿勢、コミュニケーション能力など、地域と向き合うにあたっての基礎力を評価する。

- 面接

プレゼンテーション、グループディスカッションの内容及び本学科での適正・能力や学修意欲などについて評価する。

- 大学入試センター試験

当該学科 AO 試験入学者選抜の基本方針として下記が挙げられている。

1. 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力と思考力を備えているかどうかを重視します。
2. 地域社会（コミュニティ）をデザインすることに対する熱意と学際的学修へ向けた適性・能力を評価の対象とします。
3. 主体的・協働的な姿勢、論理的思考力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。

（引用：宇都宮大学「地域デザイン科学部のアドミッション・ポリシー」

<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/admission-policy20160516_RD.pdf>）

1. に関しては、プレゼンテーション・グループディスカッション・面接の合計点とセンター試験の合計点が 900:900 であることから、高校で学習する基本的な学力も重視していることが伺える。
 2. に関しては、社会的な活動経験についての報告書及び進学後の自己設計書を課すだけでなく、プレゼンテーションや面接を課すことで評価していると推察される。
 3. に関しては、プレゼンテーションやグループディスカッションによって評価していると推察される。とりわけ当該入試では、プレゼンテーション、グループディスカッション、面接、と 3 種類にわたる評価を実施していることから、書類だけでは得られない出願者の人物像を多面的に評価していることが伺える。
-

<No.6> 追手門学院大学

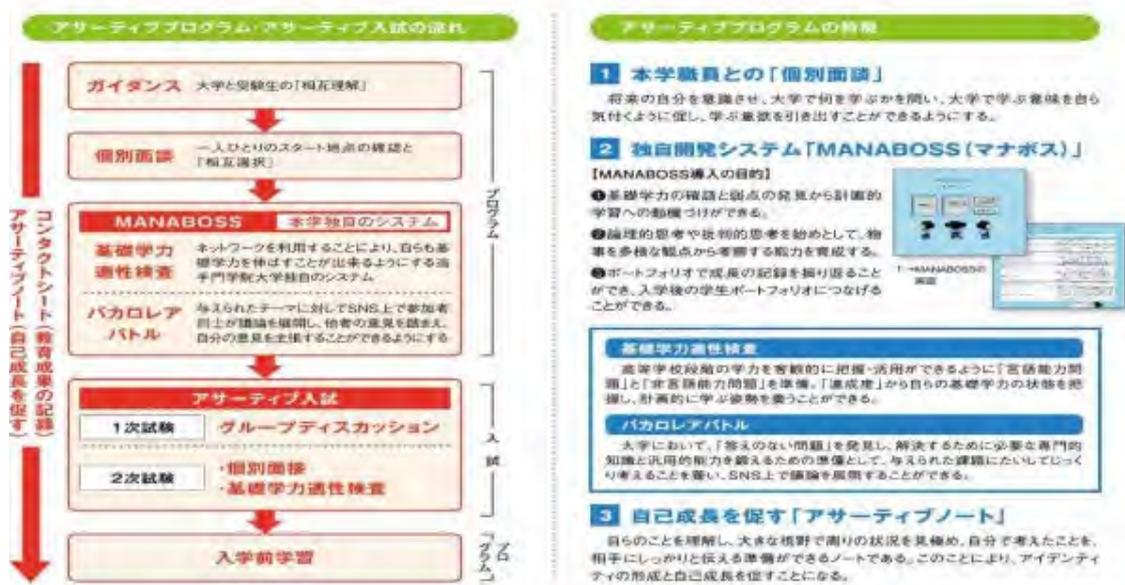


図 3-1 アサーティブプログラム・アサーティブ入試の流れ

(引用：文部科学省 平成 26 年度「大学教育再生加速プログラム」の選定取組概要資料 41.追手門学院大学 テーマ 3 (入試改革))

※2017 年度入試以降、基礎学力適性検査は 1 次試験の枠組みに変更

出題年度	2014 年度以降毎年
学部	全学部 (経済・経営・地域創造・社会・心理・国際教養)
入試方法	AO 入試 (定員 216 名)
解答形式	アサーティブプログラム参加 ※アサーティブ入試出願者は参加必須 ・個人面談、MANABOSS、アサーティブノート アサーティブ入試 ・1 次試験：グループディスカッション、基礎学力適性検査 ・2 次試験：個別面接 入学前学習
分類	「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	大学で学ぶ態度や学びへの期待、及び知識、主体性、思考力など学力の 3 要素を問う「アサーティブ入試」と、その前後にそれらの姿勢と能力を養う「アサーティブプログラム」で構成される。「選抜型」入試から「育成型」入試へ転換を図り、大学で学ぶ意味を考え、学ぶ意欲と姿勢をもった学生の入学を許可することを目的とした制度である。

アサーティブプログラム参加

主体的に学ぶ姿勢とアサーティブな態度（相手の意見に耳を傾けながら、自分の意見や考えを主張することができる態度、自分を知り表現することが大切）を身につけた入学者が増えることにより、教育目標である「生きる力」「学ぶ力」「考える力」を備えた人材を入学前に養成する。

プログラムは、個別面談とネットコンテンツ「MANABOSS」の活用、アサーティブノートへの記録の3つで構成される。

- 個人面談

大学職員と面談を行う。入試前の個別面談に回数制限はなく、大学と学生の相互理解を深めることでミスマッチを防ぎ、かつ大学での学修設計を主体的に構築していくことが可能である。

- MANABOSS

基礎学力適性検査（基礎学力養成）と追手門学院バカロレア（論理的思考や批判的思考力の養成）から構成される。

基礎学力適性検査は「言語能力」（国語）、「非言語能力」（数学）を押し上げるため、5 択約 1400 問題からなる（2015 年）。言語能力問題は、二語関係、同意語、反意語、慣用句、敬語等 13 分野から出題される。非言語能力問題は、推論、集合、確率、代金の精算、仕事算、損益算、装置と回路など 15 分野から出題される。これらの設問について、分野ごとの学習達成度をグラフ化し学習計画設計を促す（難易度は高校 1 年生程度まで）。

追手門学院バカロレアは、バカロレア問題とバカロレバトルで構成される。「バカロレア問題」には、『人はなぜ働かなければならないのでしょうか』『ダジャレの益と害について述べてください』『月曜の朝 8 時に、電車にのって携帯電話・スマホを操作している人は日本全体で何人いるのでしょうか』といったテーマが設定されている。自身の考えを記述したうえで、SNS 機能を活用した「バカロレバトル」で他の回答者と意見交換を行う。解答がないテーマに対し、参加者同士が議論を深めることで、大学での学びや社会で協働していくうえで必要な論理的な思考力や多面的に物事を考える発想力、複数の意見を踏まえて要旨をまとめていくといった「思考力・判断力・表現力」が育成される。

- アサーティブノート

思いを整理し、書きとめ、読み返すことで自己成長を確認し、主体性を育てるツールとして利用される。

アサーティブ入試

- 1次試験

1次試験はグループディスカッションと基礎学力適性検査が実施される。

グループディスカッションは5～6名1グループ、約30分間で行う。2015年度のテーマは、「動物園の動物は幸せか」。評価は個人面談を担当する専任職員が行い、アサーティブな態度、姿勢が身についているか、すなわち「主体性・多様性・協調性」を測る。また議論には論理性が必要であるから、「思考力・判断力・表現力」についても評価しているものと推測される。

基礎学力適性検査は、国語、数学各20問、60分で、MANABOSSに搭載している問題と同形式、同レベルで実施され、大学で学ぶにふさわしい基礎学力、「知識・技能」の有無を測る。

- 2次試験

受験者1名に対し、専任教員と専任職員各1名で面接を行う。志望動機や学習意欲、すなわち「主体性・多様性・協調性」を評価する。

入学前学習

入学前学習社会動向と自らの成長過程を対比し、将来（大学・将来）への思いを、約1.5ヶ月の期間で800字以内にまとめる。入学してからの学修イメージを描かせることで、主体的に学ぶ意欲の向上、つまり「主体性・多様性・協調性」の育成が可能であると考えられる。

【参考】

アサーティブ入試の求める受験生像は以下のとおりである。

1. 追手門学院大学で学びたいという気持ちを描き、その思いを伝えられる人
2. 今は確かな希望や理念がなくとも、知的な事柄への興味や活動を通じ、何のために学ぶのかを問い続け、努力する人
3. 高校までの基礎的な知識や技能の習得を見直し、向上しようと努力する人
(引用：『2015年度アサーティブプログラム・アサーティブ入試補助事業報告書』より抜粋)

参考にした文献

1. 『Between』2015年6-7月号,p19-p21,ベネッセ教育総合研究所
2. 追手門学院大学「アサーティブプログラム・アサーティブ入試」

<<https://www.otemon.ac.jp/assertive/>>

<No.9> お茶の水女子大学

【アドミッション・ポリシー】

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、幅広い教養と高度な専門性を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため不断に教育改革を進め、21世紀型文理融合リベラルアーツ教育の導入（2008年度）に引き続き、2011年度に複数プログラム選択履修制度を導入して新たな専門教育課程をスタートさせました。お茶の水女子大学では、すべての女性が年齢・国籍などにかかわらず自立した女性として、生涯にわたって多様に活躍できるキャリア形成の場を提供しています。知的好奇心と探究心を抱き、勉学意欲に富んだ学生の入学を期待しています。

【求める人物像】

本学での勉学に強い意欲と専門性を磨いていくために必要となる十分な基礎的学力をもっている。これに加えて、以下の項目のいずれかひとつ以上に当てはまる方を求めています。

1. 知識や意見を人に伝え、実践するためのコミュニケーション能力や応用力を備えている。
2. 真理の探究に対する憧憬と文・理双方への興味・関心をもっている。
3. 自分の将来と社会の未来へのビジョンを明確にもっている。
4. グローバルな視野をもって思考し、国際的な場での活動を希望している。

(活動の場は国内国外を問わない)

(引用：『お茶の水女子大学特別入試学生募集要項 AO 入試(新フンボルト入試)』より抜粋)

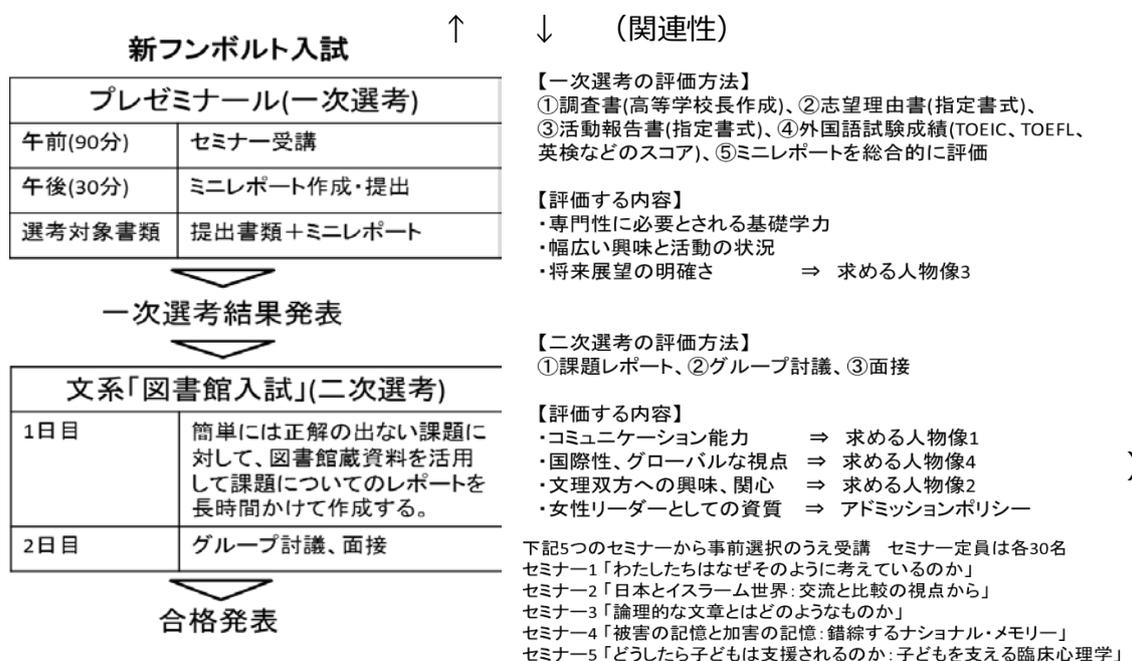


図 3-2 お茶の水女子大学 新フンボルト入試 概要図

出題年度	2016 年度以降毎年
学部	文教育学部
入試方法	AO 入試・新フンボルト入試（定員 20 名）
解答形式	<u>一次選考</u> ・調査書 ・志望理由書 ・活動報告書 ・ミニレポート（プレゼミナールへ参加） <u>二次選考（文系「図書館入試」の場合）</u> ・課題レポート ・グループ討議 ・面接
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	一次選考・二次選考において評価する内容と「アドミッション・ポリシー」及び「求める人物像」は図- 1 に示すように関連性を持つ。
	<p><u>一次選考</u></p> <p>自身が選んだ大学のゼミナール式授業（プレゼミナール）をじかに体験してもらい、ミニレポートを提出させることにより、大学授業とその授業テーマに対する関心度合い、及び考察力を問うていると推測できる。（*1、*2）</p> <p>提出書類（調査書・活動報告書・志望理由書）により、高校の成績から判断する基礎学力や、活動状況から読み取れる関心分野と主体性、及び学修活動、課外活動、キャリア等に関する将来展望を把握するものと思われる。（*1、*3）</p> <p>*1：「知識・技能」を測る内容 *2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容 *3：「主体性・多様性・協調性」を測る内容</p> <p><u>二次選考</u></p> <p>附属図書館を舞台に自在に文献や資料を駆使して、与えられた課題に対し自分の論理構築をじっくり練り上げたうえで課題レポートを作成させることで論理力や課題探求力、独創性を評価しているように推測できる。（*2）</p> <p>またグループ討議や面接を通じて第三者への効果的な説明、相手の論旨を聞いて自分の考えを再構成する議論展開、そして、他者と協働してよりよい結果を得ようとする姿勢などを評価していると推測できる。（*2、*3）</p> <p>*2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容 *3：「主体性・多様性・協調性」を測る内容</p>

<No.13> 九州大学

第一次選抜	
【書類選考】 下記書類を総合評価 ・調査書(高等学校長作) ・志望理由書 志望理由をプログラムの趣旨に照らして自己の適正や抱負などに関して詳しく記述する(A4 2ページ) ・活動履歴書 勉強以外の活動内容、重点的に取り組んだ活動の詳細と成果・意義、表彰の履歴、資格・検定の履歴	

第一次選抜結果発表

第二次選抜	
1日目 午前	講義1受講(50分)→レポート1作成(70分)
午後	講義2受講(50分)→レポート2作成(70分) 講義3受講(50分)→レポート3作成(70分)
2日目 午前	グループ討議/10名位(150分) 前日の講義に関する論題を討議する
午後	小論文(270分) 講義・レポートと討議を踏まえて、提示されたいずれかの講義の論題に関連した標題を自ら設定し作成する。 個人面接(20分)

合格発表

【第一次選抜の評価方法】

下記書類に評価を合わせて3段階で総合評価する

- ・調査書:4段階で評価
- ・志望理由書:4段階で評価
- ・活動報告書:3段階で評価

【講義内容】

「純学問的なもの」「総合的なもの」「実験的なもの」

《2016年度実施例》

- ・今、生物多様性を考える～地球規模の課題の解決のために～
- ・ものの方を考える～文化人類学の視点から～
- ・平等のための不平等?～ポジティブ・アクションの是非～

【第二次選抜の評価方法】

①講義レポート、②グループ討議、③小論文、④面接と提出書類の内容と合わせて総合評価により選抜する

【評価する内容】

- ①講義レポート
 - ・講義内容をどれだけ理解できているか。
 - ・より正確に深く知りたいという気持ちをどれだけ持ち得るか。
 - ・講義の内容からさらにどれだけ発展させて考えることができるか。
 - ・説明を理解し、うまく実行できるか。
- ②グループ討議
 - ・講義の内容からさらにどれだけ発展させて考えることができるか。
 - ・他人の批判を受け止めて、自分の説を高めることができるか。
 - ・他人の意見を適切に批評し、討議へどれだけ貢献できるか。
- ③小論文
 - ・提示された講義の論題に照らして、標題の設定が適切であるか。
 - ・講義の内容からさらにどれだけ発展させて考えることができるか。
 - ・討議を踏まえて、標題の主張をどれだけ客観的に統合できるか。
- ④面接
 - ・これまでの学習内容や学習以外の活動
 - ・学習態度や物事への関心の広さ・深さ
 - ・その他大学での勉学や研究活動への適正

図 3-3 九州大学 21 世紀プログラム AO 入試 概要図

出題年度	2016 年度
学部	21 世紀プログラム (学士)
入試方法	AO 入試 (定員 26 名)
解答形式	第一次選抜 ・調査書 ・志望理由書 ・活動計画書 第二次選抜 ・講義レポート

	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議 ・小論文 ・個人面接
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	<p><u>第一次選抜</u></p> <p>21世紀プログラムの学生は、学習を進めながら、自らの適正を発見し、専門を定めていく上での広い可能性を保証するために、自らの類型を決めつけない柔軟な学習態度が求められる。</p> <p>提出書類(調査書・志望理由書・活動履歴書)により、高校の成績から判断できる基礎学力、志望理由をプログラムに照らしてみた自己の適正や抱負の妥当性を判断、勉強以外の取り組みから見る社会への関心度合いの広がり、及び社会生活のなかで重点的に取り組み、成果に結びつけた活動に対する意識と意欲や主体性などを評価することが推測できる。(*1、*2、*3)</p> <p>*1：「知識・技能」を測る内容</p> <p>*2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容</p> <p>*3：「主体性・多様性・協調性」を測る内容</p> <p><u>第二次選抜</u></p> <p>第二次選抜は下記の内容で評価される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講義レポート <ul style="list-style-type: none"> 3つの講義は「純学問的なもの」「総合的なもの」「実験的なもの」の3つの視点から構成されており(各50分)、各講義の受講後にそれぞれのレポートを作成する(各70分)。 2016年度講義テーマは以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・「いま、生物多様性を考える～地球規模の課題の解決のために～」 ・「ものの見方を考える～文化人類学の視点から～」 ・「平等のための不平等～ポジティブアクションの是非～」 <p>講義レポートは以下の観点から評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容をどれだけ理解できているか。(*1) ・より正確に深く知りたいという気持ちをどれだけ持ち得るか。(*3) ・講義の内容からさらにどれだけ発展させて考えることができるか。(*2、*3) ・説明を理解し、うまく実行できるか。(*2、*3) <p>*1：「知識・技能」を測る内容</p> <p>*2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容</p>

*3 : 「主体性・多様性・協調性」を測る内容

● グループ討議

10 名程度が 1 グループとなり、各講義に関する論議を討議する。3 つのテーマについて順番に討議を行う。はじめにひとり 2 分程度で意見を発表し、その後自由討議を開始する。ただし、はじめの意見表明はひとり 2 テーマのみ可能。自由討議ではひとり 1 回以上の発言を必須とする。(150 分)

グループ討議は以下を評価する。

- ・講義の内容からさらにどれだけ発展させて考えることができるか。(*2)
- ・他人の批判を受け止めて、自分の説を高めることができるか。(*2)
- ・他人の意見を適切に批評し、討議へどれだけ貢献できるか。(*3)

*2 : 「思考力・判断力・表現力」を測る内容

*3 : 「主体性・多様性・協調性」を測る内容

● 小論文

講義レポートとグループ討議をふまえて、提示されたいずれかの講義の論題に関連した標題を自ら設定し、小論文を作成する。(270 分)

小論文は以下を評価する。

- ・提示された講義の論題に照らして、標題の設定が適切であるか。(*1)
- ・講義の内容からさらにどれだけ発展させて考えることができるか。(*2)
- ・討論を踏まえて、標題の主張をどれだけ客観的に統合できるか。(*2)

*1 : 「知識・技能」を測る内容

*2 : 「思考力・判断力・表現力」を測る内容

● 個人面接

個人面接は、受験者 1 名に対し、面接官 3 名で行う。(20 分)

質問例は以下のとおり。

志望理由 / 21 世紀プログラムでなければいけない理由を詳しく /
具体的に学びたい学問 / 将来留学したい国はどこか /
大学を卒業し、自分の理想を実現したらその後どうするか /
受けてみたい授業はあるか / 勉強以外で大学生のうちにしたいこと /
子どもを取り巻く問題でどのようなものの興味があるか /
現在の企業の女性登用に関して何が問題だと考えるか

個人面接では以下を評価している。

-
- ・これまでの学習内容や学習以外の活動(*1、*3)
 - ・学習態度や物事への関心の広さ・深さ(*2、*3)
 - ・その他大学での勉学や研究活動への適正(*3)
- *1：「知識・技能」を測る内容
*2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容
*3：「主体性・多様性・協調性」を測る内容
-

参考にした文献

1. 九州大学『九州大学学生募集要項 AO 入試（21 世紀プログラム）』
<<https://www.kyushu-u.ac.jp/f/28920/H29AO21youkou.pdf>>

<No.16> 京都大学

出題年度	2016 年度
学部	総合人間、文、教育、法、経済、理、医、薬、工、農
入試方法	学力型 AO、推薦、後期日程（特色入試）（定員 145 名）
解答形式	<u>一次選考</u> ・調査書 ・学びの設計書 ・学業活動報告書、外部英語資格のスコア、推薦書等 ※学部により異なる
	<u>二次選考</u> ・能力測定考査（記述）、口頭試問・面接等 ※学部により異なる
	<u>最終選考</u> ・大学入試センター試験の得点 ※医学部医学科を除く
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」

京都大学特色入試では下記の能力を判定する入試を実施している。

- ①高等学校での学修における行動と成果の判定（一次選考）
- ②個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定（二次選考）

一次選考

特色入試では高大接続を重視しており、①において受験科目以外の学習や活動状況から学力の 3 要素を多面的に評価している。また、「学びの設計書」を課すことで、大学入学後や卒業後の「主体性」を評価している。学びの設計書は、学部ごとに様式が異なるが、概ね下記の内容をそれぞれ A4 一枚の分量で問うている。

- (1) 高校在学中に取り組んだこと、達成したこと、そこで得たもの
- (2) 志望学部への入学希望理由
- (3) 大学での学修計画
- (4) 卒業後に学修したことをどう活かしたいか

二次選考

②の判定にあたり、二次選考は学部ごとに独自の試験を課している。ここでは、社会科学の分野で特徴的な入試を課した平成 28 年度の経済学部の問題について概説する。

➤ 問題構成

リード文として、「自由」に関する 2 つの資料を掲載し、「自由」に関する説明や問題を問うている。設問は 5 問構成であり、400 字以内の記述が 3 問、800 字以内の記述が 2 問である。配点はそれぞれ 100 点で計 500 点満点である。

➤ 特徴的な点

経済学部の特徴入試では、求める人物像（アドミッション・ポリシー）として下記を挙げており、各設問ともこれらの能力が評価できるよう対応している。

経済学部は、総合的な学力とともに、長文読解力、問題発見力、論理的思考、柔軟な思考と創造性、そして高い自学自習の能力を持つ人材を求めています。

（引用：京都大学「京都大学特色入試 特色入試を通じて求める人物像」
<<http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/policy/>>）

設問 1～4 は、資料から読み取れる「自由」に関する記述が問われており、社会科学に関する「知識・技能」を基に、資料の内容をまとめる「思考力・判断力・表現力」が評価されている。また、資料自体も 18 ページに及ぶ内容のため、長文読解力及び文中の問題発見力が問われているものと推察される。

設問 5 は、設問 4（資料で出されるそれぞれの「自由」に関して共通点と相違点を論じる内容）を基に、現代における「自由」の問題を一つ取り上げ、論じる設問となっている。本設問は、資料の理解を基に、自身の意見を論述する形式のため、「思考力・判断力・表現力」だけでなく、普段から社会に対して問題意識をもつ「主体性」が問われていると推察される。

参考にした文献

1. 京都大学『京都大学特色入試選抜要項』

<<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/tokusyoku/requirements/2015/documents/01.pdf>>

<No.18> 慶應義塾大学

出題年度	2015 年度
学部	文
入試方法	一般 (文学部 定員 580 名)
科目	日本史
解答形式	記述 (80 字の論述あり)
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
概説	<p>➤ 問題構成</p> <p>リード文として鎌倉・南北朝時代の武士と天皇の関係を示す 3 つの史料を取り上げ、史料から得られる知識・考察を 10 問構成で問うている。設問はすべて記述式であり、問 1～9 では知識を問い、問 10 では史料から得られる時代背景から、天皇に対する武士たちの意識の変化を 80 字以内で問うている。</p> <p>➤ 特徴的な点</p> <p>慶應義塾大学文学部はアドミッション・ポリシーを以下のように定めている。</p> <p>文学部では次のような資質・能力を有する学生を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 慶應義塾の精神に対する十分な理解、及び学問に対する意欲と向上心・ 先人による古典類から最新の研究成果が書かれた論文に至るまでの諸文献を読み込み、理解するための基礎となる語学力 (日本語、及び英語・フランス語・ドイツ語・中国語)・ 与えられた課題に対して論理的に思考し、それに対する自分の考えを正確かつ十分に記述する能力・ 現在の社会や文化の成り立ちを理解するための基礎となる歴史的な知識 (日本史又は世界史) <p>(引用：慶應義塾大学「3つのポリシー[慶應義塾大学文学部]」 <http://www.flet.keio.ac.jp/about/policy/> より抜粋)</p> <p>慶應義塾大学文学部の一般入試では国語を課しておらず、英語、社会、小論文の 3 科目で合否判定をしている。本設問では古典史料を読み取り、論述する力が求められていることから、②、③、④のポリシーに対応すると考えられる。</p> <p>特に問 10 では、3 つの史料から読み取れる、天皇に対する武士たちの意識の変化を問うている。史料はいずれも南北朝時代のものであるが、「意識の変化」を問うことで、歴史を単なる知識問題としてではなく、時代の流れの中で思考できてい</p>

るかを評価している点が「知識・技能」の評価基準として特徴的である。また、80字以内での記述解答であることから、理解した知識を論理的に整理し、正確に述べることができるかを評価している点が「思考力・判断力・表現力」を評価していると言える。

以上の点から、本設問はアドミッショポリシーに準拠した特徴的な設問と評価できる。

<No.20> 工学院大学

出題年度	2015 年以降毎年
学部	先進工学部 生命科学科、応用化学科、環境科学科、応用物理学科、機械工学科の 5 つが AO 入試を採用している。本報告書では、そのうち演示支援にてプレゼンテーションを課している環境科学科、応用物理学科を取り上げる。
入試方法	AO 入試（定員 10 名）
解答形式	<u>AO 入試エントリー</u> <ul style="list-style-type: none">・第 1 次審査（書類審査）<ul style="list-style-type: none">・エントリーシート・小論文・第 2 次審査<ul style="list-style-type: none">・基本知識の確認・演示支援参加とプレゼンテーション
	<u>出願</u> <ul style="list-style-type: none">・出願書類（調査書を含む）、レポート
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	<u>AO 入試エントリー</u> <ul style="list-style-type: none">● 第 1 次審査（書類審査）<ul style="list-style-type: none">・ エントリーシート 「志望理由と将来の夢」をテーマとして、学部・学科への志望理由について現在の自分と将来の夢との関係も含め A4 用紙 1 枚程度で記述する。動機に加え、夢を描かせることで、大学での学びを社会にどう活かすことができるかを考える機会を与え説明をさせている。このことから、受験生の説明力、すなわち「思考力・判断力・表現力」や、社会への主体参画、すなわち「主体性・多様性・協調性」を問うていると推測される。・ 小論文 指定されたテーマに対し、1200 字以内で小論文を作成する。小論文のテーマは、学科により出題内容が異なる。 2017 年度入試において各学科の出題テーマは以下のとおり。<ul style="list-style-type: none">① 環境科学科 「あなたが興味をもつ環境問題を一つ取り上げ、その原因と問題に至った背景を説明せよ。また、その問題を解決するために必要とされる対策を具体的に述べなさい」

② 応用物理学科

「20 世紀における物理に関する発見について、現在の社会生活において役立っていると思うことを論じなさい」

小論文は、受験者が専攻しようとする分野に関わる知識や技術、またそれら知識と社会生活の関連を問うテーマが設定されている。小論文作成にあたり、専門分野を学ぶうえで必要な課題の把握、論旨の展開、表現力、すなわち「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測っているものと考えられる。

● 第 2 次審査

・ 基本知識の確認

各学科により出題形式、内容は異なる。環境科学科では課題作文（60 分）、応用物理学科では「英語」「数学 I・II・A・B」（2 科目 60 分）が実施される。

※文献調査では、テーマや内容が確認できなかったため、評価項目は不明

・ 演示支援参加とプレゼンテーション

工学院大学が主催、実施する「わくわくサイエンス祭 科学教室」にて、演示支援者としての参加を課す。演示担当教員によるガイダンスやレクチャーから、準備作業、演示支援、小・中学生向けプレゼンテーションに至る、計 3 日間参加する。出願時に、本件に関する事後レポートを提出する。

演示支援は、例年 1 演示テーマにつき 5～10 名程度のスタッフで編成される。演示を支援する立場に置くことで、他スタッフや参加者（子供・保護者）と主体的に関わる「主体性・多様性・協調性」、また相手のレベル（子供）に合わせ平易に説明するために内容を構成し・表現する「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価しているものと推測できる。

出願

調査書を含む書類、演示支援に関する事後レポートを評価する。

【参考】

先進理工学部では以下のアドミッション・ポリシーを掲げている。※学科により異なる

①環境化学科

環境化学科では最先端の化学技術を駆使して、環境を保全する技術や、環境負荷の少ない材料・エネルギー技術を開発することができる技術者・研究者の育成を目指しています。基礎学力と科学的な思考力を備え、実験・実習を通して

環境（大気、水、土壌）の実態を捉えて改善する方法を学び、持続可能な社会に貢献したいと考える積極的な学生を歓迎します。

②応用物理学科

応用物理学科では、物理学の基礎理論を系統的に学びながら現代物理学に対する素養を身につけ、物理を応用することを学びます。そして、現代物理学とその関連分野の課題に対して実践的に取り組み、人間社会のために活用できる技術者や教育・研究者の養成をめざしています。自然界の物理空間における森羅万象の不変的な原理・法則だけでなく、21世紀に出現した人間社会が創り上げた情報空間における普遍的な現象・規則にも関心を持ち、物理的な考え方や手法を用いて社会に貢献することを志す学生の入学を希望します。

（引用：工学院大学『2017年度 AO 入試概要』より抜粋）

参考にした文献

1. 工学院大学「理科教室の展開と支援学生への教育波及効果」
<<http://www.kogakuin.ac.jp/feature/education/mext/rika.html>>

<No.21> 高知大学

一次試験
<p>【志願理由書】 100点</p> <ol style="list-style-type: none">1. これまでの自分の経験において、成長につながったと思う事柄を述べてください。2. 当学部を志望した動機・理由について説明してください。 <p>《評価する内容》 自分の行動体験や社会との関係性、今後の学修活動の関係性を分析させ、主に(3)「関心・意欲・態度」を判定する。</p>
<p>【講義理解力試験】 100点</p> <p>90分の大学授業を受講したうえで小論文の提出を課す</p> <p>《評価する内容》 小論文により主に(2)「思考・判断」を判定する・</p>

一次試験結果発表(募集人員の2倍程度)

二次試験
<p>【グループ活動及び振り返り演習適正試験】 200点</p> <p>簡単なグループ活動を行ったうえでグループ活動の振り返り演習を実施する。振り返り演習では、議論もしくは行動の結果とグループ活動のプロセスでのチームのあり方について考えさせる。</p> <p>《評価する内容》 チームとしての成果を向上させる資質という視点から、グループ活動とその後の振り返り演習の両方での受験者の「ふるまい」(発言・傾聴・行為など)を観察し、主に(3)「関心・意欲・態度」を判定する。</p>
<p>【作文】 100点</p> <p>グループ活動及び振り返り演習適正試験に関する討議内容、チーム運営のあり方、自分と他のメンバーとの役割について分析を文章化させる。</p> <p>《評価する内容》 文章により主に(4)「技能・表現」を判定する。</p>
<p>【個人面接】 100点</p> <p>志願理由書と二次試験の内容に基づく面接を行う。</p> <p>《評価する内容》 (5)「教科外活動」、(3)「関心・意欲・態度」、(2)「思考・判断」、(4)「技能・表現」の4つの重点評価項目について、複数の評価者が判定する。</p>

合格発表

※《評価する内容》に記す判定項目番号は、高知大学が「学生に求める資質」に対応

図 3-4 高知大学地域協働学部 AO 入試 I 概要図

出題年度	2016 年度以降
学部	地域協働学部
入試方法	AO 入試 (AO 入試 I) (定員 15 名)
解答形式	<u>一次試験</u> ・志望理由書 ・講義理解力試験 (小論文) <u>二次試験</u> ・グループ活動及び振り返り演習適正試験 ・作文 ・個人面接
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	<u>一次試験</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 志望理由書 志望理由として記載された自分の行動体験や社会との関係、今後の学修活動についての自己分析内容を評価している。(*3) *3 : 「主体性・多様性・協調性」を測る内容 ● 講義理解力試験 大学授業(90 分)を受講したうえで小論文を提出させることにより、授業内容を理解し、テーマに関して考察、課題把握、論理展開する力などを評価している。(*1、*2) *1 : 「知識・技能」を測る内容 *2 : 「思考力・判断力・表現力」を測る内容 <u>二次試験</u> <ul style="list-style-type: none"> ● グループ活動及び振り返り演習適正試験 その場でできる簡単なグループ活動 (5 名程度) とグループによる振り返り演習を通じて、チームの成果を向上させるためのチームのあり方に対する各個人の主体的態度を評価している。(*3) *3 : 「主体性・多様性・協調性」を測る内容 ● 作文 グループ活動及び振り返り演習適正試験に関する討議内容、チーム運営のあり方、自分と他のメンバーとの役割について自己を分析する力、およびそれを表現する力を評価している。(*2)

*2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容

● 個人面接

志願理由書と二次試験の内容に基づく質疑の深掘りを行い、課題解決に向けて論理的かつ主体的に取り組む力・態度などの適性を評価している。(*2、*3)

*2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容

*3：「主体性・多様性・協調性」を測る内容

【参考】

地域協働学部では以下のアドミッション・ポリシーを掲げている。

地域協働学部は、地域理解力、企画立案力、協働実践力という3つの知識・能力を統合した「地域協働マネジメント力」を有し、多様で複雑な地域の課題を発見・分析・統合し、産業の分野や領域の壁を越えて人や組織などの協働を創出でき、卒業後即戦力として活躍できる「地域協働型産業人材」(「6次産業化人」、「地域協働リーダー」)を養成することを目的としています。このような人材育成の基盤となる、次のような資質を持った学生を求めます。

(1) 知識・理解

入学までの過程で理系・文系を問わず幅広い教科を積極的に学び、様々な問題に対する知識や関心を持っている学生であること。

(2) 思考・判断

論理的思考力と理性的判断力を持って物事に取り組むことが必要だと考えている学生であること。自らの行動や体験について深く見詰め直し客観的に分析しようとする学生であること。

(3) 関心・意欲・態度

地域社会に存在する諸課題とその実践的解決、特に地域産業の振興に関心があり、積極的に地域社会の人々と協働することを志向する学生であること。知に対する関心を持ち、豊かな教養に裏打ちされた能力で課題の発見・探求とその解決にあたることを志向する学生であること。

(4) 技能・表現

自分の表現を客観的に見詰め、他者に伝わる表現を心がけており、口頭と文章の両面にわたって十分な表現力を持ち、他人の意見を汲み取る力のある学生であること。

(5) 教科外活動

さまざまな行動体験を有しており、それらを自らのキャリア形成や地域社会の人々との協働に活かすことを志向している学生であること。

(引用：高知大学「教育に関するポリシー（地域協働学部）
<[http://www.kochi-
u.ac.jp/kyoikujoho/06/policy/06u_chiiki.html#ap](http://www.kochi-u.ac.jp/kyoikujoho/06/policy/06u_chiiki.html#ap)>より抜粋)

<No.22> 国際基督教大学

出題年度	2016 年度
学部	教養学部（アーツ・サイエンス学科）
入試方法	一般[A方式]（定員 290 名）
解答形式	・総合教養【ATLAS】（80 点満点） ・「人文・社会科学」又は「自然科学」（いずれか 1 科目を選択、80 点満点） ・英語（90 点満点） ※いずれも多肢選択のマークセンス方式
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
概説	<p>全試験科目とも中央値補正による得点調整がされる。合否は、試験の結果、高校調査書などを総合的に考慮し、決定される。</p> <p>本入学試験は、学習したことを試験する学力検査ではなく、教養学部において創造的な学修ができるかどうかを試験する「適正試験」と位置付けており、アドミッション・ポリシーに合致した学生を選抜することを重視した入学試験であると考えられる。</p> <p>なお、国際基督教大学はアドミッション・ポリシーを以下のように定めている。</p> <p>ICU では日本全国および世界各地からの次のような資質を持つ学生を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none">・文系・理系にとらわれない広い領域への知的好奇心と創造力・的確な判断力と論理的で批判的な思考力・多様な文化との対話ができるグローバルなコミュニケーション能力・主体的に問題を発見し、果敢に問題を解決してゆく強靱な精神力と実行力 <p>（引用：国際基督教大学「入学者受け入れ方針」 <http://www.icu.ac.jp/admissions/april/policy/index.html> より抜粋）</p> <p>2016 年に実施された 3 試験のうち、地歴公民分野の問題作成において特に参考になり得る、総合教養【ATLAS】並びに「人文・社会科学」の試験について、特徴的な設問を概説する。</p> <ul style="list-style-type: none">● 総合教養【ATLAS】 音声のみの講義を 15 分間聞いた後に PART1～4 に分かれた問題（40 題）を解く試験。講義中はメモを取れるが、問題文を見ることはできない。試験時間は講義部分も含めて 80 分である。

講義内容は、カール・ヤスパースの大学理念と学問観と、ヤスパースの第二次世界大戦での体験とそこで得たものを紹介し、渡辺一夫の学問観などを紹介しながら、歴史と彼らから学ぶ学問と人間の関係、大学のあり方は、70年前から現代まで抱える、自由と平和にも通じるひとりひとりが考えていくべき問題を提起した。

・PART1

講義内容に関する問題に解答させる。

・PART2

講義内容に関連して「人文科学」の視点から、大学の起源に遡り、大学における教育と学問研究のあり方について再考する内容の長文資料を読み、問題に解答させる。

・PART3

講義内容に関連して「社会科学」の視点から、第二次世界大戦が勃発した当時の日本とドイツの状況を整理し、歴史から学ぶべきこと、教育の果たす役割の重大さを指摘しつつ、平和を実現するために何をすべきなのかを問い直す内容の長文資料を読み、問題に回答させる。

・PART4

講義内容に関連して「自然科学」の視点から、人間と科学の関係のありかたについて、実例を紹介しながら、科学の成果は人間がそれをどう使うかという問題に帰着することを指摘したうえで、文系理系を問わず、さまざまな学問の集合体である大学という場合は、これからの時代により重要な役割を担うと結ぶ長文資料読み、問題に回答させる。

PART1 は 1 度の聴解で講義内容を理解し情報を事実と概念に峻別する力が問われ、PART2～3 ではそれぞれ A4 用紙 2 枚半ほどの長文を試験時間内に読み解く力を問われている。設問については、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を問うものが多く確認できるが、その中でも特徴的な設問を挙げる。

・設問 3、設問 4

(国際基督教大学「2016 年度 総合教養 試験問題

<http://www.icu.ac.jp/admissions/docs/16ATLAS_2.pdf> 参照)

設問 3 のように高等学校の学習知識で答えられる問題もある一方、設問 4 は講義の中で述べられた「人間性」と「科学性」の関係性と、同じ関係性が成立する「平和」の対になる語句を選択させる問題であり、講義で得た知識の関連を考察し、それを別のケースに当てはめて考察し直す力が求められている。

・設問 23

(国際基督教大学「2016 年度 総合教養 試験問題」

<http://www.icu.ac.jp/admissions/docs/16ATLAS_2.pdf> 参照

設問 23 は、アンケート調査の質問設定について、その質問が妥当かどうかを判断させることで、正確な情報得るために適切な調査を行う技能を測っている。

・設問 30

(国際基督教大学「2016 年度 総合教養 試験問題」

<http://www.icu.ac.jp/admissions/docs/16ATLAS_2.pdf> 参照

設問 30 について、講義中で紹介された「非科学性は非人間性の地盤である」という概念は、PART3 の論述文にある具体的事例のうちどれに当てはまるかを問うており、講義の情報を事実と概念に峻別して理解する力と、峻別した知識を具体的な別の事例 (PART3 の論述文) に適用して考察する力を測っている。

● 人文・社会科学

A4 用紙 9 枚程度の長文資料に関する問題(40 題)を解く試験。試験時間は 80 分である。長文資料は樋口一葉の作品「わかれ道」と「たけくらべ」の概要を紹介しながら、作品で描かれている題材について筆者が考察を加え、作品やそれが書かれた時代背景と現代社会との関連性に言及しながら、現代社会が抱える問題を問い直す内容である。

長文を試験時間内で読み解き、知識を事実と概念に峻別し、その知識を用いて考察、応用する力を問う問題で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を測っている。ここでは特徴的な設問を 2 つ取り上げ調査した。

・設問 22

(国際基督教大学 2016 年度 人文・社会科学 試験問題) <

<http://www.icu.ac.jp/admissions/docs/16%E4%BA%BA%E6%96%87%E3%83%BB%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E7%A7%91%E5%AD%A6.pdf>> 参照)

設問 22 は、文中で指摘された「母子家庭の貧困率が父子世帯のそれと比較して高いこと」の理由を、文中の雑多な情報の中から拾い出させ、文中の情報を取捨選択し社会的な見方・考え方に沿って読み取る力、及び、断片的な情報から類推し考察する力を問っている。

・設問 40

(国際基督教大学 2016 年度 人文・社会科学 試験問題) <
<http://www.icu.ac.jp/admissions/docs/16%E4%BA%BA%E6%96%87%E3%83%BB%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E7%A7%91%E5%AD%A6.pdf>> 参照)

設問 40 は、この長文資料のタイトルとして最も適しているものを選ばせることによつて、長文資料の情報を統合し、全体で一貫して扱われているテーマを読み取る力を問うている。

<No.23> 国際教養大学

出題年度	2015 年度
学部	国際教養学部
入試方法	AO 入試 (グローバル・セミナー入試) (定員 10 名)
解答形式	<u>グローバル・セミナー</u> ・レポート <u>グローバル・セミナー入試</u> ・出願書類 (調査書、志願理由書) ・グローバル・セミナーで作成・提出したレポート 2 点 ・面接、グループディスカッション
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	出願資格は秋田県内の高校生のみとし、出願要件としてグローバル・セミナーへの参加を課す。

グローバル・セミナー

5 月・8 月の 2 回開催、各 2 泊 3 日で行われる。セミナー実施中は、大学内の学生寮に宿泊する。

最初の 2 日間で同大教員が 5 分野の講義を行い、そのうち 2 分野について日本語でレポートを作成・提出する。同大はこのレポート評価を重視し、入試本番 (9 月) での評価と合わせて総合評価する。2 回参加の場合、提出するレポート 4 通のうち内容の優れた 2 通を選考する。

3 日目は、グループディスカッション練習を実施する。* 評価対象外

本セミナーでは上記のような大学授業を体験してレポートを提出させることで、授業テーマに対する関心度合いと理解力、論理展開、表現力を判断していると推測される。(* 1、* 2)

* 1 : 「知識・技能」を測る内容

* 2 : 「思考力・判断力・表現力」を測る内容

グローバル・セミナー入試

● 出願書類

提出書類(調査書・志望理由書)により、高校の成績から判断する基礎学力や、学修活動、課外活動、キャリア等に関する将来展望を把握するものと思われる。(*1、*3)

* 1 : 「知識・技能」を測る内容

*3 : 「主体性・多様性・協調性」を測る内容

- グローバル・セミナーで作成、提出したレポート
グローバルセミナーレポートは前述のとおり。

- 面接、グループディスカッション

面接とグループディスカッションを通じて、第三者への効果的な説明、相手の論旨を聞いて自分の考えを再構成する議論展開、そして、他者と協働してよりよい結果を得ようとする姿勢などを評価していると推測できる。（*2、*3）

*2 : 「思考力・判断力・表現力」を測る内容

*3 : 「主体性・多様性・協調性」を測る内容

<No.39> 東北大学

出題年度	2000 年以降毎年
学部	文学部、理学部、工学部、農学部
入試方法	AO 入試Ⅱ期（センター試験を課さない）（定員 206 名）
解答形式	一次選考、二次選考内容は学部による 出願要件：学習成績概評 A（全科目の評定平均値 4.3） 選考は、出願書類（調査書）、筆記試験、小論文、面接等により行われる
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
概説	各学部・学科が求める人材を獲得するため、入試内容は各学部・学科により異なる。基礎学力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」）は主に出願書類（調査書）、並びに筆記試験あるいは小論文を活用し、人間性（「主体性・多様性・協調性」「思考力・判断力・表現力」）は面接にて評価を行う。配点は多くの学部が「学力を優先」した配分割合となる。

各学部の選考方法を以下に記す。

文学部

選考は①出願書類、②筆記試験、③面接試験による。

一次選考は出願書類と筆記試験により行われ、二次選考は面接結果と一次選考で実施した筆記試験の結果を総合して行われる。筆記試験では、日本語による長文を読ませ、要旨をまとめる、あるいは自分の考えを述べさせることで、読解力と表現力が評価される。面接試験では、研究分野への意欲、独創性、積極性を問い、口頭で自身の考えを的確に表現できるかが評価される。筆記試験の配点割合が 67%を占める。なお文学部の過去問題は公表されておらず、文献調査の段階で試験内容は不明である。

理学部

選考は、①筆記試験、②面接による。筆記試験では、志望する系に関する関心度、基礎知識、論理思考力、理解力、文章表現等の能力が評価される。志願者数が募集人数を大幅に上回る場合のみ、出願書類による事前の選抜が行われる。

筆記試験について理学部物理系で実施された問題では、物理に関する設問課題 1～3 について、それぞれ 1 時間で解答することが求められる（いずれも記述式。解答に際し、答えだけでなく、途中の考え方や計算の過程を記載することが求められていることから、思考力が評価基準にあることが分かる。

その他系でも出題形式・傾向は同様であるが、一部英訳問題が出題されるなど各研究分野を究めていくためのベースとなる基礎学力も必要である。

課題 2 問 3 下線部を英訳せよ。

(東北大学 AOⅡ期過去問題平成 28 年度生物系 課題 2 問 3
<<http://www.sci.tohoku.ac.jp/juken/pdf/h28/bio.pdf> > 参照)

面接では、事前に行われた筆記試験で解けなかった問題を再度解き説明する、筆記試験に対する自己評価、志望動機を問う個人面接の他、数学や英文和訳等の口頭試問を行う。

工学部

選考は、①出願書類、②小論文、③面接による。志願者数が募集人数を大幅に上回る場合のみ、出願書類による事前の選抜が行われる。

小論文では、論理的思考能力、独創性、表現力、作文能力、英文読解力、理数系の基礎的理解度などについて評価がされる。

農学部

選考は、①出願書類、②小論文、③面接による。志願者数が募集人数を大幅に上回る場合のみ、出願書類による事前の選抜が行われる。

小論文では、英文読解力を中心に論理的思考能力が評価される。また面接では、実施前に農学に関する話題で小作文作成のうえ、小作文と出願書類を参考に実施される。

【参考】

- ・AO入試Ⅱ期合格者のうち希望者に対し、入学者学習として、アメリカカリフォルニア大学への海外研修を実施している（国立大学初の取り組み）。
- ・東北大学では後期試験を廃止し、AO入試に切り替えている。
- ・東北大学による学内調査によると、入学後の試験成績や学籍状況（ストレート卒業）は、一般入試組ではなくAO入試組の方が優秀であるとの結果が出ている。
- ・東北大学は、国立大学で初めてAO入試制度を導入した大学である（筑波大学、九州大学、東北大学が同時開始）。AO入試は推薦入試の実績を踏まえ、これを発展させる形で導入され、各学部主体で実施されている。

1. 東北大学のAO入試 教育再生実行会議委員視察 H25.8.1 資料
2. 倉元直樹、大津紀夫「追跡調査に基づく東北大学 AO 入試の評価」
『大学入試研究ジャーナル』No.21 2011年3月 p39-p48
3. 『蛭雪時代 7月臨時増刊 全国大学 推薦・AO入試合格対策号』（旺文社）
4. 東北大学 アドミッションズ・オフィス入学試験（AO入試）Ⅱ期 学生募集要項

<No.43> 長崎大学

出題年度	2015 年度
学部	多文化社会学部（グローバル社会コース、社会動態コース、共生文化コース）
入試方法	一般（前期日程）（定員 68 名）
解答形式	・大学入試センター試験 4 教科 4～5 科目（300 点満点） ・個別学力検査 ・外国語（100 点満点） * 記述形式 ・批判的論理的思考力テスト（総合問題、200 点満点） * 論述形式
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
概説	<p>本学部の入学者選抜の基本方針としては、高大接続を重視し、基礎的・基本的な「知識・技能」と、教育課程を通して育成される「思考力・判断力・表現力」を評価している。</p> <p>また、「求める学生像」として後述の 4 項目を掲げており、入学者選抜を通して「主体性・多様性・共同性」のある学生を求めていると推察される。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 英語を主とする外国語の運用能力の基礎が充実している者(2) 世界の多文化状況や異文化交流に興味・関心を持ち、グローバルな視点で自ら学ぼうとする意欲のある者(3) 世界の多文化状況を客観的に捉え、見出された課題の解決に向けて論理的に思考できる素養をもつ者(4) 世界規模の多種多様な考え方や価値観を尊重しつつ、それらについて批判的に思考できる素養をもつ者 <p>(引用：長崎大学「多文化社会学部アドミッション・ポリシー」 <http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/faculty/hss/index.html>より抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none">● 批判的論理的思考力テスト 個別学力検査のうち「思考力・判断力・表現力」が重点的に問われる、批判的・理論的思考力テスト（2015 年度入学試験問題）を概説する。 <p>批判的・論理的思考力テストは、9 つの資料に基づいた 6 つの設問に対し、すべて論述式で解答する試験である。</p> <p>資料はすべて移民問題に関連するものであり、世界の情勢に触れられているものが多数ある。それぞれの資料の概要は、以下のとおりである。</p>

資料①は、首相官邸 Web サイトの特集ページから「安倍政権の成長戦略における外国人労働者活用方針の概要」についての箇条書きの記事で、量は A4 用紙半分程度。

資料②は、朝日新聞から「労働者不足と外国人実習生」についての記事で、量は A4 用紙 1 枚程度。

資料③は、日本経済新聞から「労働者不足と外国人実習生」についての記事で、量は A4 用紙 1 枚程度。

資料④は、二つの記事から成り、④-1 は、日本経済新聞から「EU における移民問題」についてのコラム記事で、④-2 も、日本経済新聞から「EU 招かれざる東国」と題した EU 加盟国間における西欧諸国と東欧諸国の関係不安についてのコラム記事で、量はそれぞれ A4 用紙 1 枚程度。

資料⑤は、脇坂紀行の著書から「欧州憲法と移民問題」に関する部分を抜き出した文章で、量は A4 用紙 3 枚程度。

資料⑥は、10 行程度のスイスの社会背景の概説と、「スイスにおける移民問題」について述べているスイスのテレビ番組の一部を和訳した文章で、量は A4 用紙 1 枚半程度。

資料⑦は、「シェンゲン協定」と題され、『国際関係法辞典』の「人の自由移動」の項目に近年の動向を加筆した文章で、量は A4 用紙 1 枚程度。

資料⑧は、2 つのグラフから成り、⑧-1 は、「日本からの移民と日本に来る外国人労働者の推移」と題された海外移住者数の推移統計グラフ・年譜（明治 1 年～平成 5 年）で、大きさは A4 用紙 2 枚程度。⑧-2 は、「日本における外国人労働者の推移」と題されたグラフで、大きさは A4 用紙 1 枚程度。

資料⑨は、「南米日系人の子どもたち」と題され、日系ブラジル人をサポートする活動を行っている日系ブラジル人の若者らへのインタビューをまとめたもので、量は A4 用紙 4 枚程度。

各設問では以下のとおり、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」を重点的に問うている。

問 1、問 2、問 3 は、それぞれ指定された資料から与えられた観点について、指定字数以内でまとめる問題である。資料内の情報から必要な情報を峻別し、それをまとめる力を問うている。

問 4 は、主として資料⑧に基づき、「日本における移民の 150 年」というタイトルで、明治元年から現在までを 250 字以内で概観する問題である。グラフの数値を読み取り解釈する力に加え、数値から得られる情報を年譜に照らしながら社会情勢に関する知識と統合し、文章にまとめて表現する力を問うている。

問 5 は、移民に関して他の資料では直接触れられていない問題を資料⑨から読み取り、それを 200 字以内でまとめる問題である。資料⑨の談話の中で語られる問題点を把握し、資料①～⑧で得た情報と多面的・多角的に照らしあわせながら考察する力を問うている。

問 6 は、これからの日本の移民政策はどのようなものでありうるか、あるいは、あるべきなのかについて、資料①～⑨に基づきながら、回答者の考えを 600 字以上 800 字以内で述べさせる問題である。資料から得た情報を統合し考察する力と、それらを判断材料にして社会問題の解決に向けて構想する力、それを適切な資料を根拠にして自らの考えを表現する力が問われている。

<No.50> 北陸大学

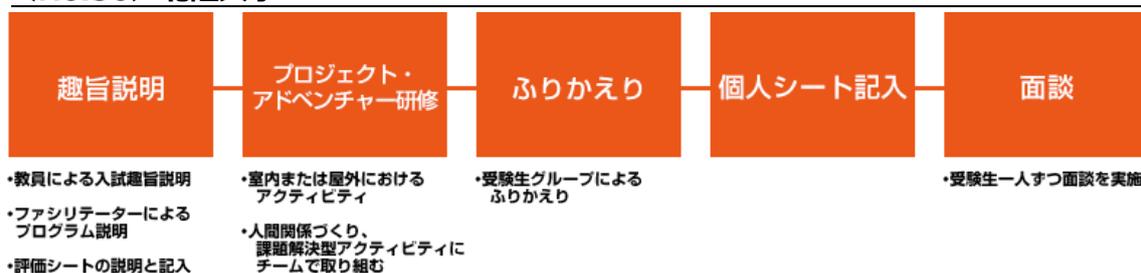


図 3-5「プロジェクト・アドベンチャー研修」に関連した AO 入学試験の流れ

(引用：Between 情報サイト「北陸大学－体験型学習を活用した AO 入試で主体性、協働力を評価」<http://between.shinken-ad.co.jp/hu/2016/08/hokuriku-u.html>> より抜粋)

出題年度	2017 年新設
学部	経済経営学部 (旧：国際マネジメント学科)
入試方法	AO 入試 (定員 70 名) ※スポーツ AO 選抜含む
解答形式	<p><u>エントリー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントリーシート (志望動機・高校での活動の振り返り) ・調査書 (科目の成績及び担任の先生の所見) <p><u>プロジェクト・アドベンチャー研修</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シート (振り返りとチェックシート、ルーブリックによる数値化) ・観察シート (ルーブリックによる数値化と所見) ・ファシリテーターによる評価 (ファシリテーター側から見た所見) ・面談 (学生の振り返りの姿勢、入学後の目標や意欲) <p><u>出願</u></p>
分類	「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	エントリーシートと調査書による書類審査、及びプロジェクト・アドベンチャー研修に関連した評価で合否を判定する。本調査においては、特にユニークな「プロジェクト・アドベンチャー研修」に関連した取り組みを取り上げる。
	<p><u>プロジェクト・アドベンチャー研修</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクト・アドベンチャー研修への参加 <p>運動の要素を盛り込んだ、室内又は屋外で実施される研修プログラムで、1 グループ 15 人程度で活動する (会場：とやま健康パーク)。例として「大きなシーソーを揺らすことなく、全員が端から端まで移動する」といった課題に対し、その実現方法と役割分担を決めて取り組み、「主体性・多様性・協調性」を中心とする</p>

行動特性が評価される。活動は 6 時間におよび、グループごとにファシリテーターがつき、教職員 3 人程度で観察評価を行う。

- ふりかえり

グループごとに振り返りを行い、受験者各自がグループワークに基づき自己評価を行う。受験者・ファシリテーター・教職員いずれも同じグループワークに基づき、主体性・協働性・課題解決力を評価する。評価は 3 段階で、主体性のうち「自己制御力」は「思い通りにならないときも感情的にならず対処できたか」、協働性は「メンバーをけなしたり軽視したりせず、敬意を持って接したか」などが挙げられる。

評価は以下の項目に基づき行う。

- ①主体性（主体性、積極性、感情制御力）

自分自身で調整レベルとその方法を決定できる

- ②協働性（親和力、統率力）

お互いの努力を最大限に評価する。自分を含めたメンバーをけなしたり、軽んじたりしない

- ③課題解決力（計画立案力）

課題に対する有効な解決策を考えることができる

（引用：北陸大学『2017 年 21 世紀型スキル AO 入試スタート』より抜粋）

- 面談

自己評価と観察評価に基づき、個別面談を行う。振り返りの姿勢、入学後の目標や意欲の度合いを測る。適切な自己理解や目標設定の力が評価される。

以上の内容から、本試験は学習の場や学生生活、また実社会で求められる主体性や協働性、また行動特性（コンピテンシー）を多面的かつ総合的に評価していることが分かる。

プロジェクト・アドベンチャー研修では、チームで活動する様々なアクティビティを通して、主体性をもって多様な人々と協働する態度、「主体性・多様性・協調性」や、他者の主張を取り入れながら議論し課題解決に向けて取り組む「思考力・判断力・表現力」を評価するだけでなく、それらのスキルに気付き、育むための工夫がなされている。社会や組織の中で、協働して課題を解決できる力を重視していると考えられる。また「主体性・多様性・協調性」を持つ学生の獲得は、他一般入試の学生や学習環境そのものにどのような影響を与えているかについて、より深く調査する価値のある事例である。

試験全般を通じて受験者自らが大学で身につけるべき力を理解し、ルーブリックを活用することで客観的に自己評価できるようになること、またそれらのスキルの重要性に気付き伸ばしたいと思わせることを重視している。

【参考】

(アドミッション・ポリシー)

経済経営学部は以下のアドミッション・ポリシーを掲げている。

経済経営学部で学ぼうとする明確な意欲を持ち、行動力や意欲・熱意に富んでい
る人、現代社会の動きに興味と関心を抱き、知的好奇心旺盛な人、国際社会で
の活躍を志している人を求める。

(引用：北陸大学「経済経営学部 マネジメント学科 | 新学部特集ページ」

<http://www.hokuriku-u.ac.jp/new_faculty/mng.html#secondPage>
より抜粋>

(本試験の目的)

『高校までに積み上げた力を大学へスムーズにつなげ、学生一人ひとりが秘めるマイ
ンドとポテンシャルを認め、高め、実社会で役立つ総合的な力を育むために。“21 世
紀を生き抜くチカラ。”を育てる。』

(引用：北陸大学『2017 年 21 世紀型スキル AO 入試スタート』より抜粋)

(その他)

・山本学長補佐の前任地である九州国際大学では、プロジェクト・アドベンチャー手
法を活用した新入生研修が導入されている。九州国際大学や九州地区の大学間
連携活動での実践を通じて、体験学習における一人ひとりの行動の評価手法を研
究し、北陸大学にて入試の活用を行った経緯がある。

・本 AO 入試合格後入学した全学生に対し、4 年間にわたり年間 20 万円の奨
学金が給付される。なお、本 AO 入試は出願資格認定であり、資格認定後の出
願は義務ではない。

参考とした文献

1. 『リクルートカレッジマネジメント』201, p 53,リクルート
2. 北陸大学『学生募集要項』
3. Between 情報サイト「北陸大学－体験型学習を活用した AO 入試で主体性、協働力を評
価」

<<http://between.shinken-ad.co.jp/hu/2016/08/hokuriku-u.html>>

<No.55> 山口大学

出題年度	2016 年度
学部	教育学部
入試方法	AO 入試（定員 126 名のうち、教育学部 20 名）
	<u>第 1 次選抜</u>
	・志望理由書、自己 PR、調査書（50%） ・英語の資格・検定試験等（10%） ・高校における活動履歴（40%）
解答形式	<u>第 2 次選抜</u>
	・個人面接（30%） ・講義等理解力試験（講義受講とレポート提出、プレゼンテーション） （70%） *（ ）は配点比率、第一次選考の配点比率は学部により異なる
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
	<u>第 1 次選抜</u>
	第一次選考は出願書類により行われる。志願者数が募集人数の 3 倍以内の場合は実施しない。 出願書類の配点比率は、全学共通評価 70%、学部指定評価 30%である。全学共通評価では、調査書や資格等の配点割合が 60%を占めることから、「知識・技能」が必要であることが分かる。学部指定評価では、教育学部において「高校における活動」のみで 30%を占めることから、教育学部では「主体性・多様性・協調性」を重視していると推察される。教育学部は、AO 入試で求める学生を以下で掲げており、理念に基づいた評価がされていることが分かる。
概説	①さまざまな側面から子どもを共感的に理解し、共に成長しようとする人 ②小学校教育に強い意欲を持ち、人や社会、自然や文化と触れ合うことで自分の考えを深めていこうとする人 ③広い視野で学校教育の問題を考え、さまざまな人と協力しながら課題解決を図ろうとする人 ④自他を尊重し、ボランティア活動等を通して進んで地域や社会に貢献しようとする人 （引用：山口大学『平成 28 年度 AO 入試学生募集要項』< http://nyushi.arc.yamaguchi-u.ac.jp/yoko/dat/h28_ao_boshu_yoko.pdf#page=12 >より抜粋）
	<u>第 2 次選抜</u>

- 個人面接

出願書類（志望理由書、自己 PR、調査書）を参考資料として、個人面接を実施し評価する。（*2、*3）

*2「思考力・判断力・表現力」を測る内容

*3「主体性・多様性・協調性」を測る内容

- 講義等理解力試験

- ・講義受講とレポート提出

志望学部により異なるテーマの講義（50分）を受講のうえ、レポート作成（60分）提出を課す。講義内容に対する理解力、論理展開、主体性を判断している。（*1、*2）

* 講義事例：「ものの見方・価値観/2016年」、「キャリア教育/2015年」

*1：「知識・技能」を測る内容

*2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容

- ・プレゼンテーション

課題を提示し、課題に関するプレゼンテーション（資料作成 30分、発表 3分以内、質疑）を行い、課題の意味を主体的に考察させて、課題解決に向けた論理展開と効果的に説明をする能力を評価している。（*2）

* 課題事例：「構想し提案すること/2016年」、

「子どもや保護者に対する教育的な関わり/2015年」

*2：「思考力・判断力・表現力」を測る内容

<No.57> 立命館大学

出題年度	2003 年以降毎年
学部	文学部（地域研究学域）
入試方法	AO 入試（フィールドワーク方式）（定員 8 名）
解答形式	<u>一次選考</u> <ul style="list-style-type: none">・エントリーシート・課題レポート <u>二次選考</u> <ul style="list-style-type: none">・フィールドワークとレポート作成・面接
分類	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協調性」
概説	<u>一次選考</u> <ul style="list-style-type: none">● エントリーシート 志望理由、入学後に学びたい分野やテーマ、卒業後の進路（就職や大学院進学）を問うことで、「動機」に加え「地域研究についてどのような可能性に注目しているか」が評価される。● 課題レポート 受験者自らが撮影した景観写真 3 枚（地域のようすがわかる写真）と撮影場所を示す A4 サイズの地図 1 枚を用いて、写真に示される地域的事象を 800 字以内で説明する。テーマはレポートの内容に即した形で自らが設定する。取り上げた地域に関する写真と地図の的確な選択と活用、地域のユニーク性を捉える着眼点、分析結果をまとめ記述する力が評価される。 <u>二次選考</u> <ul style="list-style-type: none">● フィールドワークとレポート作成 フィールドワーク（150 分程度）とその結果をまとめるレポート作成（60 分）を課す。対象地域の地図を読み、そこから得られる情報に基づき、限られた時間内に現地調査を行い、分析、考察のうえ、地域特性をまとめる。景観上の特徴・土地利用の多様性について、現地調査の結果と文献資料や地図などの資料をふまえて独自の分析を行い、インドアワークとフィールドワークの結果をバランスよく記述・表現する力、フィールドワークの前提となる基礎的学力・知識の程度が評価される。2016 年度は「廬山寺通の景観と土地利用について」が出題された。

- 面接

一次選考、二次選考で提出されたレポートをもとに面接を行う。レポートに関する説明が明確であるか、また面接時の応答の的確性を評価する。

上記 4 段階の試験を通じて、地域研究分野に必要とされる資質や能力について多面的な評価を行うことで、それらを有する入学者を選抜している。

「課題レポート」や「フィールドワークとレポート作成」、「面接」を通じて、自ら調査活動を行い、的確な資料の取捨選択を行うことや情報を読み取る「知識・技能」、地域特性を分析し考察し説明ができる「思考力・判断力・表現力」を測る。また「エントリーシート」や「フィールドワーク」から、地域研究をどのように捉え、主体的に関わろうとするかに関する意欲、態度、すなわち「主体性・多様性・協調性」を測っていると推測する。

【参考】

(アドミッション・ポリシー)

人文学の分野・領域に対して深い関心と探究心を持ち、学域・専攻での学びを通して幅広い知識と豊かな表現力を身につけて、人間と社会が抱える諸問題を追究・解決しようとする学生を求めています。

(本試験の目的)

実際のフィールドワークを通じ、次のような優れた能力を有する者を積極的に評価し、受け入れることを目的とします。

- (1) 専門分野における学習意欲を有している
- (2) 演繹的な知識とその運用能力を有している
- (3) 自らの好奇心や独創性にもとづく帰納的な思考力を有している
- (4) 自ら学ぶことの面白さを知っている

(引用：立命館大学「2017年度AO選抜 文学部「フィールドワーク方式」入学試験 入学試験要項」より抜粋)

参考とした文献

・立命館大学『2016年度AO選抜文学部 地域研究学域「フィールドワーク方式」
(過去問題・講評)』

・立命館大学『2015年度AO選抜文学部 地域研究学域「フィールドワーク方式」
(過去問題・講評)』

・Benesse マナビジョン (要会員登録)

<<https://manabi.benesse.ne.jp/mypage/gutapp/RealSiteReportViewAction.do>>

4. 高大接続システム改革に対応する各大学の入試対策に対する体系的改善策の検討

本章では、各分科会での議論や入試動向調査を踏まえ、入試改革に向けた体系的改善策を検討する。

4.1 共通の議論

入学者選抜においては、志願者の能力や適性等をアドミッション・ポリシーと学力の 3 要素をふまえて多面的にかつ丁寧に、公正に評価することが求められており、かつ、そのプロセスを最小限の経営資源で推し進めることが必要である。

入試動向調査の結果から、AO 入試等は、各種書類やアクティブな方法を活用することで、一般入試と比較して志願者の能力や適性等を多面的にかつ丁寧に評価されていることが判明した。

現状では、各種書類やアクティブな方法を、募集人員の少ない AO 入試等のみで採用している大学が多数であるものの、調査事例を参考にして、あるいはさらに広く深くベンチマークを進めることで、募集人員の多い入試枠においても、公正な入試方法を最小限の経営資源で運営できる仕組みが構築できる可能性がある。参考となった調査事例としては、例えば、京都大学（No16、別紙 1 の事例番号を参照、以下同様）、東北大学（No39）のようにアクティブ度合いを低める方法や、追手門学院大学の「アサーティブプログラム」「アサーティブ入試」（No6）のように ITC の力を活用する方法が挙げられる。特に ITC 活用に関しては、制度分科会でも e-ポートフォリオを活用による選考プロセスの労力削減の可能性が議論されており、今後更なる検討が必要である。

「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を評価する方法については、一般入試のカテゴリにおいて国際基督教大学の「総合教養【ATLAS】」（No22）のように音声講義の聴解や、長崎大学の「批判的論理的思考力テスト」（No43）のように長文読解で代替可能であることが示唆された。

一般入試のペーパーテストにおいても、「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」のうち各大学のアドミッション・ポリシーに従って重視したい能力や適性等を多面的に評価できる可能性があることが、調査を通じて明らかになった。これは、地理分科会での議論において、記述式・マーク式問わず、写真や図を与えて思考力・判断力を問う出題は可能との意見が出されたこととも関連すると考えられる。

4.2 大学へのヒアリング

3.3.1(3)で選定した 15 件の入試事例、ならびに分科会等での議論を踏まえ、入試改革に向けた体系的改善策を先行して実施していると考えられる大学を 5 件選定し、ヒアリング調査を行った。

No	大学名	訪問日	先方対応者
2	宇都宮大学	2017年3月2日 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・塚本 純 氏 (地域デザイン科学部学部長) ・中島 宗皓 氏 (教授) ・白石 智子 氏 (准教授) ・小澤 好則 氏 (総務係)
9	お茶の水女子大学	2017年2月20日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ・安成 英樹 氏 (教授、入試推進室長・教育研究評議員) ・川島 亜紀子 氏 (特任講師、プロジェクト教育研究院) ・山本 隆 氏 (入試課課長)
21	高知大学	2017年3月8日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木 啓之 氏 (教授) ・横山 光治 氏 (学務部入試課課長補佐)
39	東北大学	2017年3月10日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ・石井 光夫 氏 (教授)
43	長崎大学	2017年3月1日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・木村 直樹 氏 (教授) ・多田 拓朗 氏 (総務課総務班主査) ・高藏 祐亮 氏 (広報戦略本部主査)

※表記 No は、別紙 1.「調査事例の選定候補」の No に準ずる

<No.2> 宇都宮大学

訪問日時 2017年3月2日(木) 15:30-16:30

場所 宇都宮大学 陽東キャンパス 8号館 1階 小会議室

出席者 宇都宮大学

- ・ 塚本 純 氏 (地域デザイン科学部 学部長)
 - ・ 中島 宗皓 氏 (地域デザイン科学部 教授)
 - ・ 白石 智子 氏 (地域デザイン科学部 准教授)
 - ・ 小澤 好則 氏 (総務係)
-

内容 実施状況

- ・ 2年間実施した状況として、1次選考での受験生倍率が想定よりも低かった。これは、指導する高校の先生にとって、選考方法に起因した負担感が推薦入試と比べ大きいことに要因があると思われる。
- ・ 1次選考で求められる書類内容は、受験生の自主的、主体的な社会活動経験や大学進学後に行う地域貢献活動などであり、先生が教えられる内容ではない。
- ・ 2次選考も、オーラルプレゼンテーション能力(プレゼンテーション)、コミュニケーション能力(グループディスカッション)、学習意欲(面接)などの資質を総合評価する内容である。

第2次選考

- ・ プレゼンテーションは A0 版のポスターを用いて発表してもらう(提示は任意)。パワーポイントはパソコン環境などの要因が入る可能性があるので用いることができない。
 - ・ 発表ツールの出来ではなく、オーラルプレゼンテーション能力を見ることが第一である。
 - ・ 審査員として学部教員 14 名がいろいろな観点で多角的に見る。
 - ・ 発表テーマは、1次選考書類(社会的な活動経験、進学後の自己設計)の中で自由に選ばせている。
 - ・ 入試対策への対応は特に考えていないが、各先生は受験生の回答のパターン化を織り込み、それを崩すような質問をしている。
 - ・ 論述試験は、受験対策としてパターン化されるので本当の評価が難しい。論述試験を入れてまで、現状の何かを止めるという考え方はない(学力はセンター試験で見ると)
-

評価基準

- ・ プレゼンテーションでは伝える力、グループディスカッションではコミュニケーション能力を重視している。
- ・ 審査員全員で、アドミッション・ポリシーに基づく求める人物像と評価観点の事前説明・確認を行っている。
- ・ ルーブリックは作っていない。
- ・ 受験生の説明テクニックでなく、真剣な取り組み姿勢とそこから出た言葉を汲み取るようにしている。
- ・ プレゼンテーション、グループディスカッション、面接を実施することで、それぞれ違う観点から総合的に人物を見たい。ハートを重視している。
- ・ 審査委員の先生方の評価が割れた場合は論議をする。
- ・ みんなが一致して良いという学生、一致して悪い学生、一致して普通と判断する学生、そして評価が割れる学生がいる。

配点

- ・ 学力はセンター試験で見ており、配点は 900 点でかなり重視している
- ・ 2次選考の配点は、プレゼンテーション（300 点）、グループディスカッション（300 点）、面接（300 点）で 900 点、センター試験が 900 点で 1:1 の割合にした。
- ・ センター試験で全科目（5 教科 7 科目）を課し、それに対して 900 点を配点することについては、基礎学力の適応力を考慮しているが、妥当性の再検討は必要かもしれない。

学生の状況

- ・ AO 入試の学生は、一般入試の学生と比べモチベーションの発揮の仕方が違う。
- ・ AO 入試の学生は、入試・合格の時期が早いので、入学前の事前学習など 教員とのコンタクトが早い分慣れも早く、一般入試の学生に対してよいお手本になっている。ただ 1 年もしないうちに一般入試の学生も馴染んで変わらなくなる。
- ・ 授業成績においても AO 入試と一般入試の学生の違いは見当たらない。

キーワードを活かした枠組み

- ・ 7 年前に 3 つのポリシーを関連付けて「地域で活躍する」というキーワードを作成し、対外的なアピールをはじめた。
 - ・ こうした活動は、他の国立大学よりも早かったし、私立大学よりも進んでいると思う。
 - ・ 「地域で活躍する」というキーワードを頭に持ってきて、そのための幅広いコミュニケー
-

ション能力と問題意識が大事という枠組みはわかりやすく、3つのポリシーとの紐づけ、実際の選考方法との紐づけは理解しやすい

- ・ 文科省が言う学力の三要素は2次選考に入っている、知識・技能はセンター試験で評価している。

その他

- ・ AO入試枠5名での実施は、まだ検証段階であり、この入試方法での拡張性については論議できていない。
-

<No.9> お茶の水女子大学

訪問日時 2017年2月20日(月) 14:00-15:00

場所 お茶の水女子大学 学生センター棟2階 会議室

出席者 お茶の水女子大学

- ・ 安成 英樹 氏
(大学院人間文化創成科学研究科 文教育学部比較歴史学コース教授、
入試推進室長・教育研究評議員)
- ・ 川島 亜紀子 氏
(プロジェクト教育研究院 特任講師)
- ・ 山本 隆 氏 (入試課課長)

内容 出席者について

- ・ 安成教授は、文部科学省大学教育再生加速プログラム (AP) 事業 (以下、AP 事業) に採択された新フンボルト入試の主務計画者。
- ・ 川島特任講師は、AP 事業採択に伴い採用された有期雇用の専任教員。
- ・ ヒアリングの対応 (対話) は安成教授が 1 人で行われた。

ヒアリングの対応について

- ・ 公表済み資料 (Web、パンフレット等)、文部科学省申請資料、講演等での説明内容、既に公開されているデータなどを基にした対応となる。
- ・ その理由として、新しい入試の取り組みと予備校などの入試対策講座はイタチごっこの状況にある。入試特性が分析できるデータが外部に出ることで、本入試についても対策が検討されてしまう可能性があり、本当に見たい受験生の資質でなく、ハウツー的な資質が評価され、入試目的を果たせない。
また始めたばかりの取り組みであるため、客観的なデータや成果が十分と言えない。

試験内容について

- 評価方法について
 - ・ ルーブリックによる評価は申請段階で記載したが、作成・使用有無について回答できない。
- プレゼミナール (一次選考)
 - ・ プレゼミナールは 1 日間で計 5 つのセミナー、定員は各 30 名で実施する。
 - ・ プレゼミナールの開催は、オープンキャンパス的な要素もあり、受験生以外の下位学年の高校生も参加している。

-
- 図書館入試（二次選考）
 - ・ 二次選考には文理で 83 名が受験した（図書館入試は文のみ）。

図書館入試の経緯

- ・ 社会に出てから必要となる「自分で考えて自分で解を構築できる力」を大学で育成するため、その資質がある学生が欲しかった。この力を測る方法として、「情報を自分で集めて、自分で考え、自分で論じる」力を問うことを基本に設計した。
- ・ 受験生に課している課題が難しいことは承知しているが、才能の一部が見えれば嬉しいと思い、苦労しながら運営している。
- ・ 推薦入試はパターン化してきており、受験予備校に対策されがちである。また、論文もその書き方などで受験対策が出来上がっている。
- ・ ゼミナール教育の原点と云われるドイツの学者・フンボルトにちなみ、その名称とさまざまな「知」が集積されている図書館を選定した。
- ・ 少ない人数でも多様性のある学生を確保することで、全学への波及が期待できる。
- ・ AO 入試・推薦入試の学生は振れ幅が大きく伸びしろがある。一方、一般入試の学生は、ばらつきが少ない。

課題

- 志願者について
 - ・ 大学が期待する学生（合格者）の質と量を維持することが非常に大きな課題。東京大学、京都大学の受験者層は、まだお茶の水女子大学に振り向いていない。お茶の水女子大学が好きな学生だけでなく、大学の授業についてこられる力のある学生が欲しい。
 - ・ AO 入試・推薦入試に対し、高校側の反応は概して冷淡と感じる。一般入試では、お茶の水女子大学に多くの生徒が受験してくれている高校に案内を送っても反応が悪い。さらに、一般入試で縁のない高校へのアプローチはより困難である。
 - 書類審査について
 - ・ 一次選考で行う書類審査において、例えば英語の学力であれば、「外国語試験成績書」の資格基準などのレベル合わせが難しい。
 - 運営予算について
 - ・ 本入試は非常に手間暇がかかり、その分予算が必要となる。
-

-
- ・ プレゼминаールの受験生フォローや図書館入試の受験生フォローのために、現役大学生を TA として配置しており、人件費がかなりの割合を占める
 - ・ 本入試の財源は AP 事業予算（6 年間/2015 年度～2020 年度）であるが、今年が 3 年目で年ごとに予算が削られていく。
 - ・ 文科省は自前で賄えるようになれと言っているが運営は厳しい。
第二次選考（図書館入試、実験室入試）は維持できるが、第一次選考のプレゼминаールの運営は相当に厳しい。
- 入試組織体制について
 - ・ お茶の水女子大学は常勤専任教員が 180 名と規模が小さいため、入試担当に人を割り当てる余裕がない（担当者 0 名）。任期つき（2 年）教員が担うために長期戦略が立てられない。
 - ・ AO 入試で入学した学生の入学後追跡調査は実施すべきと思うが、大学運営の仕組みとして、「入試」「学修」「学生生活」「就職」などを統括的に把握する仕組みがなく、事実上大変難しい。ただし、学生ポートフォリオは活用されているので、学修履歴には紐づいている。

今後の展望

- ・ 波及効果として他入試に活用されることを期待している。特に推薦入試との合併は可能性があると考える。
 - ・ 本 AO 入試の形式を一般入試へ採用することは無理があり、学生の多様性を求める AO 入試のコンテンツを一般入試に求めることは相当に困難だと思われる。
 - ・ 新しいやり方を一律導入するのではなく、現状の方式と新方式の併用による多様性の維持・拡大こそが最も重要である。
-

<No.21> 高知大学

訪問日時 2017年3月8日(水) 15:30-16:40

場所 高知大学 地域協働学部棟 会議室

出席者 高知大学

- ・ 鈴木 啓之 氏 (地域協働学部行財政学研究室 教授)
 - ・ 横山 光治 氏 (学務部入試課 課長補佐)
-

内容 出席者について

- ・ 鈴木教授は、地域協働学部 AO 入試 I を作成したメンバーのうちのひとりである。AO 入試 I は、当時の同大学人文学部の教員数名で作成した。
- ・ 本ヒアリングの対応は鈴木教授が主に行った。

試験内容について

【一次試験】

- 志望理由書 (志願票) について
 - ・ 自由記述テーマは、①自分の行動体験についての分析、②出身地域の社会に対する分析、③同学部への志望理由であり、分量は自由である。
 - ・ 3 テーマそれぞれの主な評価項目は以下のとおりである。
 - ①実績や結果ではなく、課題や困難に対して何を考えどのように取り組み、そこから何を学んだかについて、読み手が具体的にイメージできるように記述されているかどうかなど。
 - ②地域の課題について現実的な考察が行われているかどうかなど。
 - ③どのようなテーマや課題を意識し、具体的に考えているか、それは①で得た経験等と関連するのかどうかなど。
 - ・ 志願票の記述内容について二次試験の面接で掘り下げることにより、単なる試験対策的な内容ではなく、自分自身の考えであるかどうかを見極めている。
 - 講義理解力試験について
 - ・ 講義のテーマは、国内地域の現状、歴史、課題などに関するものを設定している。
 - ・ 小論文のテーマは、講義内容の理解度を問うものが中心であり、講義内容を要約させるような問題を 2、3 問出題し、加えて、講義内容を参考にして自身の意見を書かせる問題を 1 問程度出題した。
 - ・ 講義時間及び解答時間は、質問用紙の配布時間などを勘案し、それぞれ 80 分間程である。小論文の文字数は全体で 2,000 字以内に収まる程度である。
 - ・ 受験者の 9 割以上が全設問に解答できている。
-

-
- ・ 小論文の採点方法について、講義内容を要約させるような問題は、講義内容及び小論文の問題を作成する際に正解例を作成しており、それに沿って採点を行っている。自身の意見を書かせる問題は、基本的な誤解や知識が誤っていないか、他の意見を意識した論述となっているか、論理的に表現できているかなどを基準に評価している。
 - ・ 採点は1問につき複数の採点者が行っている。

【二次試験】

- ゼミナール活動適正試験について
 - ・ 休憩含め3時間程度のグループディスカッションを行う。
 - ・ 指定テーマに基づき、サブテーマを設定するところからグループ討議を行い、模造紙に討議内容をまとめ、発表及び質疑を行う。
 - ・ 5人1組で6組作り、合計30名の一次試験合格者が受験する。
 - ・ 本試験の狙いは、同学部のディプロマ・ポリシーに従って、チームでの行動や意思決定など様々な場面への対応能力が高い学生を選抜することである。
また、対人関係能力が低いと、同学部入学後の実習授業等に支障をきたす恐れがあるため、グループ活動を観察評価することは適切な選抜方法であると考えている。
 - ・ 3時間程度で上述のワーク量をこなすことに関して、導入前の検討段階では、アイスブレイキングに時間がとられると想定していたが、実際は、志願者はスムーズに場になじむことができ、軽い自己紹介程度でワークを開始することが可能であったため、当初の想定よりも長く時間を取ることができている。
 - ・ 6組に対して試験官を1組1名ずつ、計6名を配置し、時間ごとにローテーションしながら採点している。試験官が見たタイミングによって評価にばらつきが出るため、担当していないタイミングでも他の組の様子を観察するようにし、採点時の意見交換では、試験官同士で情報交換を行うようにしている。
- 作文について
 - ・ テーマは、ゼミナール活動適正試験の振り返りである。試験時間は90分で、文字数は800字～1,000字程度である。

AO入試I全体

- ・ 同大学人文学部での経験から、チームで活動するにあたり必要な資質を持った学生の特性を、入試により抽出することは可能であるという見込みがあった。
 - ・ 同学部では、ゼミナールでのリーダーという位置づけではなく、大学卒業後に地域を繋ぐ中心になるような学生を求めている。
-

-
- ・ 同学部ではすべての入試方法において、作文または小論文、面接、グループワークの要素を取り入れており、AO 入試 I の選抜者のみに特別な資質を求めているものではない。
 - ・ ただし、AO 入試 I は選考時期が早く、推薦入試 I の選抜者と共に入学前学習を行っていることから、入学直後から学年の先導役になることを期待している。
 - ・ 現時点では、入試方法の違いによる入学後の学生の学習状況に差は見られない。
 - ・ 試験実施メンバーは、同学部の中から 6 名選出され、その 6 名で該当年度の出題内容、詳細な評価基準、試験官、面接官、評価者といった、一連の役割をすべて担っている。
 - ・ 入試の負担は大きいですが、同学部定員の 4 分の 1 をしめる人数を募集している入試として、過大な負担であるとは考えていない。

高校に対する取り組み

- ・ 大学進学する生徒がいるような高知県内の高校は、ほぼすべて広報活動で回っている。
- ・ 高知県外の高校も、受験実績のある高校には広報活動を行っている。
- ・ 高校訪問や、各地域で開催する予備校などの進学説明会で、入試担当者が試験方法やどのような観点で評価しているのかを説明している。
- ・ 評価の観点や、入試対策の方法などを直接的に聞かれることもあるが、問題の内容に触れない程度で助言できるように、同学部の教員スタッフの中で情報共有を行い、全員で広報活動にあたることができるよう準備をしている。

課題（運営）について

- ・ 現状、一次試験で募集定員（15 名）の 2 倍の人数に落とすことで、前述の二次試験を行うことができている。
 - ・ それでも、入試実施メンバー 6 名の負担は大きく、一人でも体調不良などがあると円滑に運営することが難しくなる現状がある。
-

<No.39> 東北大学

訪問日時 2017年3月10日(金) 13:30-14:45

場所 東北大学 川内キャンパス 入試センター2階 応接室

出席者 東北大学

- ・ 石井 光夫 氏 (高度教養教育・学生支援機構
高等教育開発部門入試開発室/入試センター 教授)

早稲田大学

- ・ 高橋 一城
-

内容 AO入試制度全般について

- ・ 選考は学力を最も重視し、高校時代の活動や入学後の設計は+αの要素である。ここでいう学力とは、学校で身につけてきたそれを展開できる能力を言い、知識、技能、思考力、判断力、表現力を示す。
- ・ 東北大学に入学したいという強い気持ちを持ち、かつ十分な学力を有した、優秀な学生を獲得できていることが、結果 AO 制度の成功に繋がっている。AO 制度で入学した学生は、一般入試の学生と比較すると、勉学への積極的な取り組みやリーダーシップ性が強い傾向にある。
- ・ AO 入試は学生にとってキャリア教育の機会と捉えている(志願書や活動報告を通して自分と将来を見つめ直す。面接練習では東北大学での入学後のイメージや目的意識が明確化する。的確な言葉で自分を表現し、明確な意識を持って入学させる機会の創出は教育につながる)。

選考方法

- ・ AO 入試は、センター試験を利用する、利用しないの2つのタイプがある。
- ・ 利用しない場合の学力の担保は、評定平均 A ランク 4.3 以上の出願基準の設定と学部が求める資質能力に関する筆記試験である。
- ・ 1次選考、2次選考の内容は学部により異なる。1次選考において文学部は、出願書類のほか、筆記試験を実施する。その他の学部(理学部・工学部・農学部)では、志願者が募集人数を大幅に上回る場合のみ、出願書類により審査を行う。
- ・ 1次選考では受け入れ可能な範囲で合格することを方針とする。

選考方法/筆記試験 ※学部により異なる。

- ・ 文学部の筆記試験は、現代語の日本語能力を測るもので、3時間をかけ徹底して読ませ、書かせる。
-

-
- ・ 理学部は分野（系）ごとに、その分野に関する高度な内容の試験を課す。
 - ・ 工学部の筆記試験は、理科、数学、英語に関連した問題で、英語出題の試験では日本語で 300 字、400 字書かせる記述式問題を設けている（600 字の頃もあり）。

選考方法/面接 ※学部により異なる。

- ・ 面接官は、1 人の学生に対し 3 人以上で対応する。
- ・ 時間は、大体 15 分から 30 分程度。
- ・ 志望動機等を確認する一般面接の他、筆記で誤った箇所を振り返るような専門的な内容を問う口頭試験のような方法をとる学部もある。

体制、評価

- ・ AO 入試の設問、選抜方法、評価・配点基準、募集人数の設定は基本的に学部裁量とし、入試センターは支援、提案を行う。
- ・ 入試センターが核となり、AO 入試担当者との懇談や FD で担当教授と話す機会を作り、標準化する。面接での注意点、プロセス等のレクチャーを行う場合がある。
- ・ 学部ごとに入試関係の委員会がある。入試の企画運営は委員会の先生を中心に毎月実施し、全学的なものは入試センター主催で会議を実施している。
- ・ 各学部で、採点基準を作り、客観的に採点する仕組みがある。採点基準は事前に共有をする場を設ける。
- ・ 面接の基準は、専門に対する知識や興味関心などに対し総合的な評価を行う。結果は点数化する。面接官によって評価に大きな差異がある場合は、本部より面接官に確認を行う場合がある。

結果の公表

- ・ AO 入試の結果は、本年度（2016 年度）より受験生に対して通知している。
- ・ 通知内容は、募集要項に記載されている「書類」「筆記」「面接」などの区分で、それぞれの評価の点数を通知する。
- ・ 一般入試の結果は、数年前より通知している。

一般入試への展開について

- ・ AO 入試のような対応は一般入試では難しい。医学部での面接実施、また後期試験でも一部学部で面接導入を検討しているが、一般に前期は筆記試験以外の対応は難しい。
 - ・ 文科省が提唱する高度な論述式の問題（いろいろな情報を統合し、考えをまとめ、表現する力を測る問題）への対応について、具体策は未定。現在の AO 入
-

試で行っている体制やノウハウを一般入試で生かすことになるだろう。

- ・ 記述式への対応については、採点基準への合意とテスト採点による、採点官の共通認識の深化により対応が可能。しかし、日程のほか、採点官の導入、それに係る人材教育など考えるとすぐにできるものではない。
 - ・ 全学部共通問題としても、全学一致で同じ評価である必要はなく、募集単位である学部内で評価を完結するなど採点手段も柔軟に考えていく必要がある。
-

<No.43> 長崎大学

訪問日時 2017年3月1日(水) 14:00-14:50

場所 長崎大学 総合教育研究棟 10階 小会議室

出席者 長崎大学

- ・ 木村 直樹 氏 (多文化社会学部 教授)
- ・ 多田 拓朗 氏 (文教地区事務部総務課 多文化社会学部総務班主査)

早稲田大学

- ・ 山田 晃久 氏
-

内容 多文化社会学部設置経緯等

- ・ 多文化社会コースを設置する際に、語学力と人文社会系の専門性の両方が必要なことから、専門性を追求する要素を見るものとして「批判的論理力思考力テスト(論述形式)」を一般入試で実施している。
- ・ カリキュラムの基軸の1つが批判的な思考力なので、入試も何らかの形で取り込む必要があった。
- ・ カリキュラムがあって、そのために必要な入試を設定し、それに応じてくれる学生さんに来てもらうという意味は非常に強い。その分、学習指導要領からの逸脱かどうかという問題はどうしても常に付きまとうところがある。

情報公開・採点基準

- ・ 学外に対し入試の基本方針は示している。また、出題の観点は受験生の理解のために公開するようにしている。
- ・ 採点基準は非公開。ただし、採点基準をもとに作成したサンプル問題を公開している。
- ・ 採点基準となる複数の観点からルーブリックを策定し、点数化して、それに基づいた採点を行っている。
- ・ ルーブリックを策定しても採点がぶれる可能性があるので、1つの問題を複数人構成(3~4人)のチームで見る。
- ・ 200人程度の受験生に対して、1チームが1つの問題の採点を全て通す。意見が割れたら調整を行う。
- ・ 200~400字の論述の採点の場合、300人が限界。
- ・ 採点には時間と手間がかかっている。少人数だからこそこのシステムを作っている。従ってこの受験形式に汎用性があるとはあまり考えていない。

入試範囲・作問

-
- ・ 問題作成は、作問の委員会の中である程度調整している。
 - ・ よいテーマでも試験問題として作りにくいものもある。逆に難しいテーマでも比較的作りやすい内容もあることから、方針を決めていても具体的に問題に落とし込む作業は難しい。
 - ・ 高校の社会科の範囲内に関わるものを中心に選んでいる。
 - ・ 現代的な問題に偏ることなく、地理や歴史的な部分も意識して配点している。
 - ・ 一般的な高校生の社会科では、日本史、世界史、地理が中心に学ばれるので、特定の科目だけを勉強してきた受験生が不利にならないように考えている
 - ・ 結果的に新しい指導要領による「歴史総合」には適応するかもしれない。
 - ・ 出題形式を考える際に参考にした他大学入試は特になかった。
 - ・ 批判的思考力の試験では、論述問題でなく選択問題を作る方が大変である。
 - ・ 選択問題において微妙な違いで間違えている問題を作ることは難しい。
 - ・ 人文系は総合力が問われると考えており、問題にも反映している。
 - ・ 論述はテーマについての主観的な思いではなく、与えられた資料をしっかりと読み込み、文章に反映しているかについてを評価している。

運営体制

- ・ 学部設置時にこの形式の入試を作る人材がそろっていた（教員など）。
- ・ 地理、歴史などの分科会は存在するが、作問の際は分野にこだわっていない。そもそも人員(専任教員 25 名)を考えると、そのようなことを考えていられないという事情もある。

現状の課題、改善策等

- ・ 受験倍率は他の国立大学より低い。これは①英語の足きりラインを設定していること、②出題の特殊性にあると考えている。
ただし学部定員が 100 人弱なので、これぐらいの受験生は集まるだろうという認識がある。
 - ・ 高校側から、もう少し簡単で一般的な問題、高校が対応しやすい問題を作って欲しいという話を受ける。
 - ・ 本入試を経て入ってきた学生は発想が柔軟で活発な傾向があり、一般の学生とは違うと認識している。レポートなどでその傾向が見て取れる。ただ全員というわけではない。
 - ・ 九州は教育方針が古いのか、総合問題対策として「想定されるテーマに絞って対策」をしているところもある。入試対策はある程度されてしまっている。
 - ・ 本入試では①データを読み取る、②それを前提に批判的に考えるという 2 段階になっているが、そのような入試対策に依存した受験生の答えは、データを読み取る
-

ような基礎的な力はあるものの、設問資料を活かした記述が少なく、想定パターン的な記述が多くなる傾向を感じることは多い。

- ・ 入試対策の効果で合格した学生に対して、批判的思考力をどう養っていくかを考えなければいけない。
- ・ 高校側からは、「あなた方は、地頭のよい学生が欲しいのですよね」とか、「高校の教育を無視している」と言われるが、高校側が批判的思考力に対応できていないと思う。
- ・ 高校教師にも古い方針である人が多く（年配の方に多い）、このような形式の入試について、センター試験の結果に応じた直前対策ができないということで批判されることもある。
- ・ 県内の高大連携を意識して批判的思考力についてのワークショップを高校教師に対して行ったことがある。教師側の関心は高いが、ワークショップに参加することで入学しやすくなるのではという思惑も感じられるので、考えがかみ合っているかは微妙。
- ・ SGH（スーパーグローバルハイスクール）を取っている高校とは、年に数回会い連携している。
- ・ サンプル問題を高校生にテスト的に解かせるようなことはしていない。
- ・ 現在あるサンプル問題は長崎大医学部の学生に解かせた。従ってデータ重視で理系の学生向けになっているが、本番では人文寄りの問題が多い。
- ・ 入試対策（パターン化）の改善策として、回答における批判的な記述内容に対する配点を上げるぐらいしかできていない。入試対策を考慮した上で問題をつくる必要があるとなる。
- ・ しっかり読み込むことを前提に、資料同士を関連付けて解答させることで、解答テーマによりパターン化した解答とルーブリック上にも得点差を持たせる。
- ・ 倍率が上がれば対策のみをしてくる学生は入学しづらくなると思うが、長崎県では毎年18歳人口が減っていているので実現するかは不明。

その他

- ・ 批判的思考力を押し出す学部の方針を通して入試の方式にも理解を広げられるよう高校教師、生徒に広報していきたい。
 - ・ 入学してくる学生は女子が多く九州、沖縄出身者が多い（長崎出身者は少ない）。ほかの学部は5割が長崎出身者なので傾向が異なる。
 - ・ この入試の実施は今年で4回目になり今年で4学年が揃う。
 - ・ 卒業後の希望進路としては、地元で国際的な仕事がしたいという傾向が見られる。
-

5. 本調査研究の内容、過程、成果の発信

本章では、本事業での検討状況を広く情報発信するために実施した取組を述べる。

5.1 第4回高大接続改革フォーラム

(1) 開催日時 2017年2月18日(土) 13:00-15:00

(2) 開催場所 ホテル阪急インターナショナル6階 南瑞兆

(3) 出席者

早稲田大学 田中愛治教授

(事務局) 山田、高橋

(4) プログラム

① 講演「高大接続改革の取組」

関西学院大学 高大接続センター長 北原 和明 教授

② 講演「高等学校の地歴・公民科科目の在り方に関する文部科学省審議会特別チームでの議論について」

早稲田大学 政治経済学部 田中 愛治 教授

③ 意見交換

登壇者

早稲田大学 政治経済学部 田中 愛治 教授

同志社大学 入試センター所長 多久和 英樹 教授

関西学院大学 高大接続センター長 北原 和明 教授

(司会) 関西学院大学 学長特命 尾木 義久氏

④ 情報提供「大学入学者選抜改革推進委託事業(主体性等分野)について」

関西学院大学 学長特命 尾木 義久氏

(5) 概要

本事業での検討状況の発信および高校教員との意見交換の場として、公開フォーラムを開催した。意見交換では、新科目で教える内容や評価手法、新科目に対応した高校教員の人材育成等に関する質問が出された(意見交換の内容は別紙.2を参照)。

5.2 第2回ワークショップ

(1) 開催日時 平成29年3月8日(水) 10:00~12:30

(2) 開催場所 早稲田大学27号館 地下2階 小野記念講堂

(3) 出席者

・関西学院大学

難波教授(社会学部長)、尾木高大接続センター次長、大塚高大接続センター課長補佐

・同志社大学

多久和教授(入学センター所長)

・一橋大学

石居教授

・立命館大学

吉越教授

・獨協大学

秋本教授

・立正大学

井之口講師

・早稲田大学

佐藤教務担当理事、恩蔵入試担当理事、沖教授（入試開発オフィス室長）、須賀教授（政治経済学術院長）、吉野教授（教務担当教務主任）、池教授、久保教授、齋藤教授、田中（愛）教授、川岸教授、田中（久）准教授、若田部教授、都丸教授、入学センター（渡邊課長、城座担当課長）、附属系属校プロジェクト室（菰原課長、南川）

・事務局

早稲田大学教務部（山田調査役、高橋）

早稲田大学政治経済学部事務所（鈴木事務部長、伊藤、松本）

（４）配布資料

- ① 第２回ワークショップ プログラム案内
- ② 入学者選抜改革推進事業 人文社会分野 概要について
- ③ 学習指導要領改訂に係る人文社会分野の入試改革について
- ④ 『地理総合』と、今後の大学入試の課題について
- ⑤ アンケート

（５）プログラム内容

- ① 講演 1：入学者選抜改革推進事業 地理歴史科・公民科分野の概要について
佐藤正志教授：早稲田大学理事（教務担当）
- ② 講演 2：学習指導要領改訂に係る人文社会分野の入試改革について
田中愛治教授：早稲田大学 政治経済学術院
- ③ 講演 3：『地理総合』と今後の大学入試の課題について
秋本弘章教授：獨協大学 経済学部
- ④ 意見交換（パネルディスカッション）：社会科入試改革の方向性について
座長：佐藤正志教授 早稲田大学理事（教務担当）
パネラー：田中愛治教授 早稲田大学 政治経済学術院
パネラー：秋本弘章教授 獨協大学 経済学部
- ⑤ 閉会のご挨拶
多久和教授：同志社大学 入学センター所長

（６）概要

本事業の情報発信の場として、高校教員や教育関係者を対象に公開ワークショップを実施した。講演では、本事業の概要、文部科学省の動向、分科会を代表して地理の入試改革に関する情報提供が行われた。また意見交換では、来場した参加者と共に、アクティブラーニング、出題形式、評価手法等に関する議論がなされた。また、来場者に対し、教育改革の動向の意識や、独自教育の実施状況などのアンケートを実施した（アンケート結果は別紙.3 を参照）。

別紙

1. 調査事例の選定候補

No	事例収集情報源		選定基準								候補大学			入試データ								入試名称					
	雑誌	有識者	学力の三要素			方策					地域	設置者(種別)	大学名	学生数 2016.6.1	2015年度				2016年度								
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性	選択式	記述・小論	面接・討論・プレゼン	調査書	学修計画書					資格、検定等の活用	2015年入学定員	2015年入学者数	2015年受検者数	2015年入学者数	2015年入学定員充足率	2016年入学定員		2016年入学者数	2016年受検者数	2016年入学者数	2016年入学定員充足率	
1	○		○	○								北陸中部近畿	国立	盛知教育大学	3,967	875	3,135	2,231	942	108%	875	3,236	2,313	947	108%	一般	一般入試
2	○			○	○							関東甲信越	国立	宇都宮大学	4,160	910	3,095	2,588	958	105%	910	2,940	2,537	942	104%	AO	AO入試
3	○			○	○							関東甲信越	国立	宇都宮大学	4,160	910	3,095	2,588	958	105%	910	2,940	2,537	942	104%	AO	AO入試
4	○				○							関東甲信越	国立	宇都宮大学	4,160	910	3,095	2,588	958	105%	910	2,940	2,537	942	104%	AO	AO入試
5	○		○	○	○		○	○	○			中国四国	国立	愛媛大学	8,305	1,790	7,042	4,965	1,868	104%	1,770	7,356	5,217	1,842	104%	AO	AO入試Ⅰ
6	○	●		○	○							北陸中部近畿	私立	追手門学院大学	6,500	1,420	13,578	13,368	1,725	121%	1,560	15,455	14,488	1,594	102%	その他	アサーティブ入試
7	○			○			○	○	○			北陸中部近畿	国立	大阪大学	15,479	3,255	10,327	8,268	3,439	106%	3,255	11,073	8,503	3,446	106%	AO	世界選抜AO入試
8	○		○	○			○					北陸中部近畿	国立	大阪大学	15,479	3,255	10,327	8,268	3,439	106%	3,255	11,073	8,503	3,446	106%	一般	一般入試
9	○	6	○	○	○		○	○	○			関東甲信越	国立	お茶の水女子大	2,070	452	1,905	1,570	496	110%	452	1,932	1,606	477	106%	AO	新ファンボルト入試
10	○	●	○	○	○		○	○	○			関東甲信越	国立	お茶の水女子大	2,070	452	1,905	2,680	496	110%	452	1,932	1,606	477	106%	AO	新ファンボルト入試
11	○			○			○					関東甲信越	私立	学習院大学	8,558	1,865	12,874	11,387	2,020	108%	2,065	19,334	17,323	2,267	110%	一般	一般入試
12	○			○			○	○	○			北陸中部近畿	私立	関西学院大学	23,498	5,690	45,020	44,295	5,631	99%	5,700	41,411	40,771	6,151	108%	その他	グローバル入学試験

大学名	対象学部	学科	特徴・選考方法	参考資料	備考
愛知教育大学			一般入試(地理) 2016年前期日程 地図や図表・グラフの分析・判断力を問う問題が多く見られる。200字、100字程度からそれ以下で記述させる問題が多い	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
宇都宮大学	地域デザイン学部	コミュニティデザイン学科	1次: 調査書、社会的な活動経験についての報告書、進学後の自己設計書およびその他提出された書類 2次: プレゼンテーション(5分、A0版ポスター1枚)、面接、グループディスカッション、センター試験成績等 選考基準: 「主体性・多様性・協働性」、「思考力・判断力・表現力」、「知識・技能」の総合判断	カレッジマネジメント 197号	
宇都宮大学	地域デザイン学部	建築都市デザイン学科	1次: 調査書、活動経験についての報告書(1500字以内小論形式)およびその他提出された書類 2次: プレゼンテーション(5分、A2版2枚)、面接、実技(簡単な工作、スケッチ等)、センター試験成績等 選考基準: 「建築・都市デザイン」における関心度や意欲、問題意識、視野の広さ、希望進路並びに空間的把握力、発想力、デザイン能力・表現力の総合判断	カレッジマネジメント 197号	
宇都宮大学	地域デザイン学部	社会基盤デザイン学科	1次: 調査書、地域社会貢献活動経験についての報告書(1600字以内)およびその他提出された書類 2次: プレゼンテーション(10分、PDF投影)、面接 選考基準: 社会基盤デザイン分野に関する関心度や意欲、問題意識、視野の広さ、希望進路などを問い、総合判断	カレッジマネジメント 197号	
愛媛大学		社会共創	総合問題+面接+グループディスカッション+書類(活動報告書、志望理由書、調査書) ※総合問題→学科が提示するテーマについて論じる文章・資料・図表などを提示し、その読解を通して、本学科において学ぶために必要な知識・思考判断: 関心意欲・技能表現について総合的に評価する。 サンプルで提示されている問題は「エネルギーについて」(全学科共通) グラフを読み取り解読する、再生可能エネルギーの開発が求められる理由を述べる、政府や民間企業が再生可能エネルギー導入に関心する理由を述べ、意見を述べる。その他学科による個別問題が提示される。	カレッジマネジメント 184号	総合問題サンプル: https://www.criehime-u.ac.jp/wordpress/wp-content/uploads/2015/08/%E7%B7%B7%E5%90%88%E5%95%8F%E9%A1%8C%E3%82%B5%E3%B3%B3%E3%83%97%E3%83%AB.pdf
追手門学院大学		経済・経営・地域創造・社会・心理・国際教養	試験前: アサーティブプログラムの受講 1次: グループディスカッション、基礎学力検査 2次: 個別面接 合格後: 入学前学習プログラムへの参加(生まれてから毎年分の10大ニュースを調べ、社会動向と自分の人生を照らし合わせながら、学びが社会生活と強く結びついていることを実感させる) 「アサーティブプログラム」基礎学力(言語能力+非言語能力問題)+追手門学院バカロレア(バカロレア問題+バカロレパバトル)+アサーティブノート ※バカロレア問題: 「あなたは今、この瞬間存在しますか。もし存在するとしたらどのようにしてそれを証明しますか?」等全22問	カレッジマネジメント 197号	機関誌大学教育と情報(2016年度 No1): アサーティブ入試とは http://www.juce.jp/LINK/journal/1603/03_02.html 文科省H26年度大学教育再生加速プログラム採択事業(テーマIII 入試改革) 2015年度補助事業報告書 https://www.otemon.ac.jp/assertive/plan/pdf/2015_report.pdf 事業計画 https://www.otemon.ac.jp/assertive/plan/pdf/h26_plan.pdf
大阪大学		全学部	http://www.kogakuin.ac.jp/admissions/requirement/method/recom/cbr7au0000057e29-stu/00ao2017.pdf	カレッジマネジメント 184号	世界選考入試について http://www.osaka-u.ac.jp/ja/admissions/faculty/world_tekijuku/files/exm_worldtekijuku_0901
大阪大学			一般入試(世界史) 前期 2016年は「大航海時代とそれがもたらした変化」をテーマとした問題が出題された。ヒトの交流やものの交易に伴う、大陸間の影響・変化の分析。分析・理解力・指定用語の内容に関する正しい知識理解力と使用の際の応用力が必要。解答は100字程度の論述。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
お茶の水女子大		文教育学部	1次: プレゼミナール(2日間、文理選考科目の講義・演習を受講)参加とミニレポート作成(30分)、志望理由書、活動報告書、外部外国語試験 2次: 図書館入試(1日目: 邦文図書館で図書書を自由に参照しつつ課題についてレポート作成、2日目: グループ討議・面接)	カレッジマネジメント 197号	新フンボルト入試について http://www.ocha.ac.jp/news/h280126_d/fil/h280126_2.pdf プレゼミナールについて http://www.ocha.ac.jp/event/20160715.html 2016年は、「わたしたちはなぜこのように考えているのか」知識・言語の哲学、「日本とイスラーム世界」イスラーム史・中東地域研究、「論理的な文章とはどのようなものか」言語学、「被害者の記憶と加害者の記憶」国際関係論、「どうしたら子どもは支援されるのか」学校臨床心理学の5つのテーマから選択
お茶の水女子大		理学部、生活科学部	1次: プレゼミナール(2日間、理系科目の講義・演習を受講)で作成したレポート、志望理由書、活動報告書、外部外国語試験 2次: 実験室入試 (数学・物理学、科学、情報科学科) 1日目: 実験、実験演示や事件データをもとに考察するような試験課題、2日目: グループ討議・面接 (生物学、生活科学部食物栄養学、人間・環境科学科) 1日目: 自主研究課題のポスター発表、2日目: グループ討議・面接	カレッジマネジメント 197号	新フンボルト入試について http://www.ocha.ac.jp/news/h280126_d/fil/h280126_2.pdf プレゼミナールについて http://www.ocha.ac.jp/event/20160715.html 2016年は、「生活工学への誘い」(生活科学部人間・環境科学)、「食行動の要素」(生活科学部食物栄養学)、「余弦定理と非ユークリッド幾何学」(理学部数学科)、「簡単な法則の不思議な運動」(理学部物理学)、「ナノスケールの物理」(理学部物理学)、「分子から見た香り」(理学部化学)、「食品アオサ・アオサノリ類のDNA鑑定」(理学部生物学)、「生物数千万年の歴史解析」(理学部生物学)、「コンピュータグラフィックスを体験する」(理学部情報学)のテーマから選択※志望学科のテーマを選択
学習院大学		経済学	一般入試(地理) 2016年: ドイツにおいて太陽光発電の設置が日本に先んじて急増した理由を推定せよ、という出題。 解答にあたり、表を判読する分析力、表現力を要する。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
関西学院大学			I. 国際貢献活動を志す者のための入学試験 II. 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験 III. インターナショナル・バカロレア入学試験 IV. グローバルキャリアを志す者のための入学試験(英語エッセイ方式) V. グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験 試験内容はそれぞれ異なるが、いずれも英語のテスト、エッセイ、論述など語学力が必要な課題が含まれる	カレッジマネジメント 184号	

事例収集情報源			選定基準										候補大学			入試データ															
No	雑誌	有識者	学力の三要素			方法							地域	設置者種別	大学名	学生数 2016.5.1	2015年度					2016年度					入試種別	入試名称			
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・国際性	選択式	記述・小論文	面接・討論・プレゼン	演習・課題報告書	学修計画書	資格・検定等の活用	2015年入学定員					2015年出願者数	2015年受験者数	2015年入学人数	2015年入学定員充足率	2016年入学定員	2016年出願者数	2016年受験者数	2016年入学人数	2016年入学定員充足率						
13	◎	●	○	○	○	○	○	○	○							九州沖縄	国立	九州大学	11,758	2,555	8,569	3,723	2,687	105%	2,555	8,641	6,817	2,653	104%	AO	AO入試21世紀プログラム
14	○			○		○	○									九州沖縄	国立	九州大学	11,758	2,555	8,569	3,723	2,687	105%	2,555	8,641	6,817	2,653	104%	一般	一般入試
15	○		○	○			○	○	○							北陸中部近畿	国立	京都工芸繊維大学	2,724	583	3,140	2,409	599	103%	583	3,072	2,359	602	103%	AO	ダビデ入試
16	○	●	○	○			○	△	○	△	△					北陸中部近畿	国立	京都大学	13,416	2,846	8,041	7,879	2,897	102%	2,766	8,029	7,746	2,817	102%	一般、AO、推薦	特色入試
17	○	●	○	○			○									北陸中部近畿	国立	京都大学	13,416	2,846	8,041	7,879	2,897	102%	2,766	8,029	7,746	2,817	102%	一般	一般入試
18	○		○	○			○									関東甲信越	私立	慶應義塾大学	28,735	6,405	43,352	39,893	6,674	104%	6,405	44,797	41,251	6,727	105%	一般	一般入試
19	○						○				○					関東甲信越	私立	慶應義塾大学	28,735	6,405	43,352	39,893	6,674	104%	6,405	44,797	41,251	6,727	105%	AO	AO C方式
20	◎		○	○	○		○	○	○							関東甲信越	私立	工学院大学	5,987	1,330	17,725	17,094	1,464	110%	1,330	18,613	17,910	1,432	108%	AO	AO入試
21	◎		○	○	○		○	○	○							中国四国	国立	高知大学	4,947	1,073	4,266	3,490	1,116	104%	1,075	4,392	3,564	1,098	102%	AO	AO入試 I
22	◎	●	○	○		○										関東甲信越	私立	国際基督教大学	2,480	620	2,690	2,234	612	99%	620	2,562	2,010	697	112%	一般	一般入試 (A方式)
23	○	●	○	○			○		○							北海道東北	公立	国際教養大学	884	175	1,658	1,408	193	110%	175	1,730	1,441	177	101%	その他	グローバル・セミナー入学試験
24	○			○			○	○	○							九州沖縄	国立	佐賀大学	6,092	1,301	6,464	4,326	1,340	103%	1,291	6,144	4,081	1,324	103%	AO	AO入試

大学名	対象学部	学科	特徴・選考方法	参考資料	備考
九州大学			1次：調査書、志望理由書、活動履歴報告書 2次（2日間）：講義に関するレポート、討論（150分）、小論文（270分）、面接（15～20分） →講義に関するレポート： 3つの講義（50分）を受講してレポート作成（70分）講義一部英語の場合あり。文系・理系にとらわれない内容 →討論（10名/1グループ）： 提示された3つの論議の論議の内2つを選びグループ討論 ※2013年過去問：「『恋馬台図』と考古学」、「独裁体制はいかに維持されるのか」、「The Wonder of Water（水の不思議）」	カレッジマネジメント184号	入試概要： http://www.kyushu-u.ac.jp/f/28920/h29AO21youkou.pdf
九州大学			一般入試（日本史） 2015年前期 江戸自体の平戸藩主に関する出題。表、説明文を読みながら解答する。記述は50字、90字以内で行い表現力を要する	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
京都工芸繊維大学		工芸科（地域創生Tech Program）	1次：出願書類選考、スクーリングの総合評価 2次：課題別スクーリングの結果により評価 →スクーリング： 講義や課題提示を通してレポート作成やグループディスカッション、課題提示を受けてのプレゼンテーション等のプログラム。入試そのものが体験入学・教育プログラムとしてデザインされている。 また合格者は、入学前教育を実施（テスト、英語等の通信添削指導4教科×3回、テキスト購読、スクーリング） H28年は1次（共通）は1日目：講義・テスト。講義テーマ「太陽エネルギーと生命」。地上の生物が太陽光エネルギーを生命の維持に必要なエネルギーに変換する過程について講義（50分）のあと、理解度を測る試験（90分）。2日目：課題・レポート「サル化する人間社会」。2次は課題別。	カレッジマネジメント197号	採点基準詳細、試験講義資料： http://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/9a9a8b63d20ae894e657aea527ae9c17.pdf
京都大学			高等学校での学修における行動と成果（調査書・学業活動報告書・推薦書、学びの設計書） 個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定（能力測定検査、口頭試問・面接） 医学部 医学科を除き、センター試験の成績が必要	カレッジマネジメント184号	過去問題 http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/past_issues/
京都大学			一般入試（世界史） 前期 2015年は「清朝の半植民地化」をテーマとした問題が出題された。アヘン戦争から以後60年間にわたる4回の戦争に関する物理に関する発見について、現在の社会生活において役立っていると思うことを論じる（1200字以内）	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
慶應義塾大学		文	一般入試（日本史）2015年 史料から、鎌倉・室町時代の武士と天皇について考える問題。3つの資料から解答。3つの資料から推測される時代の移り変わりの中で、天皇に対する武士の意識がどのように変化してきたか、変化の契機や背景に触れながら80字以内で解答することが求められる。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
慶應義塾大学		SFC	AO入試、C方式：指定されたコンテストで所定の成績を修めた人が対象 →コンテスト：慶応主催 未来構想キャンプ(滞在型) 参加で優秀賞をとった人でも良い ※未来構想キャンプ 1泊2日 2016年WS「倫理型ロボット・デザインワークショップ」 7,000円 表彰者のうち希望者はフォローアッププログラムに3月まで参加可能（インターンとして参加可能）		未来構想キャンプH http://www.sfc.keio.ac.jp/admissions/camp.html
工学院大学	先進工学部	環境科学科 応用物理学科	1次：書類審査（志望理由書、小論文） テーマ 環境科学：あなたが興味を持つ環境問題を1つ取り上げ、その原因と問題に至った経緯、またその問題を解決するために必要とされる対策を述べよ（1200字以内） 応用物理：20世紀における物理に関する発見について、現在の社会生活において役立っていると思うことを論じる（1200字以内） 2次：大学主催の科学教室に2日間参加し、実験準備や実験支援、小中学生へのプレゼンの実施、さらに事後レポートを総合的に評価する。基本的知識の確認として、環境科学科は課題作文（60分）、応用物理学は「英語」「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B」2科目60分のテストがある	カレッジマネジメント184号	入試概要： http://www.kogakuin.ac.jp/admissions/requirement/method/recom/cbr7au0000057e29-ett/00ao2017.pdf
高知大学		地域価値	AO入試では、1次：志願書類+講義理解力試験（90分講義+小論文） 2次：ゼミナル活動適正試験（3時間程度のグループ討論、発表、質疑）+作文（討論内容、チームの運営の仕方、自分と他のメンバーの役割など）+面接 選考基準：「思考・判断」「技能・表現（コミュニケーション、書き言葉での表現力）」「関心・意欲・態度」	カレッジマネジメント184号	
国際基督教大学		教養学部	総合教養（ATLAS）、「人文・社会科学」または「自然科学」、英語 （ATLAS）「数量的領域」、「言語的領域」、「分析的領域」におけるリベラルアーツ教育への適性を測るとともに、試験の内容に「講義を聴く」（15分程度）要素が含まれる試験。迅速かつ的確な判断力、論理的な思考力、これまで学んできた知識や考え方を柔軟に問題解決に応用する能力などを評価する。 （人文・社会科学）文学、哲学、芸術、宗教、政治、経済、歴史、社会などの分野から出題。長文読解問題。 （自然科学）数学、物理、化学、生物の4分野から2分野を選択。	カレッジマネジメント197号p38-41	総合教養科目試験問題サンプル（講義音声+問題） http://www.icu.ac.jp/admissions/april/general/atlas.html （例）講義内容をふまえて以下回答しなさい 3. 時系列で並べた場合、正しい順番の組み合わせはどれか。 a. ヒトラーの自殺→原爆投下→世界人権宣言→日本国憲法 b. ヒトラーの自殺→東京大空襲→ポツダム会議開催→原爆投下 c. 真珠湾攻撃→原爆投下→ポツダム会議開催→日本国憲法 d. 真珠湾攻撃→ヒトラーの自殺→原爆投下→ポツダム宣言受諾
国際教養大学		国際教養学部	志願理由書、グローバルセミナーで作成、提出したレポート2点及び面接の結果を総合的に判断する。レポートは、思考力および表現力などを判断する。参加者は1回のセミナーで同大教員から5分野の講義を受け、2つについて日本語でレポートを提出。同大はこれを選考資料とする。2回参加の場合、提出するレポート4選のうち内容の優れた2選で選考。セミナー期間中は同大の学生寮に宿泊する。 なお、秋田県内の高等学校等に在籍し、国際教養大学が実施する上記グローバル・セミナーに参加することが出願要件。入学後、グローバルセミナー入試試験および特別選抜入試試験の合格者を対象に「スタートナウセミナー」（2泊3日入学前教育プログラム）を実施。	カレッジマネジメント184号	募集要項 http://web.aiu.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2016/03/h29_senbatsuyoukou.pdf
佐賀大学		芸術地域デザイン	調査書、小論文および適性検査 適性検査⇒与えられたテーマでプレゼン資料作成（B3）、発表（3分）、質疑応答 なお、芸術表現は模擬授業「粘土を考える」を受講後粘土作り⇒粘土造形⇒プレゼンテーションおよび質疑応答 家庭分野は創立作成と調理など分野により内容は異なる	カレッジマネジメント184号	募集要項 http://www.sao.saga-u.ac.jp/PDF/h29/ao_youkou.pdf

事例収集情報源			選定基準							候補大学			入試データ										入試名称				
No	雑誌	有識者	学力の三要素			方策				地域	設置者種別	大学名	学生数 2016.5.1	2015年度					2016年度								
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性	選択式	記述・小論文	面接・討論・プレゼン	調査書					学修計画書	資格・検定の活用	2015年入学定員	2015年志願者数	2015年入学者数	2015年入学定員充足率	2016年入学定員	2016年志願者数	2016年入学者数		2016年入学定員充足率			
25	○			○			○	○	○			北海道東北	私立	札幌大学	2,726	900	2,080	-	698	78%	900	2,222	-	663	74%	その他	アクションプログラム特別入試
26	○											中国四国	国立	島根大学	5,376	1,157	5,210	3,881	1,193	103%	1,157	4,697	3,255	1,175	102%	一般、AO、推薦	地域貢献人材育成入試
27	○		○	○			○					関東甲信越	公立	首都大学東京	6,910	1,248	8,223	-	1,390	111%	1,248	8,481	-	1,358	109%	一般	一般入試
28	○		○	○			○			○		関東甲信越	私立	上智大学	12,634	2,801	31,740	31,125	2,932	105%	2,801	27,748	27,046	2,933	105%	一般	一般入試 (TEAP利用型)
29	○		○	○			○					北陸中部近畿	国立	信州大学	9,100	2,003	9,457	7,100	2,096	105%	1,978	8,660	6,732	2,076	105%	一般	一般入試
30	○		○	○			○					関東甲信越	公立	高崎経済大学	4,074	900	7,841	5,286	977	109%	900	8,456	5,716	981	109%	一般	一般入試
31	○		○	○			○					関東甲信越	国立	千葉大学	10,702	2,322	11,054	-	2,380	102%	2,322	12,182	-	2,372	102%	一般	一般入試
32	○		○	○			○					関東甲信越	国立	筑波大学	9,910	2,103	8,202	6,835	2,174	103%	2,102	8,140	6,763	2,183	104%	一般	一般入試
33	○			○			○	○		○		関東甲信越	国立	電気通信大学	3,650	790	4,022	3,117	837	106%	720	4,050	3,066	760	106%	推薦	UEC/エスポートプログラム
34	○		○	○			○					関東甲信越	国立	東京学芸大学	4,771	1,010	3,386	2,663	1,098	109%	1,010	3,450	2,691	1,097	109%	一般	一般入試
35	○		○				○	○		○		関東甲信越	私立	東京女子大学	3,958	890	9,145	8,894	1,003	113%	890	8,924	8,680	1,053	118%	AO	知のかけはし入学試験
36	◎		○	○	○		○	○	○	○		関東甲信越	国立	東京大学	14,047	3,063	12,384	9,083	3,144	103%	3,060	9,451	8,737	3,146	103%	推薦	推薦入試
37	○	●		○			○					関東甲信越	国立	東京大学	14,047	3,063	12,384	9,083	3,144	103%	3,060	9,451	8,737	3,146	103%	一般	一般入試
38	○			○			○	○				関東甲信越	私立	東京農業大学	11,716	2,520	31,233	30,525	2,855	113%	2,782	29,815	29,251	3,078	111%	推薦	模本武揚フロンティア入試

大学名	対象学部	学科	特徴・選考方法	参考資料	備考
札幌大学	地域造創学		オープンキャンパス開催時の体験イベントに参加し、前日までに課題等を提出する。 なお、入学後アクションプログラムへ参加する意欲があることが出願要件	カレッジマネジメント 184号	イベント参加⇒エントリー（課題送付）*検定料不要⇒課題提出⇒初回面談⇒出願⇒最終面談 入試要項： https://www.sapporo-https://www.sapporo-u.ac.jp/admission/exam_uni/action_exam.html
鳥根大学	法文学部、教育学部、総合理工学部、生物資源科学部		学部により入試の種類はAOや推薦入試Ⅱなどで異なる。 本入試は鳥根大が定めた要件（山陰地域高校卒業見込み者など）を満たしたのみ出願可能。 小論、プレゼン、面接、学力テスト、自然科学総合問題等 入学した学生は、ほかの学生同様に学部学科での教育を受ける一方で、COC人材育成コースの教育プログラムに参加しなければならない。	カレッジマネジメント 184号	地域貢献人材育成プログラムについて http://www.juce.jp/LINK/journal/1701/pdf/02_02.pdf
首都大学東京	理系		一般入試（地理） 理系 前期2016年 食糧問題をテーマにした問題。日本の野菜輸入量と自給率の推移、東京中央卸売市場におけるカボチャの入荷先、主要国の食料輸入量と輸送距離の3つのグラフが提示、グラフの分析力と推測力が求められる。 日本の野菜輸入量と自給率の推移のグラフからは、日本で1980年以降野菜の輸入量が増えているという、その変化が生じた技術的・経済的背景を説明させている。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究 地産追加掲載編	
上智大学	全学部		一般入試 TEAP利用型（世界史）2015年 権利の尊厳・人権宣言関連史をテーマとした問題。図版「球戯場の驚い」の歴史的背景を40字で説明することや、2つの史料を読み「人権」へのアプローチにおいて、イギリスとフランスのあいだに見られる相違を400字程度で説明することなどが求められる。 *TEAP型：事前に、アカデミック英語能力判定試験（TEAPあるいはTEAP CBT）を受験し、学科が設定している基準スコアを満たしていることが出願要件。TEAP利用型入試では、小論文、大論文が出される。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	TEAP利用型： http://www.sophia.ac.jp/static/teap/ 試験内容は、文章理解力、論理的思考力など、より総合的な学力到達度を測る
信州大学			一般入試（世界史） 前期2016年 16～18世紀半ばまでのアジアとヨーロッパの経済関係を問う問題。地図とグラフに触れながら16世紀から18世紀半ばまでのアジアとヨーロッパの経済関係について指定用語を利用し300字以内で説明すること、イギリス産業革命からアヘン戦争までのアジアとヨーロッパとの経済関係を300字以内で説明することが求められた。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
高崎経済大学	経済、地域政策		一般入試（政治経済） 前期2013年 死刑制度をテーマとした問題。死刑制度と政治についての政治制度・用語の確認、ならびに国際社会においてどのような状況であるかを200字以内で解答する。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
千葉大学			一般入試（日本史） 前期 戦前から古墳時代の社会、江戸時代の対外交渉、戦後の日韓関係を問う問題が出題された。 戦後の日韓関係を問う問題については、ボツダム宣言、日韓基本条約の2つの史料を見て、史料名称を解答すること、また史料をふまえて1945年から1960年代半ばまでの日本と朝鮮の関係を述べる問題が出された。	全国大学入試問題正解 地産追加掲載編	
筑波大学			一般入試（日本史） 前期 120分、全4問。史料を読んでの論述、あるいは指定用語を使用しての論述問題。いずれも400字以内で論述する。 テーマは、古代の租税制度（8.9世紀と10.11世紀の租税制度の違い）、建武の親政、17世紀から18世紀の産業の変化と社会への影響、明治初期の近代化と文明開化について。	全国大学入試問題正解 地産追加掲載編	
電気通信大学	情報理工学	情報理工学	面接・プレゼンテーション：高校等での理科に関する研究活動等について自ら作成したポスター（横90×縦120cm）による発表 実績：物理・化学・数学・情報科学分野における国際コンクールの日本代表選考会、自由研究方式コンクールの実績 なお、入学後「UECパスポートプログラム」への参加意欲があることが出願要件となる	カレッジマネジメント 197号	募集要項 http://www.uec.ac.jp/admission/e/pdf/h29suisen.pdf
東京学芸大学			一般入試（地理） 前期 グラフ・図表を読み取り論述する。 アフリカにおける栄養不足人口の割合、GDP、人口増加率、PKO実施国、地域について示された4つの地図を比較し、栄養不足人口の割合の地域的サイトその要因・背景を400字以内で論述する。地図の分析、関連性をよみとく必要がある。その他、グラフを読み解き論述する問題が出題されている。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
東京女子大学	現代教養学部		出願者の意欲・個性・学力・資質を出願書類、外部英語検定試験の成績、講義ノート、小論文、グループディスカッションおよび面接等により多面的・総合的に評価します。出願時までに習得した学力、および情報を整理分析する力、論理的に思考する力、課題を発見する力、リーダーシップ、自分の意見を表現する力などを評価します。 講義45分、小論文60分、グループディスカッション45分、面接（面接+数理科科目は数学の基礎学力検査90分）	カレッジマネジメント 201号	入試概要 http://office.twcu.ac.jp/univ/admissions/dept-admission/bridge/2017c_youkou.pdf
東京大学	法・経済・文・教育・教養・工・理・農・薬・医		学部により異なる （医学部健康総合科学科） 学部が求める書類：組織のリーダーの役割を証明する資料 A4 3ページ以内（5000字以内）、語学力、課外活動体験A4 5ページ以内（8000字以内）など1つ以上 面接・プレゼンテーション：高校等での各分野の研究活動等について自ら作成したポスター（A0版1枚、概要書A43枚）による発表 実績：各種コンテスト参加実績	カレッジマネジメント 197号	募集要項 http://www.u-tokyo.ac.jp/content/400043528.pdf
東京大学			一般入試（日本史） 前期2015年 江戸時代の物流をテーマに図表や文章を読み、江戸時代の産業・商品流通を問う問題。文章から仮説を立てること、読み取った情報を関連づけイメージする必要がある。なお本試験については、100字以内に要旨をまとめることが求められた。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
東京農業大学	生物産業		ES 1次：小論（60分、800字）+グループディスカッション 2次：プレゼンテーション（10分）+面接	カレッジマネジメント 184号	

大学名	対象学部	学科	特徴・選考方法	参考資料	備考
東北大学	文学部・理学部・工学部・農学部		1次：調査書 2次：面接、小論文、学科試験等	カレッジマネジメント197号	
東洋大学	文・経営ほか		一般入試（日本史） 2016年 バブル経済について、グラフを読み取る分析力が問われる問題。 日本の株価・地価の推移の図を見て、その状況が表す表現を選択する。 派遣労働の規制緩和等による格差拡大に関するグラフから読み取れる内容を選択するような問題が出題された。	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
徳島大学	生物資源産業		1次：調査書100点、志望動機書150点、学びの設計書150点 2次：集団討論300点、個人面接(口頭試問あり)300点 その他、センター試験を課す推薦入試Ⅱ<主体性・表現力重視型>、センター試験を課す一般入試<知識・思考力重視型>・<「確かな学力」重視型>がある	カレッジマネジメント184号	
徳島大学	生物資源産業		センター成績数学100、理科100、外国語100 1次：調査書100点、志望動機書100点、学びの設計書100点 2次：集団討論200点、集団面接200点	カレッジマネジメント184号	
長崎大学	多文化社会学部		センター+英語+総合問題+面接（オランダ特別コース受験者のみ） ⇒総合問題：文章・グラフ・地図・図表等を読み解き時論・解釈を展開するため、以下の能力を総動員することが必要 ①国語の授業で身につける読解力、思考力、文章力 ②地歴・公民の授業で身につける歴史の流れ・因果関係 ③「この地域はこんな地域」という地理的イメージ ④現代社会の仕組みや他者に対する倫理 ⑤数学や理科の学習を通して養われる数理的に物事を判断する力や論理的に推論する力	カレッジマネジメント197号	試験問題サンプル http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp/wp/wp-content/themes/mu/pdf/exam-shutsudairei.pdf (例) 「批判的・論理的思考力テスト(総合問題)」 ハーグ条約に関する次の事項説明、2つの関連記事、および①～③のデータを読み、問1～問5に答えなさい。
名古屋大学			一般入試（日本史） 前期2016年 古代・中世の経済をテーマとした出題。奈良時代の土地経営に関する4つの史料を参考にしながら説明を求められる問題などが出題された。 なお、史料は原文・短文で「義考令」「令義解」「令集解に引用された古記」などから引用され、それらを読み取ったうえで説明する必要がある。（80字程度）	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
新潟大学			一般入試（地理） 前期2016年 新旧の地形図を読み解く問題。2つの地形図を比較、検証し、違いを発見する分析力、仮説力を必要とする	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
日本大学	スポーツ科学、危機管理、国際関係、商、法、法2部		一般入試（地理） 気候地域、産業構造と立地、環境問題、アフリカの他誌 4テーマ、計45問、60分、選択式。 気候地域をテーマとした問題では、地図と地域の見て、「永久凍土が分布している地域」や「ある点で示される都市に多くの人が居住することになった背景」などを解答するなどの問題が挙げられる	全国大学入試問題正解 地理追加掲載編	
一橋大学			一般入試（政治経済） 前期2016年 120分 1975年から2014年までの完全失業率と消費者物価指数対前年上昇率を表した相関図と文章（会話形式）を読み問いに解答する。状況の分析、推測、またそれに対する意見を250字以内で論述することが求められる。	全国大学入試問題正解 2017年年度採用政経	
藤田保健衛生大学	全学部		1次：高校時代の活動をまとめたアクティブレポートと国際適性に関わる英語力の評価 2次：科学適性に関わる学力試験（理科系能力）とグループディスカッション	カレッジマネジメント184号	
法政大学	文(地理)		一般入試（地理） 2016年 インドの地図をテーマに、インド独立後のGDP成長率の推移を示すグラフと問題文を読み論述する。 〔問題〕「1980年代をはずみGDP成長率の急激な変動幅が小さくなっている原因として考えられることを論述せよ」 ※解答欄範囲内、110字程度	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	
北陸大学	経済経営学部		コンピテンシー（行動特性）評価型 趣旨説明（評価シートの説明等）→プロジェクト・アドベンチャー研修→振り返り→個人シート記入→面接 ※プロジェクト・アドベンチャー研修⇒1日（6時間）の研修を行い、受講生の主体性・協働力を評価。評価方法は受講生自身がプログラムでの経験を振り返り、自己評価を行うこと。また教員による観察評価が加味される。評価はルーブリックを活用する。 ※評価の対象・・・ES、調査書、自己評価シート、観察シート、面接	カレッジマネジメント201号	
北海道大学			一般入試（地理） 前期2014年 地形図の読図をテーマとした出題。地形図の範囲を示した地図から、農牧場における特産物を推測し、その理由が問われた。（指定された文字数は少ない）	全国大学入試問題正解 思考力問題の研究	

No	事例収集情報源		選定基準							候補大学			入試データ													
	雑誌	有識者	学力の三要素			方策				地域	設置者種別	大学名	学生数 (2016.5.1)	2015年度					2016年度					入試種別	入試名称	
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性	選択式	記述・小論文	面接・対話・プレゼン	調査書・履修報告書					学修計画書	資格・検定等の活用	2015年入学定員	2015年志願者数	2015年受験者数	2015年入学者数	2015年入学定員充足率	2016年入学定員	2016年志願者数	2016年受験者数			2016年入学者数
52	○		○	○		○	○	○			北陸中部近畿	私立	松本大学	1,524	320	743	734	383	120%	320	796	787	400	125%	AO	AO入学試験
53	○					○					関東甲信越	私立	武蔵大学	4,592	930	14,570	14,292	1,147	123%	950	14,570	14,292	1,227	129%	一般	全学部統一グローバル型
54	○							○			関東甲信越	私立	武蔵野大学	8,219	1,928	-	-	2,143	111%	2,008	21,677	20,076	2,139	107%	その他	武蔵野BASIS入試
55	◎		○	○	○	○	○	○			中国四国	国立	山口大学	8,744	1,917	7,780	5,618	1,987	104%	1,917	7,377	5,396	2,005	105%	AO	講義力等理解力試験
56	○		○	○	○	○	○	○			北陸中部近畿	私立	立命館大学	32,580	7,034	91,315	-	7,562	108%	7,114	98,652	-	7,824	110%	AO	法學セミナー方式
57	◎		○	○	○	○	○	○			北陸中部近畿	私立	立命館大学	32,580	7,034	91,315	-	7,562	108%	7,114	98,652	-	7,824	110%	AO	フィールドワーク方式

大学名	対象学部	学科	特徴・選考方法	参考資料	備考
松本大学	全学部		AO入試で授業を聞かせて、メモをとらせ、それをもとにして記述させ、口頭で質問する形式。授業内容は学科の専門基礎的なものに限定。 〔例〕教育学部※4月新設 エントリー：エントリーシート提出 1次選考：模擬授業+確認テスト（60分、午前・午後2回） 出願：出願書類提出 2次選考：筆記試験（小論文）、集団討論、個人面談 集団討論→「教育」に関する課題をテーマとして少人数で実施する	カレッジマネジメント184号	概要について：http://www.matsumoto-u.ac.jp/admission-guidelines/university/ao/type4.php
武蔵大学			学部学科が指定する英語資格・検定試験（4技能）の基準を満たしていれば、「選択」「国語」のうち得意な1科目で受験が可能（マークシート）。1回の試験で最大8学科まで同時出願可能。	カレッジマネジメント201号	
武蔵野大学	法・経済・文・人間科学		教員による模擬授業やグループワークに参加しながら、自己基礎力を育成する新しいタイプの入試制度。受験生が課題やグループワークに取り組みながら、どれだけ成長したかを評価し、各学科が求める人材をスカウトする。課題・グループワーク・プレゼンテーション等の評価を経て出願した方は、ほぼ100%合格となる。基礎セルフディベロップメントを取り入れた育成型入試。 事前課題→8月オープンキャンパスで模擬授業受講→1次審査：課題→10月グループワーク参加→出願可否決定 〔例〕人文学部 講義90分、レポート90分。理解・分析・論理思考力・表現力・APへの適合性を評価 （過去取り扱ったテーマ） 人文社会：守護地蔵の成立をめぐる諸問題、繪とは何かについて考える、江戸時代の災害と飢饉、消費社会と豊かさの考え方 言語文化学：ゲルマン語における英語の特制の特徴、古文獻の解読、漢字の歴史及び東アジア各国における漢字の受容について 〔例2〕経済学部 講義90分、レポート90分。その後課題を提示し、課題に関するグループディスカッション25分実施。リーダーシップ、理解力、表現力、積極性等を評価 行政サービスの民営化・民間委託、為替と通貨、ODAについて、貧困削減と経済成長 等	カレッジマネジメント184号	
山口大学	人文学、教育学等		〔例1〕人文学部 講義90分、レポート90分。理解・分析・論理思考力・表現力・APへの適合性を評価 （過去取り扱ったテーマ） 人文社会：守護地蔵の成立をめぐる諸問題、繪とは何かについて考える、江戸時代の災害と飢饉、消費社会と豊かさの考え方 言語文化学：ゲルマン語における英語の特制の特徴、古文獻の解読、漢字の歴史及び東アジア各国における漢字の受容について 〔例2〕経済学部 講義90分、レポート90分。その後課題を提示し、課題に関するグループディスカッション25分実施。リーダーシップ、理解力、表現力、積極性等を評価 行政サービスの民営化・民間委託、為替と通貨、ODAについて、貧困削減と経済成長 等	カレッジマネジメント184号	http://nyushi.arc.yamaguchi-u.ac.jp/ao/dat/ao_kakothemaH25_H28.pdf
立命館大学	法学部		教員による講義（60分）、質疑応答（20分）、レポート作成（60分） 判断基準：講義や資料の内容を的確に理解して整理し、自分の考えを論理的かつ明確に表現する力を評価する →過年度の講義テーマ： 「コビデ」をめぐるさまざまな問題、人々の忠誠感と刑法の厳罰化、比例定数削減と選挙制度、衆議院解散権の所在、「法律」と「条例」～秋田県議会の挑戦～、自由な社会における犯罪予防の課題 等	大学時報368号 p28-29	出題意図等 http://ritsnet.ritsumei.jp/admission/archive/asset/2016/ao/law1.pdf
立命館大学	文学部	地域研究学域	キャンパス内外での実施。観察したもの、記録したものを整理し、的確に記述・表現する能力およびフィールドワークの前提となる基礎的学力・知識の程度を評価する 〔2日目フィールドワークの内容〕対象地域について地図をよく読み込み、そこから得られる情報に基づいて、限られた時間内に対象地域を歩いて地域の特徴を把握する。そして当該地域の土地利用や景観などの地域の特性を総合的に考えまとめる試験。	大学時報368号 p28-29	出題意図等 https://ritsnet.ritsumei.jp/admission/archive/asset/2015/ao/r16.pdf その他、映像学部「課題作成・プレゼンテーション方式」、政策科学部「政策科学セミナー方式」等、学部により色々な選考方法がある

2. 第4回高大接続改革フォーラム意見交換内容

●歴史の選択科目は日本史探究と世界史探究の単位数が減るが、教える内容は変わるのか。思考力を育てたいが、教える量が膨大なので時間がとりにくい

⇒まだ、動向しか議論していない。暗記する量は減ると想定されるが、正式な学指導要領の内容を保証はできない。総合学習とは連携するだろう。

⇒政治の本質とは、同意形成、意思決定ではないか。それを生徒に理解してもらえるようアクティブラーニングの導入等教え方を変革する考えがある為単位数を減らしているのではないか。

●学び取る力について探究テストがあれば各大学はやる必要がないのではないか

⇒それでは意味がなくなる。探究を取り入れるならば、受験に取り入れる。

●評価テストだけなのか、ほかの方法はあるか

⇒受験において「考える問題」をスキップされることは問題だと考えている。未知の資料を見て考えて回答を出すような問題も重要なのではないか。受験業界はこのことを考慮して指導に当たってもらえればと思う。

⇒探究科目についてはぜひ勉強してほしい。一見受験要素に含まれないとみられるかもしれないがこれからの受験においては「やったことのない問題」に対して今までの知識技能を活かして取り組むことが重要と考えられるし、入試改革によってそれをやった生徒が評価されるような問題を作る流れにもなっている。ぜひそのような面を含めてしっかり学ぶということを意識してもらえればと考える。

●今後記述式の必要性についてどう考えるか

⇒記述の問題を作成する可能性については残したい。同志社大学政策学部基礎テストのような例も存在する。そのような方向性が、先にあったような「考える問題」に対しての取り組みを進めるものではないかと考えている。

●イギリスの GCE のような記述を中心としたテストのようなもの可能性について検討しているのか

⇒文科省からは何でも考えてほしいといわれている。ただ早稲田大学政治経済学部の 2002 年入試の際記述問題を盛り込んだところ 1000 人の答案を 3 人で採点したところ 6 日間を要した例がある。さらに多い受験者数の面を考えると時間面について検討が必要と考えている。

⇒資料を論理的に組み立てる問題など記述でなくても論理を見ることができる問題を策することは可能と考えている。

⇒一般的な視点から見て、全てを記述式にするということは一般入試では難しいのではないか。ただ、不可能ということではなく AO などの形式で考えられるということもある。

●地歴公民の客観性についてどう考えていけばよいのか新しいカリキュラムは主体性を強調しているがその中で客観性を確保していけばよいのか

⇒主体的という表現は主観的ということではない。他者のことを自分事として考えることが主体的でありその点において客観性は重要である。このような教育をしていく為の手法としてアクティブラーニング等を検討していきたい。

●この入試改革事業に京都大学が入っていない。このような大学が新しい方法を見つけた方式で受験を行うことについてどう考えているのか

⇒大学や学部ごとの入試方法の自由度は高い。出題については各大学検討を重ねていると考える。高難易度化についての指摘もあるが、満点を取ることが重要なのではなく授業についてこられる分の学力（センター入試）に個性として光る部分を見せられれば十分という考えもある。

⇒個人的な感想だが、京都大学の数学入試に関しては、自分で考えれば解ける問題を出している。毎年、大学入試後、兵庫や大阪の高校の先生方と入試の懇談会を実施しているが、京都大学は、教科書に載っていないが頭を働かせれば解ける問題を出しているの、これから必要とされる「思考力」を課す入試を先取りしている印象を受ける。

●探究などの新教科について教える人材育成は大学などで進んでいるのか

⇒大学の役割としてはまだまだこれからでありリカレントで学び直していかなければならないと考えている。

●科目を超えたチームティーチは可能か

⇒現実的には難しい。できれば理想的だと思うが現場では科目間のバランスが偏っている。

●受験における社会科の科目について地理がないなど偏りが存在していると感じる。このことについてどう考えるか

⇒社会科の入試について地理を含め再検討していきたい。大学としては地理の先生も含め検討に入ってもらっている。

3. 第2回ワークショップアンケート結果

1. 次期学習指導要領において必修化される地理歴史科・公民の科目についてお聞きます。

1-1.「歴史総合（仮称）」に関して、文部科学省から出された科目概要を読んでいますか。

項目	回答数	%
全体	47	100.0%
1 読んでいない	7	14.9%
2	2	4.3%
3	14	29.8%
4	17	36.2%
5 読み込んで対応を議論している	6	12.8%
無回答	1	2.1%

1-2.「地理総合(仮称)」に関して、文部科学省から出された科目概要を読んでいますか。

項目	回答数	%
全体	47	100.0%
1 読んでいない	13	27.7%
2	5	10.6%
3	9	19.1%
4	15	31.9%
5 読み込んで対応を議論している	4	8.5%
無回答	1	2.1%

1-3.「公共(仮称)」に関して、文部科学省から出された科目概要を読んでいますか。

項目	回答数	%
全体	47	100.0%
1 読んでいない	13	27.7%
2	4	8.5%
3	13	27.7%
4	13	27.7%
5 読み込んで対応を議論している	3	6.4%
無回答	1	2.1%

1-4.上記科目に対する教科指導上の課題があればご記入ください。

- 1) 上記 3 科目が「時代の要請」に基づくものである事は十分に理解している。しかし、高校現場で総合 3 科目と探究科目のカリキュラムマネジメントが極めて困難となる点（カリキュラムのハード面）と教育内容の整備、AL のような手法と教育内容面での高校教員のスキルアップへの援助（カリキュラムのリフト面）で対応が必要であるのではないのでしょうか。
- 2) 本日、質問にも出ていましたが、教員側（高校）の意識改革と具体的な手法の修得のための研修を急ぐことがとても大事だと感じました。正直現場は生徒指導や部活指導等であまり余裕はなく、強制されなければやらない教員がほとんどです。管理職も看過していると思います。是非、教育委員会への働きかけも積極的に行っていただければと思います。上記の科目概要はすぐにでも入手して、目を通したいと感じています。
- 3) 教員の意識改革。
- 4) 本来、生活をしていく上で考えさせたいこと、世界とつながる上で考えさせたいことなど多くあり、アクティブラーニングを含めて、授業でやりたいことはいろいろあるのですが、入試対応も最重要課題であり、中堅私立高校としては、（入試 合格）実績で無視するわけにはいかないの、大学入試の方向性を早く知りたいと思います。特に中学部を持っている関係で、中学生の授業にもそのことを反映させる必要があり困っています。
- 5) 不安はあるが問題はない。
- 6) 2 単位の日本史 A と世界史 A を 2 単位の合科目にし、かつアクティブを取り入れて、本当に近世から現代まで終わる内容にできるのか。各社の教科書の内容に統一性は見られるのか。
- 7) 教員の専門性と指導する内容が少しずつれてしまうのではないかという危惧がある ex. 歴史総合を日本史専門の教員が教えるのか、世界史専門なので大きくずれるのでは。
- 8) ・地理専門の教員が少ないことが不安です。（本校に関して） ・地理が知識つめこみの授業ではなく、歴史とも関わりながら、今後の社会に出てから真に役立つ知識や考えさせるおもしろさを感じられる授業になっていくことが興味深い。 ・教員の意識を変えることは難しいのでは。ある程度の時間が必要。
- 9) アクティブラーニングの指導法 →これをどう評価するのか？
- 10) 地理総合について GIS、防災など柱があるが、基礎的な知識がないと十分に学ぶことができないのではないかと。特に系統地理的にしっかり学ぶことなく、技術の習得に特化するような内容になると判断力や思考力につながる学びになるかどうか疑問です。
- 11) ・Geo Capabilities.org のようなサイトの紹介をどんどん教科書とかに掲載してもらいたい。 ・教員の研修をして欲しい。（義務で） Active Learning のことを全く知らない教員が多いので困る。
- 12) 日本史・世界史それぞれを専門に教えている教員が多く、歴史総合として両方の要素を授業に取り入れることに不安を感じている。このままだと若干の教員が歴史総合を、古くからいる教員が日本史探究、世界史探究を教えるという形に落ち着いてしまいそうです。
- 13) アクティブラーニング等に対する教師間の能力及び意欲の温度差が課題と感じています。
- 14) 時間割の都合などもあって、チームティーチングは難しいです。人員不足
- 15) 教科全体として、特にまだ検討しておりません。
- 16) 授業時間数の確保。理科で基礎科目が必修になった時にも問題になったが、社会でも歴史総合、地理総合、公共が必修となり、その上に探究科目が入る場合に既存の時間割り枠組み（他教科を含む

時間数)の中でどう組み込んでいくべきか、という課題。また、基礎(総合)重視となった場合に現場がそれに追われ、生徒の負担も増えた場合に本来アクティブな教科として重視される芸術(美術・音楽)、保健体育、情報教育が割を食うことはないか。

- 17) 基礎教科として存在意義は充分にあると思うが、発展科目(探究科目)との接続性など、まだ内容が不確定なので動きようがない部分もある。何よりも社会科(地理・歴史)発展科目が3単位を評準とするということなので、カリキュラム上、かなり厳しい部分があると思われるが…。
- 18) 生徒を指導する立場にありませんが、知識・技能の網羅性と思考・判断・表現の育成のバランスのとり方において、入試のあり方(問題)が大変重要であると思います。
- 19) 教科書見本が出てこないと多くの先生は何も考えない。文科省から出ている内容は、皆さん本気で読んでいない。全体でなくても良いので、教科書サンプルを早く出せないか？
- 20) 1.日本史専門の先生が「歴史総合」の世界史の部分でどう教えるか。 2.「地理総合」のGIS 3.「公共」の概念・倫理部分(先哲の思想)をどこまで扱うか。
- 21) 大学入試対策との関係で、どの程度授業に理念通り反映できるかが不明。大学入試改革の具体化を早期に発表されたい。
- 22) 具体的な対応に移りたいものの、議論を始めていく段階と考える。
- 23) 新聞報道程度しか知らなくてすみません。

2.次期学習指導要領において必修化される地理歴史科・公民科の科目の大学入試に関してお聞きします。

2-1.大学入試に対する期待感はどの程度ありますか。

項目	回答数	%
全体	47	100.0%
1 ない	1	2.1%
2	4	8.5%
3	16	34.0%
4	12	25.5%
5 ある	12	25.5%
無回答	2	4.3%

2-2.大学入試に対する意見があればご記入下さい。

- 1) 大学入試が実際にどれだけ変化するか次第で、現に変わり始めている大学もありますので、期待しています。
- 2) 現状でアクティブラーニングをしるという圧力はあるけれども、新テストまで毎年変わらず知識偏重型の内容のため、生徒はそのやり方を望むため、ジレンマです。少しずつでも現状のテストを変えて欲しいです。
- 3) 入試が変わらないと高校の授業は変わらないとの声は根強い。高校側にも責任はあるが、やはり大学入試の役割は大きい。

- 4) 実際に、知識、読解力、分析力以外に考察・表現を問うのは難しいと思いますが、せめて知識偏重ではなく読解力、分析力を重視する問題を中心にしていただければ、新科目に対応しやすい。(東京大学 2 次のような問題は、生徒の理解や分析力を高めるには、題材として利用しやすいが、早稲田大学や一橋大学の問題は、知識重視(用語集をどこまで細かく覚えているか)を感じます。
- 5) 論理的思考、表現力を問う出題は各大学可能と考えるが、採点等を考慮すると難しいのではないか。
- 6) 入試改革に関して「歴史統合」「地理統合」「公共」の必修科目の内容を理解していることを前提として、「世界史探究」の試験が作成されるようなお話にあせりを感じた。「この問題は地理だけど歴史は必修だから、分かるはずだね？」というお話がありました。そんなことが生徒にできるのか不安になった。能力の高くない(ひたすら努力によって偏差値の高い大学に合格しようとしている)生徒にとっては、厳しい入試になる。思考力などは、能力の高くない生徒にとって獲得することは容易ではないと教員をしていて実感している。ある程度は伸ばすことはできると思うが、爆発的に伸ばすことはできず、能力に合った大学を選んであげることになってしまわないか不安。これから授業中生徒への働きかけ(進路指導の在り方)をよく考えていかなければならない。
- 7) 変更を早めに教えていただけると助かります。
- 8) 難関私立の設問の大きな変化に期待します。
- 9) 大学入試が変われば、高校の授業や評価が大きく変わると思います。そのことの不安もあるので、今後の高・大接続はますます必要だと感じました。
- 10) 東京大学などの難関大学がどんな入試を出すかが全てだと思います。例えば、理科(化学基礎+物理基礎で 100 点)のように評価テスト(センター試験)で地理総合+歴史総合で 100 点みたいな形にすると現場でやらざるをえなくなると思います。
- 11) 各大学の独自性が追求されると却って教えること考えなければいけないことが多岐に渡るのではないかと思います。
- 12) 環境問題について、必ず出す！とかすれば生徒に勉強させられます。スターガイドに教えるべきこと(ex)移民がいるのかとか女性の活用とか地球汚染とか。
- 13) 2 単位の必修科目の理解がないと合格できないような大学入試になることが大切だと思います。その際、比較分析や関係性の理解をはかるために入試問題を記述、論述式にすることは 1 つの方法だと考えます。私大では記述論述式の問題導入についてどのように考えているのでしょうか。
- 14) 受動的な社会の中で、思考力・理解力・記憶力すらも低下している子ども達が増えている(感のある)現状において、それを無視して高度なことを求められてもというのが本音です。良問を少しずつ増やす程度の改革の方が良いかと思っています。
- 15) 一部の大学の改革に対応することと、その他の多くの入試(従来型)にも対応するという二本立てになる。やるなら私大も含めて一斉にやって欲しい。
- 16) 田中先生のお話で「公共」などを学ばせる方法としての調査書の評定を利用するのは反対です。絶対評価でなく、相対評価をとっているケースも多く、他校と比べてしっかり学んだ生徒も、校内では、低い評定の生徒もいる。→また、1 年次に悪い評定の生徒は道を断たれてしまう。

- 17) 地歴重視型のシステム定着により、本校でも公民科軽視の弊害があらわれています。新たな「公共」、新倫理・政経への期待感は強く、大学側でも、高校教育のあり方、さらには真の人材育成という観点から大胆な改革を希望します。
- 18) 東京大学をはじめとして、どこまで入試改革が実現可能なのか疑問があります。モデル問題を見てみないとわかりませんが、どの程度踏み込んだ入試問題作成とその実現性（操作方法、評価方法などの運用）が可能か？
- 19) 客観性と公平性の担保・思考か判断力・表現力も最低限の「知識」が必要。・田中先生のおっしゃった、全科目出題が難しいとする中での「内申書（調査書）3以上」という基準は危険。「2」がつけられなくなる懸念。・地理の話で出てきたポスターセッションや地理オリンピックは、今後国公立でも増えていくであろう推薦入試で取り入れる（受験資料の1つなど）べきではないか。
- 20) 私大か国公立個別試験のレベルで必修科目が単独で入試科目として認められるのか疑問である。センター（大学入学希望者評価テスト）のみの使用ならば理系生徒だけということにならないか？講演の中でそうではないと力説されていましたが、多くの大学で足並みがそろうのでしょうか？
- 21) 今日のお話にあったとおり、高校の学習内容や方法論は大学入試に従属すると思います。（現在は知識を詰め込むだけで精一杯です）その意味からも、高校との意見交換を密にしてつくって欲しいと思います。また、逆に高校への要望などあればお知らせくだされば対応してまいります。
- 22) 高校教育への影響が大きいので、生徒の思考・判断・表現を適切に測る入試問題になることで、知識偏重の現場教育を改善するような方向に導いて欲しい。
- 23) 歴史・地理の探究（4単位）を入試科目から外せないのか？全員必修3科目すべて出題すれば良いと思うが…。学校の評定「3」未満は足切りなどは問題外である。（できない！）
- 24) 進学校より一歩下がった偏差値50前後の高校において、アクティブラーニングを取り入れながら、新しい入試に対応することが可能なのか不安です。知識を活用するために知識をつけなければいけないと思いますが、まずそこが困難な子どもたちもいるので。
- 25) 現場の多忙さ、大学入試の多様化への対応（保護者のニーズが背景）が、簡素化されないと、理念先行になり、具体化・現実化は難しい。
- 26) どこまで変えることができるのか、疑問が残る。センター地理のような問題は何人もの先生が1年以上かけて作問されています。何学部もの問題作成が改革できるのか。
- 27) アクティブラーニングの実践と大学入試の接続がよく見えません。でもアクティブはやれといわれます。現場はつらいです。
- 28) 科目横断型の問題や思考を問う問題がどれほどの割合で実施されるのか、その本気度、改年度が現場に作用されます。その点でいうと現時点では入試問題というメッセージは今までと変わった印象を受けません。すると、現場での動きは重くならざるを得ません。ドラスティックに"変化した"というものを見せてもらう中心になって欲しいと思います。
- 29) アクティブラーニングで学んだ、身につけた学力を大学入試ではどのように反映させるのか。
- 30) 今回の改革が、（指導要領の改訂、入試改革）によって輩出された学生が社会環境とかい離しないことを望みますが…。新たな社会を作ってくれることを望みます。入試改革が社会への改革につながることを期待したいです。

3.地理歴史科・公民科において、貴校で独自の教育を実施されていればご記入下さい。

● 地理（地理情報システム（GIS）を用いた教育など）

- 1) GIS 実習（中学生対象）を実施
- 2) ipad を用いた調べ学習、またグラフや資料を提示したアクティブラーニング
- 3) 奴隷解放宣言の原文読解とリンカンの政策について。
- 4) 夏期講習の充実。現代史を中心に歴史・地理・公民を積極的に学ぶ。
- 5) 高3 選択科目で GIS を一部指導している。ハード・ソフトの両面で大変に苦労している。フィールドワークも実施している。
- 6) 現在、地理科目がありません。
- 7) 大項目 1（地図と地理情報システムの活用）に対する教材づくり。
- 8) 一部クラスにて探究授業を実施

● 世界史・日本史（グローバルヒストリーに基づいた横断的な教育など）

- 1) 個人の裁量に任されている。つまり、教員がどれだけ学べるかによる。
- 2) 1 つの事件から背景を探る授業など
- 3) 夏期講習の充実。現代史を中心に歴史・地理・公民を積極的に学ぶ。
- 4) できていない。世界史の現代史を別科目として全教員に担当して頂いているが、教員の歴史理解が不十分。
- 5) 電子黒板を導入して、ビジュアル資料・史料を活用している。
- 6) 高校 1 年次の世界史 A にて実施
- 7) 専門が日本史だが、世界史を主で教えているので、繋げて指導している。

● 公民（シティズンシップ(市民性)教育など）

- 1) 貿易ゲーム、模擬国連実施
- 2) デベートや模擬投票など
- 3) 友人が埼玉県上尾東中学校でグローバルシティズンシップ教育をやっており、ルワンダ人を招いたり、とても面白いがコストが…。うちではムリ。
- 4) 模擬投票の実施
- 5) ゲーム理論などの双方向授業展開
- 6) 主権者教育の充実（選管の人を招いてお話を聞き、模擬投票やマニフェストの比較、発表を行う。）
- 7) 授業では、高3 全員に副教材（主権者教育）を行っているだけ。※SGH の取り組みでシティズンシップ教育を行っている。
- 8) 電子黒板を導入して、ビジュアル資料・史料を活用している。
- 9) 歴史の学び方、比較・模型化など←英・仏の教科書も参考に。
- 10) 高校 1 年次の現代社会で、倫理分野の源流思想と現代の諸事象を関連付けての多面的思考力の涵養。

4.本日のワークショップに関する感想をご自由にお書きください。

- 1) 現場の先生方の懸念をしっかりと受け止めて、この事業を推進させ、大学入試の在り方、ひいては社会科教育（高校現場での）の在り方につなげて頂ければと思います。大変勉強になりました。
- 2) 新テストだけでなく、新科目の概要もよくわかりました。
- 3) 具体的な問題を提示した地理の報告が面白かった。あれが本当に思考力を問う問題と言えるのか。そうした議論が必要。
- 4) とても勉強になりました。ご講義いただいた大学の先生方以外にも参加されている高校の先生方と意見を交換しあう場があればと思います。
- 5) 貴重な意見を聞くことができ、ありがとうございます。AL 及び評価については、まだ議論の余地があると思います。更なる深化を自他ともに求めたいです。
- 6) まだまだ不透明な部分が多く不安。
- 7) 大学の教授内容等もふまえ、高校で教える内容が増加した際、大学側にご協力いただける部分があるのか気になりました。全体として興味深く、また参加してみたいと思います。
- 8) 初めて、参加させて頂きましたが、大学サイドと中高の現場の歩み寄りがさらに必要と思います。こうした機会をこれからも設けて頂けるとありがたいです。
- 9) 2022 年の学習指導要領についてほとんど知識がなく、アクティブラーニングについても、必要とはおもいながらも現場ではあまり実践されていないのが現状です。入試の改革とともに高校も変わらないといけないと痛感しました。
- 10) 参考になりました。ありがとうございました。
- 11) 大変参考になりました。改革に取り組んでいるなか、実際の早稲田の入試問題がどういう目的（出題意図）で、出されているのか興味がわきました。
- 12) 地理については具体的事例もあり、大変参考になりました。2017 年度はじめにはモデルが出るとのことでしたので、その際には、またこのような時間を設けて頂ければと思います。観点別評価に関しても勉強会が必要だと思っています。SGH 甲子園の議論なども是非公開していただきたいと思います。
- 13) SAT + ハーバード式面接にするといいなーと思いますが、恐ろしく才能のある人は伸びていく一方、普通の人の常識が欠如する怖さがあり、迷いが生じています。教える本に「共有地の悲劇」をゴシック体太字で出す工夫 1 つで多分「公共」の困難は解決しそうに思います。
- 14) 改革が目指す方向性がより明確になりました。ありがとうございました。
- 15) 具体的な生徒への質問例がとてもわかりやすくなった。
- 16) 大学と高校をつなぐとても良い事業だと思います。大学側の考えを知ることができ、貴重な機会でした。
- 17) 地理の具体例が非常にイメージできる内容でした。前回、大阪の会でも書きましたが、様々な活動に携わることができればと考えていますので、宜しくお願い致します。
- 18) 非常に感心いたしました。大学側から入試改革を中心にお話されていましたが、高校教員に求められる役割も大きいと思いました。そのため、今回の内容を学校に持ち帰り、高校教師間で深く議論すべきであると思いました。

- 19) 2単位必修科目を3つやらせるのは高1が良さそうだが、時間割を組むことはできないと思いますが、どの様に考えているのか?理科も2単位必修科目が3つあるので、おそらく高1・高2の中でもおさまらない。
- 20) ややALの話に偏ってしまったが、新しい「評価手法」(大学入試の内容に反映されないと高校の授業に変化が生まれないのでは?)の研究について、もっと話を聞きたかった。
- 21) アクティブラーニングに話が終始(意見交換会)したのは、やや残念でした。
- 22) 現場の意見をもっと吸い上げて欲しいですが、このような機会を増やして頂きたいと思います。
- 23) 田中先生のご講演のなかで、従来のA科目が重視されていないという話がありましたが、その理由としては ①B科目の内容がA科目を包含しているため(Aの独自性はそもそも少ない) ②A科目は入試科目として課されていない(Aのレベルでは大学側も不十分としている) 高校教育の実態やテストの理論をふまえた問題作成については、お手伝いできる点があると思います。是非、お声がけいただければと思います。生意気なことを書かせていただくと、田中先生や秋元先生のお話は大変わかりやすく、興味深いものと思いましたが、あまり今までと大きく変わるものではない。(今までもすべてではないが、わりと実践されている)ようにうけとめられました。今後の検討と思いますが、そのさらに先が求められているのではないのでしょうか。
- 24) 秋本先生のお話が参考になりました。歴史・地理・公民の垣根を取り払うことが大切だと思いました。そうでないと、「役に立つ」科目にならないと思います。
- 25) 現場の教員として今回の講演に参加させて頂きまして、これからこういった授業・評価をとっていきべきか考えることができました。アクティブラーニングの実施については肯定的で、社会の面白さ・必要性を伝える上で重要だと思っています。入試を変える事で、教育を変える。そのためには教員が変わらなくてはいけないですし、全員が変わるのか不安ですが、今から考え、動くべきだと思いました。ありがとうございました。
- 26) 学習指導要領の改訂のポイントを具体的事例を挙げながら説明して頂き、高校教育にどのように生かしていけば良いかというヒントをつかむことが出来ました。
- 27) 高大接続改革の本質的なねらい、入試改革や学習指導要領改革とのつながりがよくわかった。・「地理総合」に向けた入試問題の良問が大変参考になった。(秋本先生) ・「公共」の概念思考(囚人のジレンマ)などの重要性とあらためて感じた。(田中先生)
- 28) 本日は貴重なかつ具体的な話を聞くことができ、大変有意義なワークショップでした。担当教科が英語のため、専門外の教科に関するワークショップではありましたが、非常に勉強になりました。現行の入試問題の検証は今後の改革の行く先を予見するような参考になる提案でした。
- 29) 文科省の方々の説明より具体的な実践例(田中先生の“三権分立”“TPP”、秋本先生の“CO2”等)が伺えて参考になった。
- 30) 秋本先生のお話は大変興味深かった。地理が楽しく学べる(教える)ヒントを頂いた。
- 31) まだ明確な枠組みはできていないということですね。大変難しい課題ですのでこれからの調査研究の取り組み、成果に期待しております。今日のお話の中にも授業を変えていくヒントがたくさんあったと思います。ありがとうございました。
- 32) 今後も検討していかなければいけないため、是非参加していきたい。

- 33) 入試改革（どういう学力・思考を問うのか）と評価の在り方、入試改革と日本の構造的な“受験”マーケットとの関係の両方の議論が必要と感じました。
- 34) 次の指導要領の目玉である AL は評価をつけるがとても難しいというのが現場の捉え方です。内申書で受験資格を分けるというお話がありましたが、その点は現場にとっても大きなポイントになります。大きなアナウンスをお願いします。
- 35) 本日、参加し聞いた内容を今後の教育に活かしていきたい。
- 36) 色々と勉強になりました。
- 37) 参考になりました。
- 1) 随分先の話だと思っていた改革が、目前に迫ってきた感を持ちました。個人的には中等教育支援に勤務することになり、本校で前期課程生（中学）からの 6 年間の現状を是非、見直してみたいと思っています。考えるヒントが山ほどあったので、帰って他の教員と議論したいと思います。ありがとうございました。（久しぶりの母校という気軽な気持ちで来ましたが大変に勉強になりました。）

本報告書は、文部科学省の大学入学者選抜改革推進委託事業委託費による委託業務として、学校法人早稲田大学が実施した平成28年度「高大接続改革に資する、思考力・判断力・表現力等を問う新たな入学者選抜（地理歴史科・公民科）における評価手法の調査研究」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。